

授業科目	論理学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	東北学院大学非常勤講師 小原 拓磨			
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. ものごとの筋道を順序立てて考えるための論理的な思考能力を身につけること。 また、ものごとを論理的に言い表すための表現能力を身につけること。			
授業計画	回	内容		方法
	1	イントロダクション：論理的に考えるとは？		講義
	2	命題と推論（１）		講義
	3	命題と推論（２）		講義
	4	否定（１）二重否定と矛盾		講義
	5	否定（２）排中律と反対		講義
	6	連言と選言		講義
	7	消去法と条件法（１）		講義
	8	消去法と条件法（２）		講義
	9	三段論法（１）		講義
	10	三段論法（２）		講義
	11	逆、裏、対偶（１）		講義
	12	逆、裏、対偶（２）		講義
	13	対偶論法（１）		講義
	14	対偶論法（２）		講義
	15	筆記試験とフィードバック		
テキスト	プリントを配布します。			
参考文献	適宜、紹介します。			
授業方法	講義・演習形式			
評価方法	筆記試験（100 点）で評価します。			
履修上の アドバイス	毎回の授業では問題を実際に解いていきます。自分で頭をうごかしてものごとを論理的に考える習慣をつけましょう。			

授業科目	物理学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	福島医科大学医学部 自然科学講座 講師 小澤 亮			
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. 医療・看護現場に役立つ援助技術を物理学的視点でみることができる。			
授業計画	回	内容		方法
	1	物理量を計る		講義
	2	モノの動きを捉える（速度と加速度）		講義
	3	力のかかり方（合力、分力）		講義
	4	運動の法則		講義
	5	熱量・比熱		講義
	6	体位変換（トルク）		講義
	7	浮力、比重		講義
	8	圧力・気圧		講義
	9	電気		講義
	10	音波、音量、音程		講義
	11	光の波長		講義
	12	光、電磁波		講義
	13	身の回りの放射線		講義
	14	放射線科学		講義
	15	終講試験・まとめ		
テキスト	新体系 看護学全書 基礎科目 物理学，メヂカルフレンド社			
参考文献				
授業方法	講義を中心とする。必要に応じて問題の演習および実習を行う			
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。			
履修上の アドバイス	授業中行われる演示実験などにも注視すること。 演習課題は評価の対象とするので、授業時間内に積極的に解き進めておくこと。 不明な点はなるべく授業中に質問して解決すること。			

授業科目	情報通信技術（ICT）			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当講師	情報システム運用課 事務職員 / 専任教員 芳賀洋平				
履修時期	1 学年 前期～後期	単位数・時間	1 単位 20 時間		
授業目標	1. 情報社会について理解するとともに、情報セキュリティなど情報と倫理について学ぶ。 2. インターネットの概念、パソコンの基本的操作（Word・Excel）などコンピュータの基本技術を習得する。 3. 情報処理の基本的技術を活用し、研究発表など自分の考えや情報を伝達する方法を身につける。				
授業計画	回	内容		方法	担当
	1 2	1. 情報と情報社会 1) 情報の定義と特徴 （1）情報とは何か （2）情報の特性 （3）情報の認知と意思決定 （4）情報の伝達とコミュニケーション 2) 社会と情報 （1）情報社会の成立と発展 （2）情報社会で求められること		講義	専任教員
	3 4	2. 情報と倫理 1) コンピュータリテラシーとセキュリティ （1）コンピュータに関する基礎的知識 （2）インターネットに関する基礎知識と注意点 3. 情報処理の実際 1) 既存の情報の収集方法 （1）文献検索 （2）インターネット上で役立つ情報へのアクセス （3）データ検索と利用 2) 白河厚生総合病院サーバー室見学 3) 電子カルテの実際		講義 演習	情報システム運用課 事務職員
		5 6	4) Excel による統計解析 5) Word による文書作成 6) 統計処理の概要		
	7 8 9	4. プレゼンテーションの方法 1) パワーポイントの基本操作 2) テーマに沿ったパワーポイントの作成 5. プレゼンテーションの実際 テーマに沿ったプレゼンテーションの実際		講義 演習 GW	専任教員
					演習 GW
	10	終講試験・まとめ			
	テキスト	看護情報学 医学書院			
参考文献					
授業方法	講義・演習形式（タブレット端末操作による講義・演習形式）				
評価方法	終講試験（50 点）・プレゼンテーション発表（50 点）、計 100 点で評価する。				
履修上の アドバイス	タブレット端末を使用するため、使用可能な状態で準備しておく。				

授業科目	人間発達学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	東京芸術大学名誉教授 河野 義章			
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. 人間に共通した発達課題や成長・発育段階が説明できる。			
授業計画		回	内容	
		1	オリエンテーション、自己開示とは	
		2	なぜ発達を学ぶのか	
		3	発達段階の見方 反抗期・身体の発達	
		4	青年期Ⅰ 発達課題	
		5	青年期Ⅱ 進路	
		6	青年期Ⅲ 愛と性	
		7	乳幼児期Ⅰ	
		8	乳幼児期Ⅱ	
		9	成人前期Ⅰ 家庭をつくる準備	
		10	成人前期Ⅱ 夫婦関係① 親になる	
		11	成人期Ⅰ 親子で学ぶ	
		12	成人期Ⅱ 夫婦の関係②	
		13	老人期Ⅰ	
		14	老人期Ⅱ	
		15	終講試験・まとめ	
テキスト	河野義章：心理学Ⅰ その理論と方法，川島書店 河野義章：心理学Ⅱ その応用，川島書店			
参考文献				
授業方法	講義形式			
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。			
履修上の アドバイス	講義に真剣に臨んでもらいたい。			

授業科目	心理学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☐根拠に基づいた看護を実践する力 ☐看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力
担当講師	東京芸術大学名誉教授 河野 義章			
履修時期	1 学年 前期～後期	単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. 人間を統合的に捉え、人間理解を深める心のしくみや働きが説明できる。			
授業計画	回	内容		
	1	心理学を学ぶにあたって		
	2	5つの心理学		
	3	欲求の心理①		
	4	欲求の心理②		
	5	性格の心理学①		
	6	性格の心理学②		
	7	記憶の心理学		
	8	学習の心理学		
	9	集団の心理学		
	10	知能の心理学		
	11	家族の心理学		
	12	災害の心理学		
	13	コミュニケーションの心理学①		
	14	コミュニケーションの心理学②		
	15	終講試験・まとめ		
テキスト	河野義章：心理学Ⅰ その理論と方法、川島書店 河野義章：心理学Ⅱ その応用、川島書店			
参考文献				
授業方法	講義形式			
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。			
履修上の アドバイス	講義に集中して臨み、復習をしておくこと。			

授業科目	人間関係論		
担当教員	公認心理師・臨床心理士 木村 巳代子		
履修時期／単位	1 学年前期	1 単位 30 時間	
授業目標	良好な人間関係を成立させるための基本を理解する。		
	回	内容	方法
	1	オリエンテーション・アイスブレイク・表現の違いのエクササイズ	講義・演習
	2	信頼関係作り（ブラインドウォーク） 愛着・愛着形成・エリクソンの発達段階	講義・演習
	3	自己理解・自己認知・自己概念・自分についてのワーク * 課題発表	講義・演習
	4	コミュニケーション概論・非言語コミュニケーション コーチングの理論とスキル	講義・演習
	5	傾聴（リスニングスキル）・共感・自我防衛機制	講義・演習
	6	患者との関係・感情コントロール・リフレクション プロセスレコード	講義・演習
	7	対人関係・葛藤・役割・バイアス・アンバランス認知 不合理な思考・論理療法 * 課題提出	講義・演習
	8	対人行動・説得的コミュニケーション・攻撃・援助	講義・演習
	9	集団・同調・リーダーシップ ICT（情報通信技術）の発達とコミュニケーション	講義・演習
	10	アサーティブコミュニケーションの理論・DESC 法	講義・演習
	11	アサーティブコミュニケーション実践① *課題のプレゼンテーション発表	講義・演習
	12	医療におけるチーム・チームワーク・コミュニケーションエラー 多職種連携・アサーティブコミュニケーション実践②	講義・演習
	13	家族を含めた人間関係論・ソーシャルサポート	講義・演習
	14	* 課題のプレゼンテーション実演	
	15	講義のまとめ・終講試験（50分）	
テキスト 参考文献	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論, 医学書院		
授業方法	講義・演習・グループワーク		
評価方法	出席率・レポート提出・プレゼンテーション・グループワーク・筆記試験100点で評価		
履修上の アドバイス	この授業では、人間関係とコミュニケーション、特に医療・看護場面におけるコミュニケーションの特徴について、体験学習的な要素を取り入れながら理解することを目的としています。現場で役に立つ実践が出来るよう主体的・積極的な授業参加が求められます。コミュニケーションが苦手でも方法論を学び練習をすれば出来るようになります。		

授業科目	社会学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 自ら学び成長し続ける力
担当講師	仙台大学 体育学部 健康福祉学科 客員教授 千葉喜久也			
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30時間	
授業目標	1. 社会の構造と機能を学び、社会的存在としての人間について説明できる。			
授業計画	回	内容		
	1	序章、オリエンテーション		
	2	人間（ひと）とは何か		
	3	家族と価値について		
	4	地域社会		
	5	職業と職場集団		
	6	現代社会の形成過程		
	7	社会問題と政策的対応		
	8	社会調査		
	9	看護と社会とコミュニケーション		
	10	死の認識と終末期ケア		
	11	専門職の概念		
	12	専門職と職業倫理		
	13	まとめ1 看護職の労働		
	14	まとめ2		
	15	終講試験		
テキスト	新体系 看護学全書 基礎科目 社会学，メヂカルフレンド社			
参考文献				
授業方法	主に講義形式			
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。			
履修上の アドバイス	真剣に講義に臨んで欲しい。			

授業科目	倫理学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	福島大学教授 小野原 雅夫			
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. 命の尊さ、人権を尊重することの大切さについて理解し、倫理観に基づいた考えのもとに行動できる姿勢を身につける。			
授業計画		回	内容	
		1	汝自身を知れ	
		2	倫理学とは何か？	
		3	人間とは何か？	
		4	表現する動物	
		5	死んだらどうなるのか？	
		6	患者さんに「死んだらどうなる」と聞かれたら	
		7	新しい死の概念	
		8	人の死とは何か？	
		9	死なせてあげるべきか	
		10	究極のパターナリズム	
		11	理想の死に方	
		12	SOLとQOL	
		13	看護と倫理	
		14	看護師の誓い	
		15	終講試験・まとめ	
テキスト	使用する場合は、後日提示する。			
参考文献	内田詔夫編：ホスピスの理想，金港堂			
授業方法	主に講義形式			
評価方法	課題点（3 割）、終講試験点[レポート]（7 割）で評価する。 提出期限内に課題が提出できなかった場合は、総合点から 3 点減点とする。			
履修上の アドバイス	講義を大切に、真剣に臨んで欲しい。			

授業科目	英語			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	英会話講師			
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. 日常生活で使える簡単な英語によるコミュニケーションと病院における基本的英会話を身につける。 2. 病気の症状や健康状態についての日常会話を身につける。			
授業計画	回	内容		
	1	1 unit1 May I help you? ・初診受付の流れを学ぶ① ・症状を伝える基本の表現を学ぶ 第 1 章 第 2 章 ・症状に関するもの		
	2	2 Unit2 Where do you live? ・初診受付の流れを学ぶ② ・初診登録に必要な表現を学ぶ 第 3 章 ・診断に関するもの		
	3	3 Unit3 Do you have an insurance card? ・初診受付の流れを学ぶ③ ・保険に関する表現を学ぶ 第 4 章 ・手術に関するもの		
	4	4 Unit4 What department do you want to visit? ・患者を案内する ・各診療科の名称を学ぶ 第 5 章 第 13 章 ・筋・骨格系 ・病院外来編		
	5	5 Unit5 What are your symptoms? ・患者の症状を聞く ・風邪症状の表現を学ぶ 第 6 章 ・神経・感覚器系		
	6	6 Unit6 Take one tablet three times a day ・薬の処方について学ぶ ・服薬指示の表現を学ぶ 第 7 章 第 13 章 ・呼吸器 循環器系		
	7	7 Unit7 You' re suffering from hay fever ・診察の流れを学ぶ ・アレルギー症状の表現を学ぶ 第 8 章 ・消化器系		
	8	8 Unit8 What kind of pain is it? ・外科診療の流れを学ぶ ・痛みを表す表現を学ぶ 第 9 章 第 13 章 ・尿生殖器系		
	9	9 Unit9 Let' s check your daily activities ・問診の流れを学ぶ ・生活習慣を伝える表現を学ぶ 第 10 章 第 11 章		
	10	10 Unit10 Let' s check your pulse and blood pressure ・診察前の計測を行う ・計測に関する表現を学ぶ 第 13 章 ・病棟、病室の表現		
	11	11 Unit11 It' s going to be a long day ・患者に検査をすすめる ・精密検査に関する表現を学ぶ 第 14 章 ・入院時の表現		
	12	12 Unit12 You have high blood sugar levels ・検査結果を説明する ・数値を伝える表現を学ぶ 第 14 章 ・バイタルサイン測定時、採血時の表現		
	13	13 Unit13 You need to control your diet ・患者に入院をすすめる ・健康指導の表現を学ぶ 第 14 章 ・点滴静脈内注射時、術前術後の表現		
	14	14 Unit14 You need to be hospitalized ・入院前の説明を行う ・入院に関する表現を学ぶ Unit15 Keep on walking for exercise ・退院後のアドバイスを行う ・健康維持に関する表現を学ぶ 第 14 章 ・患者さんのケア、退院時の表現		
	15	終講試験・まとめ		
テキスト・参考文献	樋口晶彦 John Tremarco 著: Check-Up! Basic English for Nursing 基礎から学ぶ やさしい看護英語, 金星堂 津波古澄子/マリオン・ソボスキー 著: 基本の 101 語を組み合わせる学ぶ医学英語, 日本看護協会出版			
授業方法	講義・演習中心 (CD 使用)			
評価方法	筆記試験 (100 点) で評価する。			
履修上のアドバイス	講義に集中して臨み、予習・復習をしておくこと。			

授業科目	形態機能学Ⅰ			
	細胞・組織・器官・呼吸器系		循環器系	
[ディプロマポリシー(DP)との関連]	☒ 人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☒ 根拠に基づいた看護を实践する力 ☐ 看護を通じて地域で活躍する力 ☐ 自ら学び成長し続ける力			
担当講師	総合診療科医師 / 看護師 竹内崇人		循環器内科医師 / 看護師 竹内崇人	
単位数・時間	1 単位 30 時間			
履修時期/時間	1 学年 前期/15 時間		1 学年 前期/15 時間	
授業目標	1.細胞の構造と機能、遺伝について理解する。 2.呼吸器系のしくみと働きを理解する。		1.循環器系のしくみと働きが説明できる。	
	回	内容	方法	担当
	1	1. 構造と機能からみた人体 1) 構造からみた人体 2) 機能からみた人体 3) 体液とホメオスタシス	講義	医師
	2 3	2. 呼吸と血液のはたらき 1) 呼吸器の構造 ①呼吸器の構成 ②上気道 ③下気道と肺 ④胸膜・縦隔	講義	医師
	4 5 6	2) 呼吸 ①内呼吸と外呼吸 ②呼吸器と呼吸運動 ③呼吸気量 ④ガス交換とガスの運搬 ⑤肺の循環と血流 ⑥呼吸運動の調節	講義	医師
	7	看護に活かす形態機能学 ～呼吸～	講義	看護師
	8	終講試験		医師
	回	内容	方法	担当
	1	1. 血液の循環とその調節 1) 循環器系の構成 2) 心臓の構造 ①心臓の位置と外形 ②心臓の4つの部屋と4つの弁 ③心臓壁 ④心臓の血管と神経	講義	医師
	2 3	3) 心臓の拍出機能 ①心臓の興奮とその伝播 ②心電図 ③心臓の収縮	講義	医師
	4	4) 末梢循環系の構造 ①血管の構造 ②肺循環の血管 ③体循環の動脈 ④体循環の静脈	講義	医師
	5 6	5) 血液の循環の調節 ①血圧 ②血液の循環 ③血圧・血流量の調節 ④微小循環 ⑤循環器系の病態生理 6) リンパとリンパ管 ①リンパ管の構造 ②リンパ管の循環	講義	医師
	7	7) 血液のまとめ ①血液の組成と機能 ②赤血球 ③白血球 ④血小板 ⑤血漿タンパク質と赤血球沈降速度 ⑥血液の凝固と線維素溶解 ⑦血液型	講義	看護師
	8	終講試験		医師
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院			
参考文献	松村譲児：人体解剖ビジュアル からだの仕組みと病気, サイオ出版			
授業方法	講義中心			
評価方法	細胞・組織・器官・呼吸器系/循環器系それぞれで終講試験を行い、平均点を評価点とする。			
	終講試験 100 点		終講試験 100 点	
履修上のアドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。			

授業科目	形態機能学Ⅱ								
	神経系				運動器系・感覚器系				
[ディプロマポリシー ー(DP)との関連]	☒ 人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☒ 根拠に基づいた看護を実践する力 ☐ 看護を通じて地域で活躍する力 ☐ 自ら学び成長し続ける力								
担当講師	脳神経外科医師 / 脳神経内科医師				整形外科医師 / 専任教員 柳沼美穂子				
単位数・時間	1 単位 30 時間								
履修時期/時間	1 学年 前期/15 時間				1 学年 前期/15 時間				
授業目標	1.中枢・末梢神経系のしくみと働きが説明できる。				1.運動器系・感覚器系のしくみと働きが説明できる。				
授業計画	回	内容	方法	担当	回	内容	方法	担当	
	1	内臓機能の調節 1) 自律神経による調節 ①自律神経の機能 ②自律神経の構造 ③自律神経の神経伝達物質と受容体	講義	脳神経外科医師	1	1. 身体の支持と運動 1) 骨格 ①人体の骨格 ②骨の形態と構造 ③骨の組織と組成 ④骨の発生と成長 ⑤骨の生理的な機能	講義	医師	
	2	情報の受容と処理 1) 神経系の構造と機能 ①神経細胞と支持細胞 ②ニューロンでの興奮の伝導 ③シナプスでの興奮の伝導 ④神経系の構造	講義		2	2) 骨の連結 3) 骨格筋 4) 体幹の骨格と筋	講義		
	3 4 5	2) 脊髄と脳 ①脊髄の構造と機能 ②脳の構造と機能 (脳幹、小脳、間脳、大脳、脳室と髄膜、脳脊髄液の循環) 3) 脊髄神経と脳神経 ①脊髄神経の構造と機能 ②脳神経の構造と機能	講義		3	5) 上肢の骨格と筋 6) 下肢の骨格と筋 7) 頭頸部の骨格と筋 8) 筋の収縮	講義		
	6 7	4) 脳の高次機能 ①脳波と睡眠 ②記憶 ③本能行動と情動行動 ④内臓調節機能 ⑤中枢神経系の障害	講義		4	2. 情報の受容と処理 1) 運動機能と下行伝導路 2) 感覚機能と上行伝導路	講義	専任教員	
	8	終講試験		5	3) 目の構造と視覚 4) 味覚と嗅覚	講義			
				6	5) 疼痛 6) 耳の構造と聴覚・平衡覚	講義			
				7	3. 外部環境からの防御 1) 皮膚の構造と機能 2) 生体の防御機構 3) 体温とその調節	講義			
					8	終講試験		医師教員	
	テキスト	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院							
	参考文献	松村譲児：人体解剖ビジュアル からだの仕組みと病気, サイオ出版							
	授業方法	講義中心							
	評価方法	神経系/骨格筋系・感覚器系それぞれで終講試験を行い、平均点を評価点とする。							
		終講試験 100 点				終講試験 100 点			
	履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。							

授業科目	形態機能学Ⅲ					
	消化器系・内分泌系		泌尿器系・生殖器系・発生学			
[ディプロマポリシー ー(DP)との関連]	☒ 人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☒ 根拠に基づいた看護を実践する力 ☐ 看護を通じて地域で活躍する力 ☐ 自ら学び成長し続ける力					
担当講師	第一内科医師 / 第三内科医師		泌尿器科医師 / 専任教員 志田淳子			
単位数・時間	1 単位 30 時間					
履修時期/時間	1 学年 前期/15 時間		1 学年 前期/15 時間			
授業目標	1.消化器系、内分泌系のしくみと働きが説明できる		1.泌尿器系、生殖器系のしくみと働きが説明できる。			
授業計画	回	内容	担当	回	内容	担当
	1 2 3 4	1. 栄養の消化と吸収 1) 口・咽頭・食道の構造と機能 ①口の構造と機能 ②咽頭と食道の構造と機能	第一内科医師	1 2 3 4	1. 体液の調節と尿の生成 1) 腎臓 ①腎臓の構造と機能 ②糸球体の構造と機能 ③尿細管の構造と機能 ④傍糸球体装置 ⑤クリアランスと糸球体濾過量 ⑥腎臓から分泌される生体活性物質	医師
		2) 腹部消化管の構造と機能 ①胃の構造・機能 ②小腸の構造・機能 ③栄養素の消化と吸収 ④大腸の構造・機能				
		3) 脾臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ①脾臓 ②肝臓と胆嚢の構造 ③肝臓の機能				
		4) 腹膜 ①腹膜と腸間膜 ②腹膜と内臓の位置関係 ③胃の周辺の間膜				
	5 6 7 8	2. 内臓機能の調節 1) 内分泌系による調節 ①内分泌とホルモン ②ホルモンの化学構造と作用機序 2) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 ①視床下部一下垂体系 ②甲状腺と副甲状腺 ③脾臓 ④副腎 ⑤性腺	第三内科医師	5 6 7 8	2. 生殖・発生と老化のしくみ 1) 男性生殖器 ①精巣（睾丸） ②精路（生殖路）と付属生殖腺 ③男性の外陰部 ④男性の生殖機能	専任教員
		3) ホルモン分泌の調節 ①神経性調節 ②物質の血中濃度による自己調節 ③負・正のフィードバック				
		4) ホルモンによる調節の実際 ①ホルモンによる糖代謝の調節 ②ホルモンによるカルシウム代謝の調節 ③ストレスとホルモン ④乳房の発達と乳汁分泌 ⑤高血圧をきたすホルモン				
		終講試験			第一内科医師 第三内科医師	
	テキスト	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院				
参考文献	松村譲児：人体解剖ビジュアル, 医学芸術社					
授業方法	講義中心					
評価方法	消化器系・内分泌系/泌尿器系・生殖器系・発生学でそれぞれ筆記試験を行い、平均点を評価点とする。					
	終講試験 100 点		終講試験 100 点			
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。					

授業科目	臨床生化学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☐看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力
担当講師	福島医科大学 名誉教授 橋本康弘 福島医科大学 教授 北爪しのぶ			
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. 生命維持に必要な物質のしくみと働きが説明できる。			
授業計画	回	内容		担当
	1	イントロダクション 糖質 構造と機能		北爪
	2	脂質 リポタンパク質		北爪
	3	タンパク質		北爪
	4	酵素 ビタミン		北爪
	5	エネルギー代謝Ⅰ		北爪
	6	エネルギー代謝Ⅱ		北爪
	7	水 無機質		橋本
	8	ポルフィリン代謝		橋本
	9	核酸 構造と機能		北爪
	10	遺伝情報 複製・修復		北爪
	11	遺伝子多型 ゲノム理論 転写 翻訳		北爪
	12	シグナル伝達 がん		北爪
	13	活性酸素 抗酸化物質		橋本
	14	病態生化学 まとめ		橋本
	15	まとめ 試験		橋本/北爪
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 生化学 人体の構造と機能②, 医学書院			
参考文献				
授業方法	講義中心			
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。			
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。			

授業科目	病態生理学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☐看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力																												
担当講師	病理センター長 野沢佳弘																															
履修時期	1 学年 前期～後期	単位数・時間	1 単位 26 時間																													
授業目標	1. 疾病の成り立ちを学び、対象の身に生じている機能的変化、生理的機能のゆがみの仕組みを理解できる。																															
授業計画	<table><tr><td>回</td><td>内容</td><td>方法</td></tr><tr><td>1</td><td>【病態生理学を学ぶための基礎知識】 病理の役割と疾病</td><td rowspan="13">講義</td></tr><tr><td>2</td><td>疾病の成り立ちと病因</td></tr><tr><td>3</td><td>再生と修復</td></tr><tr><td>4</td><td rowspan="2">循環障害</td></tr><tr><td>5</td></tr><tr><td>6</td><td>炎症</td></tr><tr><td>7</td><td>中間試験</td></tr><tr><td>8</td><td>炎症</td></tr><tr><td>9</td><td rowspan="2">腫瘍</td></tr><tr><td>10</td></tr><tr><td>11</td><td>奇形</td></tr><tr><td>12</td><td>総まとめ</td></tr><tr><td>13</td><td>終講試験・まとめ</td></tr></table>				回	内容	方法	1	【病態生理学を学ぶための基礎知識】 病理の役割と疾病	講義	2	疾病の成り立ちと病因	3	再生と修復	4	循環障害	5	6	炎症	7	中間試験	8	炎症	9	腫瘍	10	11	奇形	12	総まとめ	13	終講試験・まとめ
回	内容	方法																														
1	【病態生理学を学ぶための基礎知識】 病理の役割と疾病	講義																														
2	疾病の成り立ちと病因																															
3	再生と修復																															
4	循環障害																															
5																																
6	炎症																															
7	中間試験																															
8	炎症																															
9	腫瘍																															
10																																
11	奇形																															
12	総まとめ																															
13	終講試験・まとめ																															
テキスト	新体系 看護学全書 別巻 病態と診療の基礎, メヂカルフレンド社																															
参考文献																																
授業方法	講義中心																															
評価方法	筆記試験を中間（100 点）と終講時（100 点）に行い、平均点で評価する。																															
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。																															

授業科目	臨床微生物と感染症			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	臨床検査技師			
履修時期／時間	1 学年 前期～後期	単位数・時間	1 単位 26 時間	
授業目標	1. 病原微生物の種類が理解できる。 2. 病原菌の定着と感染の違いを理解し、人体の感染防御能に関する概念を理解できる。 3. 各種感染症と起炎菌の関係を学び、各種抗菌薬の抗菌作用について理解できる。			
授業計画	回	内容		方法
	1	【微生物の基礎】 微生物と微生物学		講義
	2	細菌の性質 真菌の性質		
	3	原虫の性質 ウイルスの性質		
	4	【感染とその防御】 感染と感染症		
	5	感染に対する生体防御機構		
	6	感染源・感染経路からみた感染症		
	7	滅菌と消毒		
	8	感染症の検査と診断 治療 現状と対策		
	9	【病原細菌と細菌感染症】 病原細菌と細菌感染症		
	10	病原真菌と真菌感染症		
	11	病原原虫と原虫感染症		
	12	病原ウイルスとウイルス感染症		
	13	終講試験・まとめ		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④, 医学書院			
参考文献				
授業方法	教科書に準じて、講義中心に進める。			
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。			
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。			

授業科目	臨床薬理学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☐看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力	
担当講師	薬剤師 / がん化学療法認定看護師				
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 26 時間		
授業目標	1. 薬剤の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解できる。 2. 化学療法時の看護について理解できる。				
授業計画	回	内容		方法	担当
	1	【薬理学総論】 薬理学を学ぶにあたって 薬理学の基礎		講義	薬剤師
	2	【薬理学各論】 抗感染症薬			
	3	抗がん剤・免疫治療薬 関節リウマチ治療薬 痛風治療薬			
	4	抗アレルギー薬 抗炎症薬			
	5	末梢での神経活動に作用する薬物			
	6	中枢神経系に作用する			
	7	循環器系に作用する薬物①			
	8	循環器系に作用する薬物②			
	9	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物			
	10	物質代謝に作用する薬物			
	11	皮膚科用薬・眼科薬 救急の際に使用される薬物・漢方薬・消毒薬			
	12	化学療法時の看護 1) 全身機能・骨髄抑制のアセスメントと対処 2) 抗がん剤投与の管理とケア 3) 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施（演習）		講義 演習	がん化 学療法 認定 看護師
	13	終講試験・まとめ			薬剤師
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院				
参考文献	実習ですぐ使えるくすりの知識 照林社				
授業方法	講義中心				
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。				
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。				

授業科目	臨床栄養学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☐看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力
担当講師	管理栄養士 / 栄養サポートチーム専門療法士			
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 26 時間	
授業目標	1. 栄養学の基礎的知識を理解できる。 2. 健康障害の治療に関する食事療法について理解できる。 3. チームで取り組む栄養管理を学び、看護師の役割を理解できる。			
授業計画	回	内容	方法	担当
	1	栄養素・必要栄養素の計算方法・栄養アセスメントの重要性・生活習慣病とは・メタボリックシンドロームの診断基準・医療制度	講義	管理栄養士
	2	栄養状態の評価・判定法 (上腕周囲長・皮下脂肪厚の実測・膝高計測)		
	3	栄養素の種類とはたらき(炭水化物・脂質・たんぱく質)		
	4	たんぱく質・ビタミン・ミネラル・水・食品のエネルギー 体内のエネルギー・エネルギー代謝の測定・エネルギー消費・栄養素の消化		
	5	消化器系の働き・栄養素の吸収		
	6	肝臓の働き・代謝産物の排泄・栄養ケアマネジメント		
	7	ライフステージと栄養①(乳児・幼児・学童期)	演習	
		ライフステージと栄養②(妊娠・授乳・更年期)		
	8	ライフステージと栄養③(高齢者)		
	9	臨床栄養・病院食 栄養指導の実際パンフレットの作成(演習)		
	10	疾患別食事療法の実際①(循環器疾患:高血圧・動脈硬化・心疾患)	講義	栄養サポートチーム 専門療法士
	11	疾患別食事療法の実際②(消化器疾患:胃腸・肝臓・胆のう・膵臓)		
	疾患別食事療法の実際③(代謝疾患)			
12	チームで取り組む栄養管理	講義	栄養サポートチーム 専門療法士	
13	終講試験・まとめ		管理栄養士	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 栄養学 人体の構造と機能③, 医学書院 新体系 看護学全書 別巻 治療法概説, メヂカルフレンド社			
参考文献				
授業方法	講義中心			
評価方法	筆記試験(100 点)で評価する。			
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。調理実習行う場合もある。その際は必要物品を確認すること。			

授業科目	機能障害と治療概論Ⅰ (臨床検査・臨床放射線・リハビリテーション)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	臨床検査技師① / 臨床検査技師② 臨床検査技師③ / 放射線技師 言語聴覚士 / 理学療法士 / 専任教員			
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間	
授業目標	1. 臨床検査について理解できる。 2. 放射線療法について理解できる 3. 画像診断について理解できる。 4. リハビリテーションについて理解できる。			
授業計画	回	内容	方法	担当
	1	【臨床検査】 検査の進め方と各種検査法(検体の取り扱い(血液・尿等)含) (一般・血液・生化学・内分泌・感染症・免疫学・腫瘍マーカー)	講義	臨床検査技師①
	2	心電図検査	講義	臨床検査技師②
	3	肺機能検査・超音波検査	講義	臨床検査技師③
	4	【臨床放射線】 1) 放射線療法の目的とその適応 2) 放射線療法の種類と特徴 3) 画像診断 4) MRI 事故体験・被ばく予防策の実施	講義 演習	放射線技師
	5	放射線療法	講義	専任教員
	6	【リハビリテーション】 リハビリテーションの実際①	講義 演習	理学療法士
	7	リハビリテーションの実際②(言語療法士)	講義 演習	言語聴覚士
	8	終講試験		専任教員
テキスト	新体系 看護学全書 別巻 病態と診療の基礎, メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 別巻 治療法概説, メヂカルフレンド社			
参考文献				
授業方法	講義中心			
評価方法	筆記試験(100 点)で評価する。			
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。			

授業科目	健康を支える公衆衛生			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 自ら学び成長し続ける力	
担当講師	県南保健福祉事務所所長 / 県南保健福祉事務所 白河市中心保健センター / 専任教員 芳賀洋平				
履修時期/時間	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	生活者の健康維持・増進を目的とした保健行政を学び、看護師の役割を理解する。				
授業計画	回	テーマ	内 容	方法	担当
	1	健康危機管理	1) 健康危機管理 2) 保健所の役割	講義	県南保健福祉事務所所長
	2	公衆衛生のエッセンスと活動対象	1) 公衆衛生とは、歴史 2) プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション 3) 看護職の公的責任と活動対象 4) ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ	講義	専任教員
	3	環境と健康	1) 地球規模の環境と健康 4) 2) 身のまわりの環境と健康	講義	専任教員
	4	食と公衆衛生	1) 食品安全確保対策 2) 食品衛生管理制度 3) 輸入食品の安全管理 4) 食中毒予防	講義	県南保健福祉事務所
	5	感染症対策	1) 感染症法とその対策予防 2) 公衆衛生上の重要な感染症とその対策	講義	県南保健福祉事務所
	6	公衆衛生のしくみ	1) 政策展開 2) 国と地方自治体の役割 3) 専門職のはたらき 4) 住民との協働	講義	白河市中心保健センター
	7	地域保健	1) 母子保健の実際 2) 成人保健の実際 3) 高齢者保健の実際	講義	白河市中心保健センター
	8	終講試験			
テキスト	専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度②(医学書院)				
評価方法	終講試験 100 点				
履修上のアドバイス	現在の国民の健康の状況や社会情勢を意識し、必要な情報を収集しておくこと。 テキストはしっかり読んでおくことが重要である。 *第7章 国際保健は看護実践マネジメントの国際看護で学ぶ。 *第8章 地域における公衆衛生の実践 精神保健、歯科保健、障害者保健・難病保健活動は各領域の看護学で学ぶ。 *第9章 学校と健康は小児看護学で学ぶ。 *第11章 健康危機管理・災害保健は災害看護学で学ぶ。				

授業科目	暮らしと社会福祉			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	社会福祉士① / 社会福祉士② / 社会福祉士③			
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間	
授業目標	1. 社会福祉と医療、社会保障の関連について学び、福祉の専門職の役割りと連携の必要性を理解する。			
授業計画	回	内容	方法	担当
	1	生活と福祉 社会保障の概念（ノーマライゼーション）・歴史・制度体系 高齢者の施策 地域の状況	講義	社会福祉士①
	2	医療保険制度	講義	社会福祉士①
	3	介護保険制度	講義	社会福祉士①
	4	年金保険制度 労働保険	講義	社会福祉士②
	5	社会福祉の歴史 社会福祉援助技術	講義	社会福祉士②
	6	生活保護法と施策 児童福祉と施策	講義	社会福祉士③
	7	障がい者福祉施策 精神障がい者施策	講義	社会福祉士③
	8	終講試験・まとめ		社会福祉士①
テキスト	新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉，メチカルフレンド社			
参考文献	国民衛生の動向 2023/2024，厚生労働統計協会（8～9 月発行）			
授業方法	講義中心			
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。			
履修上のアドバイス	開講から終講まで期間が長いので、随時復習しておくこと。 講義には集中して臨むこと。			

授業科目	健康と医療			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	学院長 前原和平			
履修時期	1 学年 前期～後期	単位数・時間	1 単位 15 時間	
授業目標	1. 現代医療の動向と諸問題が説明できる。			
授業計画		回	内容	
		1	医学・医療のあゆみ 1) 医学の歴史 2) 医療の基盤 3) 疾病と健康	
		2	健康と疾病 1) 健康の概念 2) 疾病 3) 生活と健康	
		3	医学と医療 1) 医学と医療 2) 現代医療の本質 3) 医療の実践	
		4	わが国の医療供給体制 1) 医療供給体制の現状と整備の経過 2) 医療関係者の現状と養成の実態 3) 医療保障の現状と課題	
		5		
		6	現代医療における諸問題 1) 医療の進歩と医の倫理 2) 医療における患者の権利 3) 病状（真実）告知 4) 脳死と臓器移植 5) 死の生命保持、安楽死、死を共有する医療	
		7		
	8	終講試験（50 分）		
テキスト	新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論，メヂカルフレンド社			
参考文献				
授業方法	講義中心			
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。			
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。			

授業科目	看護と法			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当講師	事務職員 与儀桂 / 事務長 湯澤仁志				
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	1. 看護職に必要な法規について学び、看護職としての法的責任を理解する。				
授業計画	回	内容		方法	担当
	1	1. 法律の基礎知識 2. 健康支援と法律		講義	事務職員
	2	3. 看護活動に直接・間接に関与する法とその理解 1) 医事法規 ①保助看法 ②医師法・歯科医師法 ③医療法 ④臓器の移植に関する法律 ⑤その他		講義	
	3 4	2) 保健衛生法規 ①感染症法 ②結核予防法 ③健康増進法 ⑤地域保健法 ⑥栄養士法 ⑦健康保険法 ⑧国民健康保険法 ⑨高齢者の医療の確保に関する法律 ⑩介護保険法 ⑪厚生年金保険法		講義	
	5	3) 薬事法規 ①薬剤師法 ②薬事法 ③独立行政法人医薬品医療機器総合機構法 ④毒物及び劇物取締法 ⑤麻薬及び向精神薬取締法 ⑥あへん法 ⑦覚せい剤取締法 ⑧安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律		講義	
	6	4) 生活衛生法規 5) 社会福祉関連法規 ①社会福祉法 ②障害者基本法 ③障害者自立支援法 ④生活保護法 ⑤身体障害者福祉法 ⑥知的障害者福祉法 ⑦社会福祉士及び介護福祉法		講義	
	7	6) 労働関連法規 ①雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律 ②労働基準法 ③労働安全法 ④労働者災害補償保険法 ⑤雇用保険法 ⑥介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律		講義	事務長
	8	筆記試験（50 分）			事務職員
	テキスト	新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度④ 関係法規, メヂカルフレンド社			
参考文献					
授業方法	講義中心				
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。				
履修上のアドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。				

授業科目	看護学概論			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当教員	専任教員 秋山朋子 / 専任教員 志田淳子				
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間		
授業目標	1. 看護活動の本質を理解する。 2. 看護師の責務から看護の役割と機能を理解する。 3. 看護の法と責任をもとに看護倫理を理解する。 4. 看護活動の場を理解し、保健・医療・福祉における看護師の役割を理解する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	ワークブックで学ぶナイチンゲール看護覚え書	看護学概論で何を学ぶのか 看護の本質 看護とは何か考える 私の考える看護観	講義	課題 レポート VTR 学習
	2	看護の基本となるもの	看護の主要概念 看護の歴史 ナイチンゲール/ヘンダーソン/マズロー	講義	
	3		看護の対象である人間とは ホメオスタシス、ストレス、欲求、ライフサイクルと発達課題、生活者	講義	
	4		健康の概念・健康観 健康の定義 WHO の健康・ウェルネスの概念	講義 GW	
	5		環境の概念・人間に及ぼす影響	講義 GW	
	6		看護の定義 看護職能団体による看護の定義 看護業務基準	講義 GW	
	7	看護倫理の基本	看護倫理の基本 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	講義	
	8		倫理綱領と倫理の原則と看護師の役割（説明責任・倫理的配慮・権利擁護（アドボカシー）、エンパワメント）看護者の倫理綱領 条文1～7	講義	
	9		倫理綱領と倫理の原則 看護者の倫理綱領 条文8～15	講義	
	10		医療における倫理的ジレンマ		
	11		看護職の養成制度/教育キャリア開発	講義 GW	
	12	実践に生かす看護理論 19	看護理論家とその考え方 ウィーデンバック/オーランド/トラベルビー看護理論家とその考え	講義 GW	
	13		看護理論家とその考え方 ペプロウ/オレム/ロイ看護理論家とその考え方	講義	
	14		ケアとは/看護におけるケア 看護実践とその質保証に必要な要件	講義	
15		終講試験・まとめ			
テキスト参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①, 医学書院 看護学テキスト 看護倫理—よい看護・よい看護師への道しるべ— 南江堂 看護学テキスト 看護理論—看護理論 21 の理解と実践への応用— 南江堂 ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会				
授業方法	講義・GW を中心として行う				
評価方法	終講時に筆記試験を実施する 筆記試験 90 点、課題点 10 点(提出期限が守れない、内容不足の場合は総合点より 3 点減点)				
履修上のアドバイス	グループ学習を多く取り入れているので、積極的な姿勢で臨むこと				

授業科目	看護共通基本技術Ⅰ (コミュニケーション・安全・安楽・感染予防)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 大谷聖子 / 専任教員 秋山朋子 感染管理認定看護師 蛭田好郁 医療安全管理者 矢吹明美					
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 24 時間			
授業目標	1. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解する。 2. 看護における対人関係構築のための基本的コミュニケーション技術を習得できる。 3. 看護における安全の意義と安全を点検する側面を理解する。 4. 安楽を確保する意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。 5. 感染予防の意義とその対策を理解し、方法を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	担当	方法	事後学習
	1 ～ 2	参考文献 の感想を まとめる	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4. 効果的なコミュニケーションの実際	秋山	講義 演習	
	3	調べ学習 ・用語の 定義 ・感染源 ・芽胞	1. 感染とその予防の基礎知識 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 3. 感染経路別予防策 4. 洗浄/消毒/滅菌	蛭田	講義	手 指 衛 生 と 防 護 用 具 着 脱 の 練 習
	4	手洗い、防 護用具の 着脱の動 画視聴	1. 感染予防策の実際 （手指衛生/個人防護用具/感染性廃棄物の取り扱い/針刺し防止策） 2. 演習 1) 手指衛生 2) 個人防護用具の着脱 （手袋/エプロン/ガウン/フェイスシールド）	蛭田	演習	
	5	滅菌物の 取り扱い の動画視 聴	1. 無菌操作 無菌操作の基礎知識/対策の実際（保管方法/滅菌物の取り扱いの 基本/滅菌バッグの開封/滅菌撮子の取り出し方/滅菌ガーゼの取り 出し方/滅菌手袋の着用/滅菌ガウンの着用）	大谷	演習	無 菌 操 作 の 練 習
	6		1. 安全確保の技術 1) 安全確保の基礎知識 2) 誤薬防止 3) チューブ類の事故除去 4) 患者誤認防止 5) 転倒・転落防止 6) 薬剤・放射線曝露の防止 2. ヒヤリハット（分析方法/ヒヤリハット報告書の実際）	矢吹	講義 演習	
	7 ～ 8	体位につ いて調べ る 動画視聴	1. 安楽確保の援助 1) 援助の基礎知識 2) 安楽な体位保持の実際 3) 身体ケアを通じてもたらさせる安楽 （リラクゼーション法/マッサージ・指圧） 2. 電法 1) 援助の基礎知識 2) 温電法・冷電法	大谷	講義 演習	
	9	冷電法・ 温電法の 動画視聴	冷電法・温電法の演習	大谷	講義 演習	
	10	生活の中 での自分 の事例を 記録	1. プロセスレコード 1) プロセスレコードとは/分析のしかた 2) 自分の体験をプロセスレコードに分析	秋山	講義 演習	分 析 後 の ま と め
	11		2. ロールプレイ 1) ロールプレイとは 2) 事例に基づき役割を演じ、分析する	秋山	講義 演習	ロ ー ル プ レ イ の 分 析
	12		終講試験・まとめ	大谷		
	テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】基礎看護学技術Ⅰ, 医学書院 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会				
参考文献	伊藤守：この気持ち伝えたい, ディスカバー社					
使用教材	医療器材（撮子, ガーゼ, 綿球, 滅菌手袋, 速乾性擦式手指消毒薬, アイソレーション ユニフォーム, プラスチックグローブ）					
授業方法	講義・演習を中心に行う					
評価方法	終講試験（90点）、課題（10点）で評価する 課題提出遅れは総合点から3点減点とする					
履修上の アドバイス	事前、事後学習を必ず行い、提出期限を守ること 演習は、グループ間で協力して行うこと					

授業科目	看護共通基本技術Ⅱ(ヘルスアセスメント)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当講師	専任教員 柳沼美穂子				
履修時期	1 学年前期～後期	単位数・時間	1 単位 30 時間		
授業目標	1. 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解する。 2. フィジカルアセスメントの基本技術を習得する。				
授業計画		事前学習	内容	方法	事後学習
	1		1. 看護におけるヘルスアセスメント	講義	
	2		2. フィジカルアセスメントの基本 1) 一般状態のアセスメント(バイタルサイン) ①体温 ②脈拍	講義 演習	技術練習
	3		③呼吸 ④血圧 ⑤意識状態	講義演習	技術練習
	4		⑥バイタルサイン測定の実際【演習】	演習	技術練習
	5		⑦バイタルサイン測定【演習チェック】 ・事例に基づいたバイタルサイン測定実施 ・血圧測定(聴診法)の実際 ・バイタルサインプレテスト	演習	演習チェック後の振り返り
	6		⑧バイタルサイン測定【技術試験】	試験	技術試験後の振り返り
	7		2) 一般状態のアセスメント(身体計測)	講義演習	
	8	事前レポート・体験 解剖生理学	3) フィジカルアセスメントにおける基本技術 【問診/視診/触診/打診/聴診】	講義 演習	演習後の振り返り
	9	事前レポート・体験 解剖生理学	3. 系統的なフィジカルアセスメントの実際 1) 体表面のアセスメント 【皮膚・爪・リンパ・甲状腺】	講義 演習	演習後の振り返り
	10	事前レポート・体験 解剖生理学	2) 感覚系・脳神経系のアセスメント 【眼底の視診・鼓膜の視診】	講義 演習	演習後の振り返り
	11	事前レポート・体験 解剖生理学	3) 運動系のアセスメント	講義 演習	演習後の振り返り
	12	事前レポート・体験 解剖生理学	4) 呼吸器系のアセスメント 問診 視診(前胸部/背面/側面) 触診(胸郭拡張度/音声伝導) 打診(背面打診:横隔膜の呼吸性移動の確認) 聴診(正常呼吸音/異常呼吸音)	講義 演習	演習後の振り返り
	13	事前レポート・体験 解剖生理学	5) 腹部・消化器系のアセスメント 問診 触診 打診 聴診(腸蠕動音)	講義 演習	演習後の振り返り
	14	事前レポート・体験 解剖生理学	6) 循環器系のアセスメント 問診 視診(前胸部/チアノーゼ/心尖拍動) 触診(心尖拍動) 聴診(I 音・II 音/異常心音)	講義 演習	演習後の振り返り
	15		4. 精神・社会的状態のアセスメント	講義	
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院 2. 任和子/秋山智弥【編集】:根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. ヴァージニア・ヘンダーソン著:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会				
参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA 看護が見える vol.3 フィジカルアセスメント, MEDIC MEDIA 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院				
使用教材	聴診器、水銀レス血圧計、電子血圧計、体温計、診断機器、フィジコさん、ハイブリッドシミュレータ SCENARIO				
授業方法	講義・演習を中心として行う				
評価方法	バイタルサイン測定技術試験(20 点)、事前学習(3 点×7 回 21 点)、終講試験(59 点)、期限内の提出ができなかった場合は総合点より 3 点減点とする。				
履修上のアドバイス	解剖生理学を復習しながら進めていくため、事前学習を計画的に行い授業に臨むこと バイタルサインの測定は技術試験があるため、グループで練習に取り組むこと				

授業科目	診療に伴う看護技術Ⅰ（与薬／採血／輸血）			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う 関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 薄井美智子					
履修時期	1 学年前期～後期	単位数・時間	1 単位 30 時間			
授業目標	1. 与薬・採血における意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。					
授業計画	回	事前 学習	内容	方法	事後学習	
	1		1. 与薬の基礎知識 1) 薬物療法と看護 2) 薬物の基礎知識 3) 与薬に関する援助の基礎知識	講義		
	2	動画 視聴	2. 各与薬の援助方法 1) 経口与薬 2) 経口内与薬 3) 吸入	講義		
	3	動画 視聴	4) 点眼 5) 点鼻 6) 経皮的与薬 7) 直腸内与薬	講義		
	4		【演習】薬剤等の管理、経口薬(パッチ錠、内服薬、舌下錠)の投与、吸入、経皮・外用薬の投与、坐薬投与、	演習		
	5	事前 課題	8) 注射法 ①注射法の基礎知識 【演習】注射器・針の取り扱い方/アンプルカット/薬液(アンプル・バイアル)の吸い上げ方	講義 演習	注射器・針の取り扱い/薬液の吸い上げ方の技術練習・確認	
	6 7	DVD 視聴	②皮下注射 ③皮内注射 ④筋肉内注射 【演習】部位選定/ 注射の実際（モデル）	講義 演習	注射部位の確認 /各注射法技術練習	
	8 9	DVD 視聴	⑤静脈内注射 ⑥点滴静脈内注射 【演習】部位選定/ 駆血帯の使い方/ 輸液セット・三方活栓の使い方/注射の実際（モデル） / 固定法/速度調節・管理/ポンプの使い方	講義 演習	各注射法技術練習 /滴下数計算課題	
	10	DVD 視聴	9) シリンジポンプ・輸液ポンプの使い方 【演習】ポンプの使い方/観察	講義 演習		
	11 12	DVD 視聴	3. 採血 1) 検査の種類 2) 採血の種類 【演習】 部位選定/採血針・針による静脈血採血	講義 演習	採血技術練習	
	13	DVD 視聴	4. 輸血 1) 目的 2) 種類・適応 3) 副作用 4) 手順 【演習】輸血セットの取り扱い、輸血の管理	講義 演習		
	14		【演習チェック】 筋肉内注射/ 静脈血採血	演習C	演習C後の振り返り	
	15		終講試験・まとめ	試験		
	テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 3 医学書院 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院				
	参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA				
使用教材	<採血>静脈採血注射モデル、かんたんくん、装着式採血シミュレーター <注射>装着式筋注パッド、きんちゅうくん、でんちゅうくん、筋肉注射モデル、殿筋注射説明模型、殿部筋肉内注射モデル					
授業方法	講義、演習、演習チェック					
評価方法	終講試験（90 点）、課題の提出状況（10 点） 課題提出忘れは総合点から 3 点減点とする					
履修上の アドバイス	授業方法は、講義と技術演習が中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。 また、技術の習得には自己学習(何度も練習すること)が必須です。空き時間を有効に使い計画的にグループメンバーで協力して行いましょう。特にこの技術は、間違うとそのまま医療事故につながる取り返しのつかない技術であることを認識し、正しい知識と技術を身につけましょう。					

授業科目	診療に伴う看護技術Ⅱ (呼吸・循環を整える技術／創傷管理)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 芳賀洋平 皮膚排泄ケア認定看護師 稲田ゆかり					
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間			
授業目標	1. 呼吸を安楽にするための吸引と酸素吸入の方法を習得する。 2. 末梢循環不全の予防・改善させるための援助の方法を習得する。 3. 創傷管理の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	形態機能学(呼吸) 呼吸異常 吸引の手順	1. 呼吸状態のアセスメントと呼吸を整える援助の基礎知識 2. 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 3. パルスオキシメーターの扱い方 4. 一時的吸引の目的・適応・種類 5. 吸引におけるリスクマネジメント	講義	専任教員	
	2	酸素ボンベ 酸素吸入療法	1. 酸素吸入療法の目的・適応・種類・合併症 2. 酸素吸入療法の方法 3. 酸素療法におけるリスクマネジメント	講義 演習		
	3		1. 末梢循環促進の援助 1) 圧迫療法(弾性ストッキング) 2) リンパドレナージ	講義 演習		演習後の振り返り
	4		1. 酸素療法器具の取扱い方 2. 酸素吸入の実際	講義 演習		演習後の振り返り
	5	包帯法の種類 包帯法の動画視聴	1. 創傷処置の方法(包帯法) 包帯法の原則 基本的な取り扱い方	講義 演習		演習後の振り返り
	6	形態機能学(皮膚) 包帯法練習	1. 創傷の種類・治癒過程 2. 創傷のアセスメント 3. 創傷処置の方法 (創洗浄/創保護/ドレーン類の挿入部の処置) 4. 褥瘡とは 5. 褥瘡予防と治癒の促進 6. 褥瘡処置と評価 7. 褥瘡予防ケア	講義 演習	認定看護師	
	7	吸引の練習	一時的吸引(口腔内・鼻腔内吸引) 演習チェック	演習 チェック	専任教員	演習後の振り返り
8		終講試験		専任教員		
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. 人体解剖ビジュアル からだの仕組みと病気, 医学芸術社 4. 看護の基本となるもの, 日本看護協会					
参考文献	1. 写真でわかる臨床看護技術 2, インターメディカ					
使用教材	<酸素吸入>酸素吸入一式、パルスオキシメーター、酸素ボンベ <吸引>吸引シミュレーター、ポータブル吸引器 <循環>弾性ストッキング					
授業方法	講義・演習形式					
評価方法	課題点(10点)、終講後の筆記試験(90点) 課題提出期限内に課題を提出できなかった場合は、総合点より3点減点とする					
履修上のアドバイス	形態機能学(皮膚・呼吸器系・末梢循環)やフィジカルアセスメントで学んだ内容をもとに、対象にとって安全・安楽な技術が提供できるよう学びましょう。講義・演習の形式をとりますので演習ができる準備をして臨みましょう。また、演習の振り返り(記録)は、指定された時間内の提出を守りましょう。					

授業科目	暮らしを支える看護技術Ⅰ（環境、活動・休息）			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 薄井美智子					
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間			
授業目標	1. 健康を促進させる療養環境の諸要素と生活環境調整の意義を理解する。 2. 環境を整える基本的な技術を習得する。 3. 活動・休息の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習	
	1		1. 環境の諸要素とその調整	講義		
	2 3	動画視聴	2. 病室と病床の環境調整 1) ベッドメイキング 2) 環境整備	講義 演習	技術練習	
	4	動画視聴	3. 活動・休息の援助技術 1) 活動と休息 2) 活動のアセスメント	講義 演習	技術練習	
	5	動画視聴	3) 運動機能の維持・回復のための援助 ①関節可動域訓練（自動・他動運動）	講義 演習	技術練習	
	6 ～ 8	動画視聴	4) 運動機能の低下した人の援助 ①体位変換 ②車椅子・ストレッチャーでの移送 ③座位保持・起立動作の援助 ④歩行の援助	講義 演習	技術練習	
	9	ﾌﾟﾚｽﾄ準備 技術練習	車椅子移動・移送の演習チェック ストレッチャー移動・移送の演習チェック	ﾌﾟﾚｽﾄ 演習ﾌｨｯﾌﾟ	技術練習 演習振り返り	
	10	技術練習	車椅子移動・移送の技術試験	試験	技術練習	
	11	動画視聴	4. 臥床患者のリネン交換	講義 演習	技術練習	
	12	ﾌﾟﾚｽﾄ準備 技術練習	臥床患者のリネン交換演習チェック	ﾌﾟﾚｽﾄ 演習ﾌｨｯﾌﾟ	技術練習 演習振り返り	
	13		5. 安静保持の援助 6. 睡眠の援助	講義		
	14	技術練習	臥床患者のリネン交換の技術試験	試験	試験振り返り	
	15		終講試験・まとめ	試験		
	テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会				
	参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院 イラストでまなぶ生理学, 医学書院				
使用教材	1. リネン一式 2. 車椅子、ストレッチャー、杖					
授業方法	講義、演習					
評価方法	筆記試験（50 点）、技術試験（40 点）、課題（10 点）で評価する 課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点から 3 点減点とする					
履修上の アドバイス	授業方法は、講義と技術演習が中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。また、技術の習得には自己学習（何度も練習すること）が必須です。空き時間を有効に使い計画的にグループメンバーで協力して行いましょう。					

授業科目	暮らしを支える看護技術Ⅱ（食生活・排泄）			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 大谷聖子 / 専任教員 坂本真理 ユニ・チャーム ケアアドバイザー(看護師)					
履修時期	1学年 前期～後期	単位数・時間	1単位 30時間			
授業目標	1. 食事の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	消化吸収のメカニズム	1. 食事・栄養摂取の意義としくみ 2. 食事・栄養摂取のアセスメント	講義	専任教員 大谷	自己の食事内容の評価
	2	食事介助の方法 ＊病院食（治療食）は臨床栄養学で学ぶ	3. 食生活の基本的援助 食べるための機能 食事の環境調整 4. 経口摂取が可能な対象の食事の援助 嚥下障害、上肢の機能障害、	講義		
	3	食品その他必要物品の準備	食事介助の演習 ※口腔ケア技術と一緒に演習チェック 事例に基づきグループで援助計画立案	講義 演習		援助計画の修正
	4	解剖生理学（鼻孔～外耳孔～剣状突起～胃）	5. 非経口栄養法 1）経腸栄養（経管栄養・胃瘻栄養） 2）中心静脈栄養、末梢静脈栄養法	講義 演習		技術練習
	5		経鼻胃チューブの挿入演習チェック 経管栄養法による流動食の注入演習チェック	演習 チェック		演習後の振り返り
	6	自己の排泄の観察	1. 排泄の意義 2. 排尿・排便のメカニズム 3. 排泄の基本的援助 トイレ/ポータブルトイレ/差し込み便器/尿器	講義 演習		解剖生理学 まとめ
	7		4. 排泄援助の実際 おむつ交換	講義 演習	工 チャム	
	8		5. 排便障害と援助 便秘/下痢/便失禁 6. 排尿障害と援助	講義 演習	専任教員 坂本	
	9		7. 排泄に関する処置 1）摘便・浣腸（グリセリン浣腸/高圧浣腸） 2）導尿（一時的導尿/膀胱留置カテーテル） 3）膀胱留置カテーテルの管理	講義 演習		技術練習
	10	技術練習	おむつ交換の演習チェック	演習 チェック		演習後の振り返り
	11	動画視聴 技術練習	グリセリン浣腸	演習		技術練習
	12	技術練習	グリセリン浣腸の演習チェック	演習 チェック		演習後の振り返り
	13	動画視聴 技術練習	膀胱留置カテーテル挿入と管理／無菌操作	演習		技術練習
	14	技術練習	膀胱留置カテーテル挿入と管理／無菌操作 演習チェック	演習 チェック		演習後の振り返り
	15		終講試験・まとめ			専任教員
テキスト	1. 系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. 看護の基本となるもの, 日本看護協会					
参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能 1, 医学書院					
使用教材	＜食事＞経管栄養シミュレーター ＜排泄＞陰部モデル 導尿モデル等					
授業方法	講義、演習、演習チェック					
評価方法	筆記試験（90点）、課題点（10点）で評価する ＊課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点より3点減点とする					
履修上のアドバイス	講義と演習が中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。また、技術の習得には自己学習（何度も練習すること）が必須です。空き時間を有効に使い計画的にグループで協力して行いましょう。					

授業科目	暮らしを支える看護技術Ⅲ（清潔、衣生活）			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当教員	専任教員 坂本真理				
履修時期	1 学年前期～後期	単位数・時間	1 単位 30時間		
授業目標	1. 清潔の意義と衣生活を理解し、基本的な援助技術を習得する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	講義資料予習	1. 清潔の援助の基礎知識 1) 整容 2) 入浴・シャワー浴 3) 部分浴	講義 演習	
	2	動画視聴	2. 入浴・シャワー浴の実際	講義 演習	技術練習
	3	動画視聴	3. 部分浴の実際 1) 陰部洗浄 2) 手浴・足浴	演習	技術練習
	4	技術練習	4. 手浴・足浴演習チェック ※陰部洗浄はおむつ交換技術と一緒に実施	演習	演習チェック 振り返り
	5	動画視聴	5. 病床での衣生活の援助 1) 寝衣交換の基礎知識と援助の実際 2) 全身清拭の基礎知識と援助の実際	講義	技術練習
	6	技術練習	6. 全身清拭・寝衣交換演習	演習	援助計画の立案
	7	技術練習 プレイスト準備	7. 全身清拭・寝衣交換演習チェック ※点滴・ドレーン等を留置していない事例で実施	演習 プレイスト	演習チェック 振り返り
	8	技術練習	8. 全身清拭・寝衣交換技術試験 ※点滴・ドレーン等を留置していない事例で実施	技術 試験	援助計画評価 技術試験 振り返り
	9	DVD 視聴	9. 口腔の清潔の目的と援助	講義 演習	技術練習
	10	技術練習	10. 口腔ケア演習チェック ※食事介助技術と一緒に実施	演習	演習チェック 振り返り
	11	DVD 視聴	11. 頭皮の清潔の目的と援助 1) 洗髪演習（洗髪車、洗髪プール）	講義 演習	技術練習
	12	技術練習	12. 洗髪演習	演習	技術練習
	13	技術練習 プレイスト準備	13. 洗髪演習チェック	演習 プレイスト	演習チェック 振り返り
	14	技術練習	14. 洗髪技術試験	技術 試験	技術試験振り返り
	15		終講試験・まとめ	試験	
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会				
使用教材	<洗髪>モデル人形、洗髪車、洗髪プール <陰部洗浄>装着型陰部モデル（男性・女性） <口腔ケア>口腔ケアモデル <全身清拭・寝衣交換>モデル人形				
授業方法	講義・演習形式、演習チェックを行う				
評価方法	筆記試験（60点）、技術試験（40点） 課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点から3点減点とする				
履修上の アドバイス	授業方法は、講義と技術演習が中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。また、技術の習得には自己学習（何度も練習すること）が必須です。空き時間を有効に使い計画的にグループメンバーで協力して行いましょう。				

授業科目	臨床判断技術Ⅰ（看護記録、報告、看護過程、看護診断）			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 和知綾乃 / 専任教員 知々田綾					
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 30 時間			
授業目標	1. 看護記録の意義と方法を理解する。 2. 看護過程（看護診断）の意義と方法を理解する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	看護記録とは	I. 看護記録 1. 法的位置づけ 2. 目的・意義 3. 構成要素 4. 記載・管理の留意点	講義	専任教員①	記録から看護記録を考える
	2	看護過程とは	II. 報告 1. 目的・意義 2. 方法・留意点 3. 医療事故と看護記録 III. 看護過程 1. 看護過程の意義と構成要素 2. 基盤となる考え方	講義		
	3	アセスメントとは	3. アセスメント 1) アセスメント 2) 情報収集・整理 3) ゴードンの機能的健康パターン	講義		事例の情報整理
	4	情報の意味の検討	3) 情報の整理の実際 4) 情報の意味の検討（アセスメント）	講義		
	5	アセスメントの方法	演習) アセスメントの実際①② 事例を用いて機能的健康パターンの枠組みに沿ってアセスメントの実施	講義 演習		事例のアセスメント
	6					
	7	事例に基づいた知識の確認	演習) 対象の症状や状態・状況を明らかにするシミュレーション	演習		事例のアセスメント
	8	関連図とは	4. 関連図 1) 全体の把握 2) 関連図 5. 看護診断（NANDA－Ⅰ） 1) 看護診断の分類法 2) 多軸システム 3) 定義・診断指標・危険因子 4) ハイリスク群・関連する状態	講義	専任教員②	看護診断名の確認
	9	看護診断とは	5) 看護診断のステップ 6) 看護診断の記述方法 7) 優先順位 8) 共同問題 6. 目標・成果・成果指標の設定 1) 設定の留意点 2) 記述方法	講義		
	10	計画立案とは	7. 計画 1) O-P,C-P,E-P 2) 計画の留意点 8. 評価 1) 目標・成果の達成度判定 2) 看護計画の終了・継続・修正	講義		
	11	看護記録とは	9. 看護記録 1) SOAP 2) フローシート 3) 評価・修正 4) 経過記録の実際 5) 評価・修正の実際	講義		経過記録、フローシートの完成
	12	形態機能学	演習) 関連図	講義 演習		事例の関連図作成
	13		演習) 看護診断			事例の看護診断
	14		演習) 経過記録の書き方			
15		終講試験・まとめ				
					専任教員①②	
テキスト	1. 系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 2. 看護がみえる vol. 4 看護過程の展開, メディックメディア 3. NANDA－Ⅰ看護診断（定義と分類）2021－2023, 医学書院 4. とんでもなく役に立つ 検査値の読み方, 照林社					
参考文献	1. ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断, ニューヴェルヒロカワ 2. 疾患別看護過程の展開, 学研					
授業方法	講義、演習					
評価方法	筆記試験（90 点）、課題（10 点）で評価する 課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点より 3 点減点とする					
履修上のアドバイス	看護過程は、患者により良い看護を提供するための大切な技術です。そのため、自主的に自己学習や演習に臨み練習を重ねることが必要になります。この技術は、看護を知る実習Ⅱから実習で 3 年間実施しますので、看護過程の段階一つ一つ確実に理解して学習を進めましょう。					

授業科目	暮らしと健康			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当講師	専任教員 和知綾乃				
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	1.人々の日常における価値や意味の体験に触れ、地域で生活する人々とその暮らしを理解する。 2.人と人がつながって生きていることの大切さに気づき、自分自身が地域住民の一員であることを理解する。 3.地域の特性を理解し、地域の生活環境が健康に与える影響を理解する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	自分の暮らし	1. 人々の暮らし 2. 暮らしの要素 1) はぐくむ 2) つながる 2) 養生する 4) 災いに備える 5) 祈る	講義	ライフコース 発表準備
	2	ライフコース	3. 自己の生活力チェック 4. ライフコースと暮らし 1) ある人物のライフコースの発表（評価）	講義	インタビュー
	3		1. 私たちの暮らしを支えるつながり 1) コミュニティ 2) 地域のつながり 2. 人々の暮らし地域の多様性 3. 自分の暮らし地域の理解	演習	
	4	地域の情報収集	1. 地域のなかにある暮らし 1) 地域アセスメント 2) コミュニティアズパートナーモデル 2. 白河市の特性 1) バーチャルフィールドワーク 3. 学校周辺を調べよう 1) 地区踏査計画	講義	計画書の作成
	5 6	地区踏査計画書	2) 地区踏査（学校周辺の地域の理解） （1）フィールドワーク （2）地域で暮らし人びとの情報収集 ①母子 ②高齢者 ③壮年期 （3）地域アセスメント	演習	資料作成
	7	資料作成	3) 地域アセスメント 地区踏査の結果をまとめる	演習	発表準備
	8		1. 地域アセスメントの発表（評価） 「母子・高齢者・壮年期の地域における 地域特性に応じた健康課題」 2. 暮らしと健康についてレポート（評価） （1）暮らしと地域のかかわり （2）暮らしや健康に影響を与えるもの	講義 演習	
テキスト	1. 系統看護学講座 地域・在宅看護論①地域・在宅看護論の基盤, 医学書院				
参考文献	1. 地域完結型看護をめざした看護教育, メヂカルフレンド社 2. 地域特性がみえてくる地域診断 地域包括支援センターの活動充実を目指して, 医葉薬出版 3. ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア, メディカ出版				
授業方法	講義・演習				
評価方法	発表内容・発表資料（グループ評価）、レポート（個人評価）を 100 点で評価する。				
履修上のアドバイス	暮らしと健康を理解するために白河市に出向く演習があります。グループで協力し、計画的に準備を進めていくことが必要です。1人1人グループメンバーであることを意識して臨みましょう。				

授業科目	健康を支える地域の理解			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	白河市中心保健センター 林佳代子 二階堂有実 / 産業看護師 地域包括支援センター / JA 福島厚生連 専任教員 和知綾乃					
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間			
授業目標	1. 地域・在宅看護の変遷を学び、地域・在宅看護の特性を理解する。 2. 地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを支援するための活動を理解する。 3. 地域に暮らす人々の健康を守るための活動を学び、豊かな地域づくりに向けての社会的役割を理解する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1 2	「国民衛生の動向」年齢別人口、死因、医療費の動向	1. 地域・在宅看護とは 1) 地域・在宅看護の変遷 2) 地域・在宅看護の背景 2. これからの地域・在宅看護 1) 社会ニーズの高まり 2) 地域・在宅看護に求められること 3. 地域包括ケアシステム 1) 構成要素 2) 自助・互助・共助・公助 4. 地域共生社会	講義	専任教員	クラス全体の健康づくりのため、取り組めることを考える。
	3		3. 人々の健康を支える地域の取り組み 1) 地域での健康づくり 1) 一人ひとりの健康づくり 2) 地域における健康づくり 3) 健康づくりを支える社会環境	講義 演習	専任教員	
	4	市町村保健センター	2) 市町村の住民の健康を支えるために (1) 地域保健法と市町村保健センターの機能と役割	講義	白河市中心保健センター	保健センターの保健事業
	5	産業看護	3) 地域で働く人の健康を支えるために (1) 産業看護の役割 (2) 対象者 (3) 活動内容 ①健康診断の実施 ②保健指導 ③メンタルヘルスチェック ④緊急時の応急処置	講義	産業看護師	産業看護の活動
	6	地域包括支援センター	4) 地域の高齢者の健康を支えるために (1) 介護支援専門員の役割 (2) 地域包括支援センターの機能と役割 (3) 地域包括支援センター事業の概要	講義	地域包括支援センター	地域包括支援センターの支援事業
	7	JA 福島厚生連について	4. 豊かな地域づくりに向けて 1) 農家組員・地域住民の健康を守るための活動 2) 地域の特徴	講義	JA 福島厚生連	地域住民の健康を守るために大切なこと
	8		終講試験		専任教員	
	テキスト	1. 系統看護学講座 地域・在宅看護論①地域・在宅看護論の基盤. 医学書院				
参考文献	1. 基礎からわかる地域・在宅看護論. 照林社 2. ナーシング・グラフィカ. 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア. MC メディカ出版					
授業方法	講義・演習					
評価方法	終講試験 100 点満点で評価する。提出期限が守れない場合は、総合点から 3 点減点とする。					
履修上のアドバイス	地域での支援・保健活動が理解できるよう事前学習をして取り組みましょう。また、人々が生活している地域に目を向け、社会とのつながりをもつことの意味を考えていきましょう。					

授業科目	家族を支える看護			[ディプロマポリシー(DP)との関連]		
担当講師	専任教員 志田淳子 専任教員(小児領域担当) 知々田綾 専任教員(精神領域担当) 芳賀洋平			□人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間			
授業目標	1. 家族看護の意義と看護の対象である家族を理解する。 2. 家族看護の実践プロセスを理解し、その人らしく生活していくための支援の方法を学ぶ。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1・2		1. 家族看護の意義(第1章) 1) 家族看護学を学ぶ意味・価値 2) 家族看護の発展と変遷 2. 家族看護の対象(第2章) 1) 家族とは (1) 家族の定義と家族観 (2) 看護学からみた家族のとらえ方 (3) 家族の健康 2) 家族の構造: ジェノグラム(家系図)、エコマップ 3) 家族の機能 4) 現代の家族とその課題	講義・演習	専任教員	
	3		3. 家族看護を支える理論と実践(第3章) 1) 家族を理解するための理論 (1) 家族発達理論 (2) 家族システム理論 2) 家族の危機理論 (1) ABCX とジェットコースターモデル (2) 二重 ABCX モデル (4) 家族ストレス・順応・適応の回復モデル	講義・演習		
	4		4. 家族を支える看護の実践 1) 家族看護の特徴 2) 家族看護の目的(目指すところ) 3) 家族看護の実践の場面 (1) 疾病や障がいを持つ家族 (2) ライフサイクルと家族 (3) コミュニティと家族 4) 家族への看護アプローチ (1) 家族のセルフケアの支援 (2) 家族の役割調整 (3) 家族関係の調整・強化、家族内コミュニケーションの活性化 (4) 家族の対処行動や対処能力の強化 (5) 社会資源の活用	講義・演習		
	5		3. 看護の対象としての家族 1) 家族の病気のとらえ方・理解 2) 家族の苦悩、情緒の反応の実際 3) 家族の生活への影響、療養マネジメント 4) 家族のニーズ 5) 病気・病者・家族の様相 4. 家族成員(高齢者)が在宅療養している家族看護	講義・演習		
	6		5. 家族成員が在宅療養している家族看護(小児看護)	講義・演習		小児領域教員
	7		6. 家族成員が在宅療養している家族看護(精神看護)	講義・演習	精神領域教員	
	8		終講試験		専任教員	
テキスト	系統看護学講座 家族看護学. 医学書院					
参考文献	1. 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第5版. 日本看護協会出版会 2. 家族看護学 理論と実践. 日本看護協会出版会					
授業方法	講義・演習					
評価方法	筆記試験(100点)で評価する。					
履修上のアドバイス	看護の対象である家族の捉え方、そして、その人らしい生活のために看護師はどのように介入することが必要か、考えていきましょう。					

授業科目	成人看護学概論（対象理解・看護の機能と役割）			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力		
担当講師	看護師 片山美恵子					
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 20 時間			
授業目標	1. 成人期における対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。 2. 成人の生活について理解できる。 3. 成人を取り巻く環境と、生活と健康をまもるシステムについて理解できる。 4. 保健・医療・福祉の動向から成人各期の健康課題を理解できる。 5. 成人への看護アプローチの基本について理解できる。 6. 経過別の考え方が理解できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習	
	1・2	「各発達段階の特徴」	1. 成人看護の対象理解 1) 成人期の年齢区分 2) 成人各期の発達段階と発達課題 3) 成人各期の特徴と健康問題 ①青年期の特徴と健康問題 ②壮年期・中年期の特徴と健康問題 ③向老期の特徴と健康問題	講義 GW	ハイガー-ストの発達課題 Eriksonの発達理論	
	3	「成人のライフスタイルの特徴」	2. 成人の生活 1) 成人の生活様式の特徴 2) 家族形態と機能	講義 GW	家族形態と機能	
	4・5	「保健・医療・福祉にかかわる施策」	3. 生活と健康 1) 社会状況の変化 2) 成人を取り巻く環境と生活から見た健康 3) 生活と健康をまもりはぐくむシステム ①保健・医療・福祉システムの概要 ②保健・医療・福祉システムの連携 ③地域・在宅への継続医療と看護	講義 GW	疾病予防の三段階	
	6・7	「生活行動がもたらす健康問題とその予防」	4. 保健・医療・福祉の動向と健康課題 1) 生活習慣病に関連する健康課題 2) 職業に関連する健康課題 3) ストレスに関連する健康課題	講義 GW 発表	成人保健の動向	
	8・9	「大人の学習」	5. 成人への看護アプローチの基本 1) 生活のなかで健康行動を生みはぐくむ援助 2) 症状のセルフマネジメント 3) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 4) 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 5) チームアプローチ 6) 看護におけるマネジメント 7) 看護実践における倫理的判断 8) 意思決定支援 9) 家族支援 6. 経過別の考え方 1) 急性期 2) 周術期 3) 慢性期 4) 終末期	講義 GW	大人の学習アプローチ 意思決定を支える看護	
	10		終講試験			
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院				
	参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計 国民健康・栄養調査 厚生労働省 レビューブック MEDIC MEDIA				
	授業方法	講義・GW を中心に行う				
評価方法	筆記試験（90 点）、課題（10 点）、合計 100 点で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から 3 点減点とする。					
履修上のアドバイス	・自分自身の体験やグループワークから成人看護の対象を理解し、成人の看護を深めること。 ・看護学概論、人間発達学、看護と法、健康と医療と関連が深い。関連した内容を復習し臨むこと。 ・国民衛生の動向、国民健康・栄養調査の最新の統計と社会や環境に常に目を向けること。					

授業科目	老年看護学概論			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当講師	専任教員 秋山朋子				
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	1. 老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2. 保健・医療・福祉の動向から老年期における課題を理解する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1		1. 老年期の理解 ライフサイクル 老年期の定義・意義/加齢と老化/老いることへの理解	講義 GW	
	2		1. 超高齢社会の統計的輪郭 我が国の高齢化/高齢者のいる世帯/高齢者の健康状態 高齢者の死亡/高齢者の暮らし	講義 GW	
	3		1. ライフサイクルからみた老年期…加齢変化 1)身体的側面の変化 2)精神的側面の変化 高齢者の心理的喪失 3)社会的側面の変化 2. 老年期の発達課題	講義	ワーク シート のま とめ
	4 5		1. 高齢者疑似体験 身体活動の変化/手指の巧緻性の低下/視力・聴力の変化 日常生活への変化/事故の危険性/心理面の理解	演習	ワーク シート のま とめ
		基礎ヘル スアセス メントの 復習	1. 身体に加齢変化とアセスメント 視覚変化/聴覚変化/感覚機能変化/循環機能変化/呼吸 機能変化/消化機能変化/ホルモンの変化/泌尿器・生殖 器の変化/運動機能変化/比較的維持できる機能	講義 GW	
	6		1. 老年看護のなりたち 1) 老年看護の定義 2) 老年看護の役割 (1)注目すべき 4 つの側面 (2)老年看護の特徴 (3)理論・概念の活用	講義 GW	
	7		1. 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 エイジズム/権利擁護(アドボカシー) 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度 成年後見制度/日常生活自立支援事業	講義 GW	
	8		終講試験		
	テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学,医学書院			
参考文献	国民衛生の動向,厚生労働統計協会				
授業方法	講義・GW・演習				
評価方法	筆記試験 90 点、課題 10 点 課題提出期限内に課題を提出できなかった場合は、総合点から 3 点減点とする				
履修上の アドバイス	グループワークや体験から少しでも対象が理解でき、看護に結びつけることができるよう 一緒に学びましょう。				

授業科目	小児看護学概論			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☒ 人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☒ 根拠に基づいた看護を実践する力 ☒ 看護を通じて地域で活躍する力 ☐ 自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 知々田綾 / 看護師 伊東智恵					
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 20 時間			
授業目標	1. 小児看護学の対象とその特徴を学び、子どもの成長・発達を支援する看護の機能について理解する。 2. 子どもと家族を取り巻く社会、子どもの権利について学び、小児看護に求められる役割を理解する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	小児看護学概論 第1章	1. 小児看護の特徴 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標・役割 2. 小児と家族の諸統計	講義 GW	専任教員	ワークシート
	2	小児看護学概論 第1章	1. 小児看護の変遷 2. 小児看護における倫理 1) 子どもの権利擁護(アドボカシー) 2) 医療現場で起こりやすい問題点と看護	講義 GW		ワークシート 振り返り
	3.	①小児看護学概論 第1章 ②ワークシート	1. 小児看護の課題 1) 疾病構造の変化 2) 社会の変化と小児看護 3) 小児看護の専門化	講義 GW		ワークシート 振り返り
	4	小児看護学概論 第2章	1. 子どもの成長・発達 1) 発達論 2) 一般的原則 3) 影響因子 4) 評価	講義 GW		ワークシート 振り返り
	5 6	①小児看護学概論 第3.4.5章 ②ワークシート	1. 小児各期の形態的・身体生理の特徴 1) 呼吸 2) 循環 3) 体温 4) 消化器 5) 体液生理 6) 神経系 7) 免疫	講義 GW		ワークシート 振り返り
	7	①小児看護学概論 第6章 ②ワークシート	1. 子どもと家族を取り巻く社会 1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費の支援 小児慢性特定疾病医療費助成制度 4) 予防接種 5) 学校保健 6) 食育 7) 臓器移植 8) 小児保健医療福祉施策の活用	講義 GW		ワークシート 振り返り
	8	①小児看護学概論 第7章 ②ワークシート	1. 家族の特徴とアセスメント 1) 子どもにとっての家族とは 2) 家族アセスメント 2. 小児における看護の場 1) 入院中の子どもと家族の看護	講義 GW		ワークシート 振り返り
	9	①小児臨床看護 総論 第2章	1. 小児における看護の場 1) 虐待を受けている子どもと家族の看護 (1) 現状 (2) リスク要因と早期発見 (3) 虐待を未然防止に向けての支援 (4) 多機関・多職種の連携・協働	講義 GW	看護師	
	10		終講試験・まとめ		専任教員	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学①, 医学書院					
参考文献	山元恵子【監修】: 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ レビューブック MEDIC MEDIA					
授業方法	講義を中心に行う					
評価方法	筆記試験(90点)、課題点(10点) 課題提出期限内に課題を提出できなかった場合は、総合点より3点減点とする					
履修上の アドバイス	この講義は、1年次に学んだ多くの講義と関連が深い。特に人間発達学そして、形態的・機能的成長では「解剖生理学」の知識の確認をしながら講義をすすめていくため、関連した内容の復習をして臨んでほしい。子どもの統計については常に社会の動きに目を向けて、最新のデータをみおくこと。グループワークでは自ら学ぶ・調べる・疑問に思う姿勢をもって臨むこと。					

授業科目	母性看護学概論			[ディプロマポリシー(DP)との関連]		
担当講師	助産院院長 佐藤富美江 / 専任教員 坂本真理			☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力		
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 20 時間			
授業目標	1. 母性看護学の役割・機能を理解する。 2. 母性看護を取り巻く環境の動向を理解する。 3. 女性のライフサイクル各期の健康課題と看護を理解する。 4. 性と生殖に関する倫理・社会的問題について考え、看護者としての役割を理解する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	リプロダクティブヘルスの定義	1. 母性看護の基盤となる概念 1) セクシュアリティ (人間の性) (1) セクシュアリティとは (2) セクシュアリティの発達と課題 2) リプロダクティブヘルス/ライツ 3) ヘルスプロモーション	講義	専任教員	定義に関する確認
	2	母性とは 父性とは 自己の考え	4) 母性とは (1) 親になることと母性 (2) 母性の身体的特性 (3) 母性の心理・社会的特性 (4) 母性看護における母性 5) 母子関係と家族発達 (1) 愛着・母子相互作用と母子関係形成 (2) 母親となることへの看護 (3) 家族機能 (4) 家族の発達課題	講義		定義に関する確認
	3	女性生殖器の形態機能学	2. 母性看護の対象理解 1) 女性のライフサイクルに伴う形態機能の変化 2) 女性のライフサイクルと家族 3) 母性の発達・成熟・継承	講義 演習		定義に関する確認
	4 5	母性看護学に関する統計	3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の対象を取り巻く環境 (1) 家族 (2) 地域社会 (3) 生物学的環境 (4) 社会文化的環境 2) 母性看護のあり方 (1) 母性看護とは (2) 母性看護のあり方と本質と特徴 (3) 母性看護学実践の中核となる理念 (4) 母性看護の課題と展望	講義 演習 GW		社会の変遷から母性看護の役割と課題
	6	助産所とは	3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 3) 地域における母性看護	講義	助産院院長	助産所の役割
	7	各ライフステージの健康問題	4. 女性のライフステージ各期における看護 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護 2) 思春期の健康と看護 3) 性成熟期の健康と看護	講義 演習	専任教員	各ライフステージにおける看護
	8		4) 更年期の健康と看護 5) 老年期の健康と看護	講義 演習		
	9	看護師が感じる倫理上の問題	5. 母性看護における倫理 1) 看護倫理 2) 倫理的問題	講義 演習		生命倫理
	10		終講試験・まとめ			専任教員
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論, 医学書院.					
参考文献	国民衛生の動向 厚生労働統計協会, 医療情報科学研究所[編]: 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科, メディックメディア.					
授業方法	講義・演習・GW					
評価方法	終講時に筆記試験を行う。 筆記試験 90 点 課題 10 点 (提出期限が守れない、内容不足の場合は総合点より 3 点減点)					
履修上のアドバイス	母性(父性)とは何かを考え、母性看護の対象は女性だけでなく、そのパートナーや家族も含まれることを理解する。母性看護の対象を理解し、援助に結びつけることができるように授業をすすめていく。また、自分たちに関連する身近な問題に関する情報を収集し、捉えることができるようグループワークを通して学びを深める。母性看護の対象に自ら(学生自身)も含まれていることを意識し、講義に臨むこと。					

授業科目	精神看護学概論			[ディプロマポリシー(DP)との関連]	
担当講師	専任教員 芳賀洋平			☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力	
履修時期	1 学年前期～後期	単位数・時間	1 単位 20 時間	☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力	
授業目標	1. 精神の構造と機能について理解する。 2. 精神看護とその対象について理解する。 3. 精神看護の目的と役割を理解する。 4. 精神医療の変遷と法律・制度について理解する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	シラバス・カリキュラム構造図の確認	1. 精神の健康とは 2. 精神保健における 3 つの予防概念 3. 人間の心の諸活動	講義	
	2		4. 心のしくみと人格の発達 1) 自我の機能 2) 防衛機制 5. 回復(リカバリー)を支える力	講義	
	3		6. 日常生活における危機〈クライシス〉 7. 災害時地域精神保健医療活動 1) 災害時の精神保健医療活動 2) 災害時の精神保健初期対応	講義	人間の心の働きと防衛機制についてまとめる
	4		8. 全体としての家族 1) 家族の多様性 2) 家族の役割関係 3) システムとしての家族 4) 家族への介入と支援	講義	それぞれの場における精神問題についてまとめる
	5		9. 精神障害の治療と歴史 10. 精神の健康に関する普及啓発 1) 逸脱とスティグマ 2) 世界から見た日本の精神医療の現状	講義	
	6		11. 精神科領域で必要な法律と制度 1) 権利擁護に関する法律と制度 2) 医療を受けるための法律と制度 3) 生活を保障するための法律と制度 4) 法律・制度における課題 5) 入院患者の処遇 6) 隔離・身体拘束 7) 記録と法的責任	講義	精神保健福祉法 37 条の入院者の処遇についてまとめる
	7	看護者の倫理綱領について学習する	12. 精神科棟における倫理	講義	
	8		13. 精神障害がある患者の理解	講義	
	9		14. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1) 感情労働としての看護 2) 看護師の感情ワーク 3) 看護における共感と感情労働の代償 4) 感情労働を生きのびるために	講義	
	10		終講試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院				
参考文献	梅本堯夫：心理学 心のはたらきを知る, サイエンス社 太田保之/藤田長太郎【編】：精神看護学 精神保健 第 3 版, 医歯薬出版 松下正明/櫻庭繁【編】：精神看護エクスパート 17 精神看護と法・倫理, 中山書店 大西暢夫：ひとりひとりの人 僕が撮った精神科病棟, 精神看護出版 三宅薫：行って見て聞いた精神科病院の保護室, 医学書院				
授業方法	講義中心				
評価方法	終講試験 100 点 課題提出期限内に提出ができなければ総合点より 3 点減点				
履修上のアドバイス	1. これまでの自分や自分の生活を結びつけて考え理解を深める。 2. 新聞やニュースで報道される精神の問題や精神保健福祉の動向について興味・関心を寄せ、そこから自己の考えたことを整理しておく。				

授業科目	情報通信技術（ICT）と保健医療福祉			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力																																								
担当講師	医師 小坂明博(白河) / 根本 剛(鹿島) 訪問看護師 和田ゆう子(坂下) / 看護師 小松幸恵(白河) 秋山朋子																																											
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 20 時間																																									
授業目標	1. 医療及び福祉の現場で進んでいる ICT(information communication technology) を用いた取り組みについて学ぶ。 2. 訪問看護や在宅医療で活用されている ICT の実際について学ぶ。 3. ICT を活用する医療従事者の倫理的な側面について理解する。																																											
授業計画	<table><tr><td>回</td><td>内容</td><td>方法</td><td>担当</td></tr><tr><td>1</td><td>在宅医療の実際</td><td>講義</td><td>在宅診療 医師 小坂 (白河)</td></tr><tr><td>2</td><td>在宅医療チームとの連携の実際 ・医療情報連携ネットワーク</td><td>講義</td><td>在宅診療 医師 根本 (鹿島)</td></tr><tr><td>3</td><td>ICT を用いた健康管理</td><td>講義</td><td>秋山</td></tr><tr><td>4</td><td>保健医療福祉の現場で進んでいる ICT の実際 地域医療福祉を支える要素 ・遠隔診療 ・電子カルテ ・電子処方箋</td><td>講義</td><td>秋山</td></tr><tr><td>5</td><td>地域における ICT の活用 ・パーソナルヘルスレコード ・電子健康記録（EHR） ・クラウド型システムの活用</td><td>講義</td><td>秋山</td></tr><tr><td>6</td><td>在宅看護や介護で活用されている ICT の実際 1）オンラインを活用した訪問看護（看取りなど） 2）認知症を支える ICT の活用（VR 技術） 3）生活支援を目的とした介護ロボットの活用 4）介護で活用されている ICT の実際</td><td>講義 演習</td><td>訪問 看護師</td></tr><tr><td>7</td><td>医療における情報システム 1）医療における情報の記録 （1）医療記録における法令上の記載 （2）看護過程による情報の処理 （3）看護記録の構成要素と様式 （4）医療記録・情報を共有するための方法 （電子カルテ） （5）多職種連携と記録 （6）医療安全（ヒヤリハット）と記録 2）病院情報システムと記録方法</td><td>講義</td><td>看護師</td></tr><tr><td>8・9</td><td>3）電子カルテ（医療記録・情報を共有するための方法）の実際</td><td>演習</td><td>看護師</td></tr><tr><td>10</td><td>終講試験・まとめ</td><td></td><td>秋山</td></tr></table>				回	内容	方法	担当	1	在宅医療の実際	講義	在宅診療 医師 小坂 (白河)	2	在宅医療チームとの連携の実際 ・医療情報連携ネットワーク	講義	在宅診療 医師 根本 (鹿島)	3	ICT を用いた健康管理	講義	秋山	4	保健医療福祉の現場で進んでいる ICT の実際 地域医療福祉を支える要素 ・遠隔診療 ・電子カルテ ・電子処方箋	講義	秋山	5	地域における ICT の活用 ・パーソナルヘルスレコード ・電子健康記録（EHR） ・クラウド型システムの活用	講義	秋山	6	在宅看護や介護で活用されている ICT の実際 1）オンラインを活用した訪問看護（看取りなど） 2）認知症を支える ICT の活用（VR 技術） 3）生活支援を目的とした介護ロボットの活用 4）介護で活用されている ICT の実際	講義 演習	訪問 看護師	7	医療における情報システム 1）医療における情報の記録 （1）医療記録における法令上の記載 （2）看護過程による情報の処理 （3）看護記録の構成要素と様式 （4）医療記録・情報を共有するための方法 （電子カルテ） （5）多職種連携と記録 （6）医療安全（ヒヤリハット）と記録 2）病院情報システムと記録方法	講義	看護師	8・9	3）電子カルテ（医療記録・情報を共有するための方法）の実際	演習	看護師	10	終講試験・まとめ		秋山
回	内容	方法	担当																																									
1	在宅医療の実際	講義	在宅診療 医師 小坂 (白河)																																									
2	在宅医療チームとの連携の実際 ・医療情報連携ネットワーク	講義	在宅診療 医師 根本 (鹿島)																																									
3	ICT を用いた健康管理	講義	秋山																																									
4	保健医療福祉の現場で進んでいる ICT の実際 地域医療福祉を支える要素 ・遠隔診療 ・電子カルテ ・電子処方箋	講義	秋山																																									
5	地域における ICT の活用 ・パーソナルヘルスレコード ・電子健康記録（EHR） ・クラウド型システムの活用	講義	秋山																																									
6	在宅看護や介護で活用されている ICT の実際 1）オンラインを活用した訪問看護（看取りなど） 2）認知症を支える ICT の活用（VR 技術） 3）生活支援を目的とした介護ロボットの活用 4）介護で活用されている ICT の実際	講義 演習	訪問 看護師																																									
7	医療における情報システム 1）医療における情報の記録 （1）医療記録における法令上の記載 （2）看護過程による情報の処理 （3）看護記録の構成要素と様式 （4）医療記録・情報を共有するための方法 （電子カルテ） （5）多職種連携と記録 （6）医療安全（ヒヤリハット）と記録 2）病院情報システムと記録方法	講義	看護師																																									
8・9	3）電子カルテ（医療記録・情報を共有するための方法）の実際	演習	看護師																																									
10	終講試験・まとめ		秋山																																									
テキスト	看護情報学 医学書院																																											
授業方法	講義・演習形式																																											
評価方法	筆記試験 90 点 G/W 発表 10 点 合計 100 点																																											
履修上のアドバイス	演習も含まれるので、積極的な姿勢で臨むこと。																																											

授業科目	カウンセリング			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	公認心理師 佐々木 愛			
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. カウンセリングの意義、方法を学び、問題解決のための技法を理解する。			
授業計画		回	内容	方法
		1	ガイダンス・カウンセリングとは カウンセリングの理論と技法	講義
		2	言語面接の特徴・演習	講義
		3	心理検査演習	講義 演習
		4	心理検査とカウンセリング	講義 演習
		5	クライアント中心療法	講義 演習
		6	心理検査演習の理論と応用 ゲシュタルト、論理情動療法	講義 演習
		7	カウンセリングの基礎理論 カウンセリングの基礎技法・演習①	講義 演習
		8	カウンセリングの基礎技法・演習② (受容、共感的理解)	講義 演習
		9	カウンセリングの基礎技法・演習③(質問)	講義 演習
		10	カウンセリングの基礎技法・演習④(質問への返答)	講義 演習
		11	カウンセリングの基礎技法・演習⑤(価値観の点検) 発達障害の理解と対応	講義 演習
		12	カウンセリングの基礎技法・演習⑥(応答のレベル) 発達障害のカウンセリング	講義 演習
		13	認知行動療法について・演習	講義 演習
		14	マインドフルネス療法 まとめ	講義 演習
		15	終講試験・まとめ	
テキスト	講義資料を配布する。			
参考文献	講義の中で紹介する。			
授業方法	講義・演習形式			
評価方法	講義・演習の参加状況を加味し、筆記試験と総合して評価する。			
履修上の アドバイス				

授業科目	教育学			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力																																
担当教員	福島大学 准教授 植田啓嗣																																			
履修時期	2 学年 前期～後期	単位数・時間	1 単位 30 時間																																	
授業目標	1.学びや教育の意義・原理について考え、教育的思考の基礎を身に付ける。																																			
授業計画	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>1. 教育を考える視点</td></tr><tr><td>2</td><td>1. 人を教えるということ</td></tr><tr><td>3</td><td>1. 他者とのかかわりを導くこと</td></tr><tr><td>4</td><td>1. 養護の視点から</td></tr><tr><td>5</td><td>1. 発達による人の成長</td></tr><tr><td>6</td><td>1. 家庭と学校</td></tr><tr><td>7</td><td>1. 教育の目標と評価</td></tr><tr><td>8</td><td>1. 教育のメディア</td></tr><tr><td>9</td><td>1. 教育の担い手の専門性</td></tr><tr><td>10</td><td>1. 教育政策の視点から</td></tr><tr><td>11</td><td>1. キャリア教育</td></tr><tr><td>12</td><td>1. 教育とジェンダー</td></tr><tr><td>13</td><td>1. 特別支援教育の視点から</td></tr><tr><td>14</td><td>1. 生涯教育の時代</td></tr><tr><td>15</td><td>終講試験・まとめ</td></tr></table>				回	内容	1	1. 教育を考える視点	2	1. 人を教えるということ	3	1. 他者とのかかわりを導くこと	4	1. 養護の視点から	5	1. 発達による人の成長	6	1. 家庭と学校	7	1. 教育の目標と評価	8	1. 教育のメディア	9	1. 教育の担い手の専門性	10	1. 教育政策の視点から	11	1. キャリア教育	12	1. 教育とジェンダー	13	1. 特別支援教育の視点から	14	1. 生涯教育の時代	15	終講試験・まとめ
回	内容																																			
1	1. 教育を考える視点																																			
2	1. 人を教えるということ																																			
3	1. 他者とのかかわりを導くこと																																			
4	1. 養護の視点から																																			
5	1. 発達による人の成長																																			
6	1. 家庭と学校																																			
7	1. 教育の目標と評価																																			
8	1. 教育のメディア																																			
9	1. 教育の担い手の専門性																																			
10	1. 教育政策の視点から																																			
11	1. キャリア教育																																			
12	1. 教育とジェンダー																																			
13	1. 特別支援教育の視点から																																			
14	1. 生涯教育の時代																																			
15	終講試験・まとめ																																			
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 教育学，医学書院																																			
参考文献																																				
教育方法	主に講義形式																																			
評価方法	筆記試験 100 点で評価する																																			
履修上の アドバイス	講義を受け、自分が人に何かを教える場面を意識し、教育について主体的に考える習慣をつけるように努めてください。																																			

授業科目	体 育			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	前 中学校教師 齋藤幸子			
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. 積極的に運動に親しみ、運動の楽しさを味わい、明るく豊かで活力ある生活とチームワークを身につける。			
授業計画	回	内 容		場 所
	1	体ほぐし運動（ラジオ体操 ストレッチ）		体育館
	2	グループ編成 バスケットボール		
	3	体ほぐし運動（ラジオ体操 ストレッチ）		体育館
	4	バスケットボール		
	5	体ほぐし運動（ラジオ体操 ストレッチ） バスケットボール、おみこし競争		体育館
	6	体ほぐし運動（ラジオ体操 ストレッチ） バレーボール		体育館
	7	体ほぐし運動（ラジオ体操 ストレッチ）		体育館
	8	バレーボール		
	9	体ほぐし運動（ラジオ体操 ストレッチ）		体育館
	10	バレーボール、おみこし競争		
	11	体ほぐし運動（ラジオ体操 ストレッチ） ドッチボール		体育館
	12	体ほぐし運動（ラジオ体操 ストレッチ） バドミントン		体育館
	13	体ほぐし運動（ラジオ体操 ストレッチ） ドッチボール		体育館
	14	体ほぐし運動（ラジオ体操 ストレッチ） バトミントン		体育館
15	終講試験・まとめ		教室	
テキスト				
参考文献				
必要物品	バスケットボール・バレーボール・バトミントンラケット/シャトル			
授業方法	実技			
評価方法	実技試験は、毎回の授業での評価となる。 （筆記試験 自己評価表 班評価表）			
履修上の アドバイス	スポーツシューズ・ジャージ着用、整髪など身だしなみを整えて、授業に臨むこと。			

授業科目	いのちに学ぶ演習			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力																								
担当講師	病理センター長 野沢佳弘																											
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間																									
授業目標	1. 演習と解剖見学実習を通し、人体の構造と機能についてより明確に理解することができる。																											
授業計画	<table><tr><td>回</td><td>内容</td><td>方法</td></tr><tr><td>1 2</td><td>1. 循環器系 1) 心臓の構造と機能 2) 大動脈の構造と機能</td><td>演習</td></tr><tr><td>3 4</td><td>2. 消化器系 1) 胃の構造と機能 2) 肝臓の構造と機能 3) 十二指腸の構造と機能 4) 小腸の構造と機能 5) 大腸の構造と機能 3. 内分泌系 1) 膵臓の構造と機能 2) 脾臓の構造と機能</td><td>演習</td></tr><tr><td>5 6</td><td>4. 呼吸器系 1) 肺の構造と機能 5. 腎・泌尿器系 1) 腎臓の構造と機能 2) 副腎の構造と機能 6. 生殖器系 1) 子宮の構造と機能</td><td>演習</td></tr><tr><td>7 8</td><td>7. 脳神経系 1) 脳の構造と機能</td><td>演習</td></tr><tr><td>9</td><td>まとめ</td><td>講義</td></tr><tr><td>10 11 12 13 14</td><td>1. 解剖見学実習 1) 骨学・関節 2) 内臓総論 3) 内臓各論 4) 筋学 5) 頭頸・中枢</td><td>見学 実習</td></tr><tr><td>15</td><td>終講試験</td><td></td></tr></table>				回	内容	方法	1 2	1. 循環器系 1) 心臓の構造と機能 2) 大動脈の構造と機能	演習	3 4	2. 消化器系 1) 胃の構造と機能 2) 肝臓の構造と機能 3) 十二指腸の構造と機能 4) 小腸の構造と機能 5) 大腸の構造と機能 3. 内分泌系 1) 膵臓の構造と機能 2) 脾臓の構造と機能	演習	5 6	4. 呼吸器系 1) 肺の構造と機能 5. 腎・泌尿器系 1) 腎臓の構造と機能 2) 副腎の構造と機能 6. 生殖器系 1) 子宮の構造と機能	演習	7 8	7. 脳神経系 1) 脳の構造と機能	演習	9	まとめ	講義	10 11 12 13 14	1. 解剖見学実習 1) 骨学・関節 2) 内臓総論 3) 内臓各論 4) 筋学 5) 頭頸・中枢	見学 実習	15	終講試験	
回	内容	方法																										
1 2	1. 循環器系 1) 心臓の構造と機能 2) 大動脈の構造と機能	演習																										
3 4	2. 消化器系 1) 胃の構造と機能 2) 肝臓の構造と機能 3) 十二指腸の構造と機能 4) 小腸の構造と機能 5) 大腸の構造と機能 3. 内分泌系 1) 膵臓の構造と機能 2) 脾臓の構造と機能	演習																										
5 6	4. 呼吸器系 1) 肺の構造と機能 5. 腎・泌尿器系 1) 腎臓の構造と機能 2) 副腎の構造と機能 6. 生殖器系 1) 子宮の構造と機能	演習																										
7 8	7. 脳神経系 1) 脳の構造と機能	演習																										
9	まとめ	講義																										
10 11 12 13 14	1. 解剖見学実習 1) 骨学・関節 2) 内臓総論 3) 内臓各論 4) 筋学 5) 頭頸・中枢	見学 実習																										
15	終講試験																											
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院																											
参考文献	松村譲児：人体解剖ビジュアル, 医学芸術社 田中越郎：イラストで学ぶ生理学, 医学書院 坂井健雄・岡田隆夫：解剖生理学ワークブック, 医学書院																											
授業方法	演習中心																											
評価方法	終講試験 90 点 課題 10 点 課題提出期限内に提出できない場合は総合点より 3 点減点																											
履修上の アドバイス	既習した形態機能学を必ず復習し、講義に臨むこと。																											

授業科目	からだの理解と看護			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当講師	専任教員 大谷聖子				
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 20 時間		
授業目標	1. 対象に応じて系統的に看護実践できる基本的知識と技術及び態度が理解できる。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	看護倫理について学習する	1. 生命倫理について	グループワーク	
	2 3	形態機能学Ⅰ循環器について学習する	2. 循環器系 1) 構造と機能 2) 看護の根拠	グループワーク	循環器系について学習した内容をまとめておく
	4 5	形態機能学Ⅲ消化器系・内分泌系について学習する	3. 消化器系・内分泌系 1) 構造と機能 2) 看護の根拠	グループワーク	消化器系・内分泌系について学習した内容をまとめておく
	6 7	形態機能学Ⅰ呼吸器系、形態機能学Ⅲ腎泌尿器・生殖器系について学習する	4. 呼吸器系・腎泌尿器系・生殖器系 1) 構造と機能 2) 看護の根拠	グループワーク	呼吸器系・腎泌尿器系・生殖器系について学習した内容をまとめておく
	8 9	形態機能学Ⅲ脳・神経系、形態機能学Ⅱ運動器系について学習する	5. 脳神経系・運動器系 1) 構造と機能 2) 看護の根拠	グループワーク	脳・神経系、運動器系について学習した内容をまとめておく
	10		終講試験		
	テキスト	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院			
参考文献	松村譲児：人体解剖ビジュアル, 医学芸術社 田中越郎：イラストで学ぶ生理学, 医学書院 坂井健雄・岡田隆夫：解剖生理学ワークブック, 医学書院				
授業方法	講義・演習中心				
評価方法	終講試験 90 点 課題 10 点 課題提出期限内に提出できない場合は、総合点から 3 点減点する。				
履修上のアドバイス	既習した形態機能学を必ず復習しておくこと。積極的にグループワークに参加すること。				

授業科目	機能障害と治療概論Ⅱ			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力																											
担当講師	麻酔科医師 岡崎美智弥 / 臨床工学技士 近藤辰則																														
履修時期	2学年 後期	単位数・時間	1単位 15時間																												
授業目標	1. 麻酔についての基礎的知識が理解できる。 2. 救急医療の実際が理解できる。 3. ME 機器に関する基礎的知識が理解できる。																														
授業計画	<table><tr><td>回</td><td>内容</td><td>方法</td><td>担当</td></tr><tr><td>1</td><td>【麻酔の知識】 自動体外式除細動器(AED)の基礎知識</td><td rowspan="5">講義</td><td rowspan="5">麻酔科医師</td></tr><tr><td>2</td><td>手術麻酔の基礎知識①</td></tr><tr><td>3</td><td>手術麻酔の基礎知識②</td></tr><tr><td>4</td><td>侵襲と外傷 救急処置の基礎知識 (心肺蘇生/緊急時の応援要請/BSL/止血法等) VTE とトリアージ</td></tr><tr><td>5</td><td>心肺蘇生の実際</td></tr><tr><td>6</td><td>【ME 機器】 ME 機器の意義・基礎知識</td><td>講義</td><td rowspan="2">臨床工学 技士</td></tr><tr><td>7</td><td>ME 機器の操作・管理の実際</td><td>演習</td></tr><tr><td>8</td><td>終講試験</td><td></td><td>麻酔科医師</td></tr></table>				回	内容	方法	担当	1	【麻酔の知識】 自動体外式除細動器(AED)の基礎知識	講義	麻酔科医師	2	手術麻酔の基礎知識①	3	手術麻酔の基礎知識②	4	侵襲と外傷 救急処置の基礎知識 (心肺蘇生/緊急時の応援要請/BSL/止血法等) VTE とトリアージ	5	心肺蘇生の実際	6	【ME 機器】 ME 機器の意義・基礎知識	講義	臨床工学 技士	7	ME 機器の操作・管理の実際	演習	8	終講試験		麻酔科医師
回	内容	方法	担当																												
1	【麻酔の知識】 自動体外式除細動器(AED)の基礎知識	講義	麻酔科医師																												
2	手術麻酔の基礎知識①																														
3	手術麻酔の基礎知識②																														
4	侵襲と外傷 救急処置の基礎知識 (心肺蘇生/緊急時の応援要請/BSL/止血法等) VTE とトリアージ																														
5	心肺蘇生の実際																														
6	【ME 機器】 ME 機器の意義・基礎知識	講義	臨床工学 技士																												
7	ME 機器の操作・管理の実際	演習																													
8	終講試験		麻酔科医師																												
テキスト	新体系 看護学全書 別巻 治療法概説, メヂカルフレンド社																														
参考文献																															
授業方法	講義中心																														
評価方法	筆記試験(100点)で評価する。																														
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。																														

授業科目	呼吸器、循環器の機能障害と治療										
	呼吸器 総合診療科 宮下淳		循環器 第二内科 泉田次郎								
[ディプロマポリシー(DP)との関連]	☒ 人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☒ 根拠に基づいた看護を実践する力 ☐ 看護を通じて地域で活躍する力 ☐ 自ら学び成長し続ける力										
担当講師	総合診療科医師 / 呼吸器科医師		循環器内科医師								
単位数・時間	1 単位 30 時間										
履修時期/時間	2 学年 前期/15 時間		2 学年 前期/15 時間								
授業目標	1. 呼吸器の機能障害と治療について理解できる。 2. 循環器の機能障害と治療について理解できる。										
授業計画	共通事項 *分類/診断基準/病態・症状/原因/検査・診断/治療										
	回	内容	方法	担当	回	内容	方法	担当			
	1	1. 上気道感染症/下気道感染症 2. 肺炎(細菌性・非定型・誤嚥性)	講義	総合診療科 医師	1	1. 心不全	講義				
	2	3. 肺結核症 (感染症法・ツベルクリン反応・抗結核薬)			2	2. 弁膜症 (僧帽弁狭窄症/ 僧帽弁閉鎖不全症/ 大動脈弁狭窄症/ 大動脈弁閉鎖不全症)					
	3	4.慢性閉塞性肺疾患(COPD) 定義・病態・酸素療法 (NIPPV*在宅含む) 5. 気管支喘息 (吸入薬を含めた薬物療法、気管支拡張薬・去痰薬・ステロイド)			3	3. 心膜炎(急性心膜炎/心タンポナーゼ)					
	4	6. 呼吸不全 (Ⅰ・Ⅱ) 7. 間質性肺炎			4	4. 狭心症 5. 心筋梗塞					
	5	8. 肺高血圧 9. 肺血栓塞栓症 10. 過換気症候群			5	6. 心筋症(拡張型心筋症/肥大型心筋症)					
	6	1. 手術療法 1) 代表的な開胸方法 2) 代表的な呼吸器手術の術式 3) 閉胸の実際(胸腔ドレナージ) 4) 術後管理 5) 術後合併症 2. 原発性肺癌(分類) 3. 転移性肺腫瘍(抗癌剤も) 4. 中皮腫		呼吸器科 医師	6	7. 不整脈(心電図の読み方も含む) 1) 期外収縮 2) 頻脈性不整脈 3) 徐脈性不整脈 (洞不全症候群/房室ブロック/脚ブロック)					
	7	5. 外傷性気胸・血気胸 6. 自然気胸 7. 肺膿瘍 8. 縦隔気腫 9. 縦隔腫瘍			7	8. 先天性心疾患 1) 心房中隔欠損症・心室中隔欠損症 2) 動脈管開存症 3) ファロー四徴症など *手術療法も含む					
	8	終講試験			8	9. 血管系疾患 1) 大動脈瘤・大動脈解離 2) 閉塞性動脈硬化症 3) 挫滅症候群 4) 静脈瘤・静脈血栓症					
						7			10. 血圧異常 1) 高血圧(本態性/二次性) 2) 起立性低血圧 11. ショック		
						8			終講試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器, 医学書院			系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器, 医学書院							
参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院 2. 松村譲児: 人体解剖ビジュアル, 医学芸術社 3. 田中越郎: イラストで学ぶ生理学, 医学書院										
授業方法	講義中心										
評価方法	呼吸器(100 点)/循環器(100 点)で筆記試験を行い、平均点で評価する。										
履修上のアドバイス	講義には集中して臨み、形態機能学を必ず復習をしておくこと。										

授業科目	血液・造血器の機能障害と治療			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	血液腫瘍センター長 三田正行			
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間	
授業目標	1. 血液・造血器の機能障害と治療について理解できる。 2. アレルギー・免疫の機能障害と治療について理解できる。 3. 膠原病とその類縁疾患の機能障害と治療について理解できる。			
授業計画	共通事項 *分類/診断基準/病態・症状/原因/検査・診断/治療			
	回	内容		方法
	1	*血液の成分・造血のしくみ復習 1. 貧血 1) 鉄欠乏性貧血 2) 巨赤芽球性貧血 3) 赤芽球癆		講義
	2	4) 溶血性貧血 5) 再生不良性貧血		
	3	2. 腫瘍 1) 急性白血病 2) 慢性リンパ性白血病		
	4	3) 悪性リンパ腫 4) 多発性骨髄腫 3. 白血球減少症/無顆粒球症		
	5	4. 出血性疾患 1) 血友病 2) 播種性血管内凝固症候群(DIC) 3) 血小板減少性紫斑病(TTP・ITP)		
	6	5. アレルギー疾患・免疫疾患 1) 疾患が起こるメカニズム 2) アレルギー疾患・免疫疾患の主な症状 (1) I 型 (2) II 型 (3) III 型 (4) IV 型 3) 主なアレルギー疾患の病態と治療 *気管支喘息・アレルギー性鼻炎・アトピー性皮膚炎等は感覚器系で学ぶ		
	7	4) 主な自己免疫疾患の病態と治療 (1) 全身性エリテマトーデス (2) 強皮症 (3) シェーグレン症候群 (4) ベーチェット病		
	8	終講試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー 膠原病・感染症, 医学書院			
参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院 2. 松村譲児：人体解剖ビジュアル, 医学芸術社 3. 田中越郎：イラストで学ぶ生理学, 医学書院			
授業方法	講義中心			
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。			
履修上のアドバイス	講義には集中して臨み、形態機能学を必ず復習をしておくこと。			

授業科目	内分泌・代謝の機能障害と治療			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☐看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力
担当講師	第三内科医師 平井裕之			
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間	
授業目標	1. 内分泌の機能障害と治療について理解できる。 2. 代謝の機能障害と治療について理解できる。			
授業計画	共通事項 *分類/診断基準/病態・症状/原因/検査・診断/治療			
	回	内容		方法
	1	1. 糖尿病 1) 糖尿病の疫学		講義
	2	2) 糖尿病の病因、症状		
	3	3) 糖尿病の合併症		
	4	4) 糖尿病の治療 (1) 食事療法 (2) 運動療法 (3) 薬物療法 (インスリン補充療法/インクレチン関連薬/糖尿病治療内服薬)		
	5	2. 脂質異常症(高脂血症) 3. 尿酸代謝障害/痛風 4. ビタミン欠乏症 5. メタボリックシンドローム・肥満症		
	6	6. ホルモン・内分泌とは 1) おもな身体症状 2) 内分泌検査 3) 脳下垂体疾患 4) 甲状腺疾患/副甲状腺疾患 5) 上皮小体疾患		
	7	6) 副腎疾患 7) 消化管ホルモンの異常 8) 多発性内分泌腫瘍症		
	8	終講試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝, 医学書院			
参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院 2. 松村譲児: 人体解剖ビジュアル, 医学芸術社 3. 田中越郎: イラストで学ぶ生理学, 医学書院			
授業方法	講義中心			
評価方法	筆記試験(100 点)で評価する。			
履修上のアドバイス	講義には集中して臨み、形態機能学を必ず復習をしておくこと。			

授業科目	消化器の機能障害と治療							
	内科的治療			外科的治療				
担当講師	第一内科医師 小林茂之			消化器外科医師 竹村真一				
[ディプロマポリシー(DP)との関連]	☒ 人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☒ 根拠に基づいた看護を実践する力 ☐ 看護を通じて地域で活躍する力 ☐ 自ら学び成長し続ける力							
単位数・時間	1 単位 30 時間							
履修時期/時間	2 学年 前期/15 時間			2 学年 後期/15 時間				
授業目標	1. 消化器の機能障害と治療について理解できる。							
授業計画	共通事項 *分類/診断基準/病態・症状/原因/検査・診断/治療							
	回	内容	方法	回	内容	方法		
	1	1. 消化器疾患の主な症状 1) 食欲不振 2) 胸焼け 3) 嘔気 4) 吃逆 5) 悪心・嘔吐 6) 下痢 7) 便秘 8) 吐血・下血 9) 腹痛 10) 腹部膨満 11) るいそう 2. 肝・胆・膵疾患の主な症状 1) 黄疸 2) 浮腫・腹水 3) 肝性昏睡 4) 肝・脾腫大 5) 門脈圧亢進等	講義	1	1. 手術療法 2. 乳腺疾患	講義		
		2		3. 食道疾患 1) 食道アカラシア 2) 食道裂孔ヘルニア 3) 食道癌 4) 食道狭窄	2			
				4. 胃癌	3			
				5. 小腸・大腸疾患 1) 小腸腫瘍 2) 大腸ポリープ 3) 大腸癌 4) 急性虫垂炎 5) イレウス 6) 痔核 7) 肛門周囲膿瘍 8) 直腸脱 9) ヘルニア 10) 腹膜炎	4 5			
				6. 胆嚢・胆道疾患 1) 胆石症(腹腔鏡も含む) 2) 急性胆嚢炎 3) 胆管炎 4) 胆嚢癌 5) 胆管癌 7. 膵臓癌	6			
	8. 肝疾患 1) 肝細胞癌 2) 転移性肝癌 3) 肝膿瘍 4) 食道静脈瘤			7				
	8			終講試験	8			
	テキスト			系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器, 医学書院			系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器, 医学書院	
	参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院 2. 松村譲児: 人体解剖ビジュアル, 医学芸術社 3. 田中越郎: イラストで学ぶ生理学, 医学書院						
	授業方法	講義中心						
	評価方法	内科的治療(100点)/外科的治療(100点)で筆記試験を行い、平均点で評価する。						
	履修上のアドバイス	講義には集中して臨み、形態機能学を必ず復習をしておくこと。						

授業科目	脳・神経の機能障害と治療			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☐看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力	
担当講師	脳神経外科医師 三野正樹/ 脳神経内科医師 榎本博之				
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	1. 脳・神経の機能障害と治療について理解できる。				
授業計画	共通事項 *分類/診断基準/病態・症状/原因/検査・診断/治療				
	回	内容		方法	担当
	1	1. 意識障害 2. 高次脳機能障害 3. 運動機能障害 4. 感覚機能障害 5. 反射性運動の障害 6. 頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア		講義	脳神経外科医師
	2	7. 診断と診療の流れ 8. 検査 1) 神経学的診察 2) 補助的検査方法 9. 治療・処置 1) 外科的治療法 2) 内科的治療法 (薬物療法/放射線療法/低体温療法)			
	3	10. 脳血管障害 1) クモ膜下出血 2) 脳内出血 3) 脳梗塞 4) 一過性脳虚血発作 (TIA) 5) 高血圧性脳症 6) もやもや病			
	4	11. 脳腫瘍 12. 脳の感染症			
	5	13. 頭部外傷 14. 脳脊髄液 (髄液) の異常 1) 水頭症 2) 脳脊髄液減少症			
	6 7	15. 脳・脊髄の感染症 1) 髄膜炎 2) 脳炎 3) 多発性硬化症 16. 脳・脊髄の変性疾患 1) アルツハイマー病 2) パーキンソン病 3) 筋萎縮側索硬化症 (ALS) 4) ギランバレー症候群 17. 脳・脊髄の機能性疾患 1) てんかん 2) 片頭痛・神経痛			脳神経内科医師
	8	終講試験			
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院			
参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院 2. 松村譲児：人体解剖ビジュアル, 医学芸術社 3. 田中越郎：イラストで学ぶ生理学, 医学書院				
授業方法	講義中心				
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。				
履修上のアドバイス	講義には集中して臨み、形態機能学を必ず復習をしておくこと。				

授業科目	腎・泌尿器・生殖器の機能障害と治療					
	腎・泌尿器、男性生殖器		女性生殖器			
[ディプロマポリシー (DP)との関連]	☒ 人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☒ 根拠に基づいた看護を実践する力 ☐ 看護を通じて地域で活躍する力 ☐ 自ら学び成長し続ける力					
担当講師	泌尿器科医師 高橋正博		産婦人科医師 山内隆治			
単位数・時間	1 単位 30 時間					
履修時期/時間	2 学年 後期/15 時間		2 学年 後期/15 時間			
授業目標	1. 腎・泌尿器の機能障害と治療について理解できる。 2. 男性生殖器の機能障害と治療について理解できる。 3. 女性生殖器の機能障害と治療について理解できる。					
授業計画	共通事項 *分類/診断基準/病態・症状/原因/検査・診断/治療					
	回	内容	方法	回	内容	方法
	1	1. 泌尿器疾患の診断 1) 診察の方法 ①触診 2) 検査の方法 ①分泌物検査 ②精液検査 ③器械的検査 (カテーテル/ブジー/内視鏡) ④X線検査(尿路造影/膀胱造影/尿道造影/腎動脈造影) ⑤生検法(腎生検/前立腺生検) 2. 泌尿器疾患の主な治療 1) 尿道拡張法 2) 前立腺マッサージ	講義	1 2	1. 高プロラクチン血症 2. 成人T細胞白血病 3. 性感染症 1) 梅毒 2) 淋病 3) クラミジア感染 4) カンジダ 5) トリコモナス膣炎 6) HIV 感染症 7) 性器ヘルペス 8) 尖圭コンジローマ	講義
	2	3. 腎不全 (メカニズムを重点的に腎移植も含む) 1) 急性腎不全 2) 慢性腎不全 ※血液浄化法は成人看護実践論で学習する		3	4. 外陰部の疾患 1) 外陰炎 2) バルトリン腺炎 3) 外陰癌 5. 膣の疾患 1) 膣内異物 2) 膣炎 3) 膣脱	
	3	4. 腎炎 1) 糸球体腎炎 2) 腎盂腎炎 5. 性感染症 6. 腎・尿管結石 (水腎症 体外衝撃波碎石術)		4 5	6. 子宮の疾患 1) 子宮筋腫 2) 子宮内膜症 3) 子宮頸癌 4) 子宮体癌 7. 絨毛性疾患 1) 胞状奇胎 2) 絨毛癌	
	4	7. 腎腫瘍・尿管腫瘍 (腎臓摘出術も含む) 8. 膀胱腫瘍 (TUR-Bt/尿路変更術:ストーマ)		6	8. 卵巣腫瘍 1) ルティン嚢胞 2) 嚢胞 3) 卵巣癌 9. 子宮外妊娠	
	5	9. 膀胱炎 10. 膀胱尿管逆流 11. 排尿障害 1) 過活動膀胱 2) 尿失禁 3) 夜尿症		7	10. 女性不妊症	
	6	12. 前立腺肥大症(TUR-Pt) 13. 前立腺癌(前立腺全摘出術)		8	終講試験	
	7	14. 尿道下裂 15. 包茎 16. 精巣上体(副睾丸)炎 17. 男性不妊症、男性性機能障害				
	8	終講試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器, 医学書院		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器, 医学書院			
参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院 2. 松村譲児: 人体解剖ビジュアル, 医学芸術社 3. 田中越郎: イラストで学ぶ生理学, 医学書院					
授業方法	講義中心					
評価方法	腎・泌尿器、男性生殖器(100点)/女性生殖器(100点)で筆記試験を行い、平均点を評価する。					
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、形態機能学を必ず復習をしておくこと。					

授業科目	運動器、感覚器の機能障害と治療					
	運動器			感覚器		
[ディプロマポリシー(DP)との関連]	☒ 人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☒ 根拠に基づいた看護を実践する力 ☐ 看護を通じて地域で活躍する力 ☐ 自ら学び成長し続ける力					
担当講師	整形外科医師 小林賢司			皮膚科医師 佐藤正隆 / 眼科医師 荒木聡/ 耳鼻咽喉科医師 石川浩男		
単位数・時間	1 単位 30 時間					
履修時期/時間	2 学年 前期/15 時間			2 学年 後期/15 時間		
授業目標	1 運動器の機能障害と治療について理解できる。			2 感覚器の機能障害と治療について理解できる		
授業計画	共通事項 *分類/診断基準/病態・症状/原因/検査・診断/治療					
	回	内容	方法	回	内容	施設 担当
	1	1. 骨・脊柱の構造と機能/関節の構造と機能 関節運動と(可動域)と肢位/神経の分類/筋肉の構造と機能	講義	1	1.皮膚の構造と機能 2.皮膚疾患の主な症状 3.皮膚疾患の診断と主な治療法 4.皮膚疾患 1)炎症性皮膚疾患：アトピー性皮膚炎/接触性皮膚炎 2)蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症 3)中毒疹・薬疹 4)疥癬(たこ)・鶏目(うおのめ)	講義 皮膚科医師
	2	1. 骨折 1)骨折の分類 2)転位 3)骨折治癒の病態生理 4)症状 5)治療 6)各種の骨折 (1)肋骨骨折 (2)上腕骨類上骨折 (3)橈骨下端(遠位端)骨折 (4)大腿骨頸部・転子部骨折 (5)骨盤骨折 (6)脊椎骨折 等		2	4)水疱症:尋常性天疱瘡 5)物理的原因による熱傷/光線過敏症(慢性光線性皮膚炎) 6)感染性の皮膚疾患:白癬 カンジダ・蜂窩織炎 7)動物寄生性疾患:疥癬 8)ウイルス性疾患:帯状疹 9)皮膚腫瘍:悪性黒色腫 色素性母斑・ケロイド 有棘細胞癌・基底細胞癌	
	3	2. 各種の脱臼 1)肩関節脱臼 2)肘内障 等 3. 筋・腱・靱帯などの損傷 1)アキレス腱断裂 2)膝内症(半月板損傷/靱帯損傷) 等		3	1.眼球・視神経・視路の構造と機能 2.視機能に関連した症状/機能障害 3.眼疾患の診断(眼底検査) 4.眼疾患の主な治療法 (光凝固/手術療法:角膜移植も含む)	講義 眼科医師
	4	4. 神経の損傷 1)脊髄損傷 2)末梢神経損傷(橈骨神経/尺骨神経/正中神経/坐骨神経/腓骨神経) 5. 神経疾患 1)絞扼性神経障害 2)筋萎縮性側索硬化症		4	5.眼疾患 1)眼底(網膜)の疾患 糖尿病性網膜症/網膜剥離 2)水晶体の疾患:白内障・緑内障 3)斜視 など	
	5	6. 先天性疾患 1)筋性斜頸 2)股関節脱臼 3)内反足 4)骨系統疾患 7. 炎症性疾患 1)化膿性骨髄 2)化膿性関節炎 3)変形性股関節症/変形性膝関節症 4)関節リウマチ 5)痛風		5	6.耳鼻・咽頭・喉頭・口腔の構造と機能 2.耳鼻咽喉疾患の主な症状 3.耳鼻咽喉疾患の診断 (純音聴力検査(純音オーディオメトリ)/鼻の診察/経鼻内視鏡検査/味覚検査) 4.耳鼻咽喉疾患の主な治療法 (手術療法も含む)	講義 耳鼻咽喉科医師
	6	8. 骨腫瘍 1)良性骨腫瘍/悪性骨腫瘍 (骨肉腫/転移性骨腫瘍) 9. 脊椎の疾患 1)椎間板ヘルニア 2)腰部脊柱管狭窄症 3)骨粗鬆症 4)側弯症 10. 下肢帯の疾患 1)オスグット-シュラッテル病 2)外反母趾		6	5.耳疾患 1)難聴 2)メニエール病 3)中耳炎 6.鼻疾患/嗅覚障害 1)副鼻腔炎 2)鼻出血 3)アレルギー性鼻炎 7.咽頭・喉頭疾患/味覚障害等 1)扁桃炎(急性・慢性) 2)喉頭癌 3)半回神経麻痺 4)上顎癌など	
	7	ギブス包帯法 ギブスカット 包帯法	講義 演習	7	8 終講試験 皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科医師	
	8	終講試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 医学書院			系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学㉒ 皮膚 医学書院 成人看護学㉓ 眼 医学書院 成人看護学㉔ 耳鼻咽喉 医学書院		
参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院 2. 松村譲児:人体解剖ビジュアル, 医学芸術社 3. 田中越郎:イラストで学ぶ生理学, 医学書院					
授業方法	講義中心					
評価方法	運動器(100点)/感覚器(100点)で筆記試験を行い、平均点で評価する。					
履修上の アドバイス	講義には集中して臨み、形態機能学を必ず復習をしておくこと。					

授業科目	精神の機能障害と治療			[ディプロマポリシー(DP)との関連]	
担当講師	精神科医師 戸田 亘 / 公認心理師 佐々木 愛 作業療法士 村社和紀			☒ 人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☒ 根拠に基づいた看護を実践する力 ☐ 看護を通じて地域で活躍する力 ☐ 自ら学び成長し続ける力	
履修時期	2 学年前期～後期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	1. 精神の機能障害と治療について理解できる。				
授業計画	共通事項 *分類/診断基準/病態・症状/原因/検査・診断/治療				
	回	内容		方法	担当
	1	1. 精神症状論と状態論 2. 主な精神症状		講義	精神科 医師
	2	3. 診断と疾病分類 (DSM・ICD) 4. 精神障害の病態 1) 統合失調症 2) 気分障害		講義	
	3	3) 神経症性障害・ストレス関連障害及び身体表現性障害 4) 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群		講義	
	4	5) パーソナリティ障害 6) 器質性精神障害〈認知症〉 7) 神経発達障害群		講義	
	5	8) 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 9) 秩序破壊的・衝動制御・素行障害群 10) 心身症 5. 薬物療法・電気けいれん療法・精神療法		講義	
	6	6. 主な検査 1) 知能検査 2) 認知症検査 3) 心理検査 7. 精神療法 1) 個人療法 2) 集団精神療法 3) 家族療法		講義	公認 心理師
	7	8. 環境療法・社会療法 1) 作業療法 2) 精神リハビリテーション 3) 集団精神療法 4) デイケアでの活動		講義	作業 療法士
	8	終講試験			精神科 医師
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院				
参考文献	川野雅資【編】：新看護観察のキーポイントシリーズ 精神科Ⅰ, 中央法規 川野雅資【編】：新看護観察のキーポイントシリーズ 精神科Ⅱ, 中央法規 平澤久一：症状別・病態別 25 事例精神科看護技術マスター, 日総研				
授業方法	講義中心				
評価方法	筆記試験 100 点で評価する。				
履修上の アドバイス	1. 講義資料は毎回持参し既習内容を確認すること。 2. 講義と合わせて国家試験出題基準の確認と国家試験問題を解くことで理解を深める。				

授業科目	小児の疾病と治療			[ディプロマポリシー(DP)との関連] ☑人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☐看護を通じて地域で活躍する力 ☐自ら学び成長し続ける力
担当講師	小児科医師			
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間	
授業目標	1. 小児の発達過程における生理的特徴を踏まえ、疾患と治療について理解できる。			
授業計画	共通事項 *分類/診断基準/病態・症状/原因/検査・診断/治療			
	回	内容		方法
	1	1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1) 常染色体異常：ダウン症候群/18トリソミー/13トリソミー等 2) 性染色体異常：クラインフェルター症候群/ターナー症候群等 3) 低出生体重児の疾患		講義
	2	1. 代謝性疾患・内分泌疾患 1) 先天代謝異常症 2) 代謝性疾患(糖尿病・アセトン血性嘔吐症) 3) 内分泌疾患(成長ホルモン分泌不全性低身長・先天性甲状腺機能低下症・クッシング症候群)		講義
	3	3. 免疫・アレルギー・リウマチ疾患 1) 食物アレルギー 2) 気管支喘息 3) リウマチ性疾患(若年型特発性関節炎) 4. 感染性疾患 1) ウイルス感染症(麻疹・風疹・突発性発疹・水痘・手足口病・流行性耳下腺炎・無菌性髄膜炎・インフルエンザ・日本脳炎・急性脳症) 2) 細菌感染症(百日咳・細菌性髄膜炎・溶血性レンサ球菌感染症)		講義
	4	5. 呼吸器疾患 1) クループ症候群 2) 急性気管支炎 3) 急性細気管支炎 4) 肺炎 5) 気管支喘息 6. 悪性新生物疾患 1) 白血病 2) 脳腫瘍 3) 網膜芽腫 4) 神経芽腫 5) ウィルムス腫瘍 6) 骨肉腫		講義
	5	7. 循環器疾患 1) 先天性心疾患(ファロー四徴症) 2) 後天性心疾患(川崎病) 3) 突然死(乳幼児突然死症候群) 8. 血液・造血器疾患 1) 特発性血小板減少性紫斑病 2) 血管性紫斑病		講義
	6	9. 消化器疾患 1) 口腔疾患(唇裂・口蓋裂) 2) 横隔膜の疾患(横隔膜ヘルニア・食道裂孔ヘルニア) 3) 食道の疾患(食道閉鎖症) 4) 胃・十二指腸の疾患(肥厚性幽門狭窄症) 5) 小腸・大腸疾患 (先天性腸閉鎖症・狭窄症・ヒルシュスプルング病・鎖肛・腸重積症・潰瘍性大腸炎) 6) 肝臓胆道疾患(胆道閉鎖症) 7) 急性乳児下痢症、急性胃腸炎(ロタウイルス感染症・ノロウイルス感染症)		講義
	7	10. 腎・泌尿器・生殖器疾患 1) 糸球体腎炎 2) ネフローゼ症候群 3) 溶レン菌感染後急性糸球体腎炎 11. 神経疾患 1) 神経系の先天異常(二分脊椎・水頭症) 2) 痙攣性疾患(てんかん・熱性痙攣) 3) 脳性麻痺		講義
	8	終講試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院			
参考文献	レビューブック MEDIC MEDIA			
授業方法	講義			
評価方法	筆記試験(100点)で評価する。			
履修上のアドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習をしておくこと。 小児看護には、上述のような小児の成長・発達、各種疾病についての病態生理、症状、治療および予後などについて学習しなければならないが、授業時間が限られているので、必須事項に関して重点的に講義することにして、残りは学習参考書などで自己学習する必要がある。			

授業科目	地域包括ケアシステム論			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当講師	介護老人保健施設施設長 星竹敏 介護老人保健施設看護師片野めぐみ/専任教員 芳賀洋平				
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	1. 地域包括ケアシステムの概要が理解できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける多職種との連携・協働の必要性を学び、看護師の役割を理解する。				
授業計画	回	内容	方法	担当	
	1	1. 地域包括ケアシステム 1) 地域包括ケアシステムとは (1) 地域包括ケアシステムの背景 (2) 地域包括ケアシステムの機能 (3) 自助・互助・共助・公助 2) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関 (1) 提供されるサービス (2) 地域包括ケアシステムの今後の課題	講義	介護老人保健施設施設長	
	2	2. 地域包括支援センター 1) 地域包括支援センターの機能 2) 地域包括支援センターの業務 3) 包括的支援事業	講義	介護老人保健施設施設長	
	3	3. 地域包括ケアと地域ケア会議 1) 地域ケア会議とは 2) 地域ケア会議の5つの機能 3) 地域ケア会議の設置主体と関係職種 4) 地域ケア会議における看護職種の役割	講義	介護老人保健施設施設長	
	4	4. 医療と介護の連携 1) 医療機関における入退院時の連携 2) 医療施設や介護施設との連携 (1) 医療施設と介護施設 3) 継続看護	講義	介護老人保健施設施設長	
	5	5. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割 6. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 1) 行政機関との連携 2) 地域包括支援センターとの連携 3) 居宅介護支援事業所との連携 4) 介護サービス事業所との連携 5) 住民との連携と見守りネットワーク	講義	介護老人保健施設看護師	
	6	7. 私達が考える地域包括ケアシステムの構築事例 グループワーク	講義 演習	専任教員	
	7	8. 私達が考える地域包括ケアシステムの構築 発表	講義 演習	専任教員	
	8	終講試験		介護老人保健施設施設長	
テキスト	1. 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤。医学書院。 2. 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践。医学書院。				
参考文献	1. 地域包括ケアのキホン。荒神裕之。秀和システム				
授業方法	講義・演習				
評価方法	筆記試験（90 点）、発表内容・発表資料；グループ評価（10 点）で評価する。				
履修上のアドバイス	様々な健康課題を抱える対象が、住み慣れた地域での生活を営むことができるようなケアシステムという観点から、看護師がどのように専門能力を発揮できるか考えながら学びましょう。				

授業科目	暮らしと社会福祉演習			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	社会福祉士 細田勉 / 専任教員 芳賀洋平			
履修時期	2学年 後期	単位数・時間	1単位 15時間	
授業目標	1. 暮らしを支える社会福祉、関連職種の役割を理解し、対象に必要な社会資源の活用について考える。			
授業計画	回	内容	方法	担当
	1	暮らしを支える社会福祉、関連職種の役割	講義 GW	社会福祉士
	2 3	「暮らしを支える演習①」 1) 事例検討 大腸がんによりストーマ造設した事例 ・医療保険制度、介護保険制度、年金制度 社会福祉、生活保護法、障がい者福祉施策 等	GW	専任教員
	4	「暮らしを演習発表会①」	講義 演習	社会福祉士
	5 6	「暮らしを支える演習②」 1) 事例検討 母子家庭における事例 ・医療保険制度、社会福祉、生活保護法 児童福祉	GW	専任教員
	7	「暮らしを支える演習発表会②」	講義 演習	社会福祉士
	8	終講試験・まとめ		専任教員
	テキスト	新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉, メヂカルフレンド社		
参考文献	国民衛生の動向, 厚生労働統計協会 (8～9 月発行)			
授業方法	演習中心			
評価方法	筆記試験 (60 点) 演習の取り組み (40 点) で評価する。			
履修上の アドバイス	演習への取り組みが学びに大きく影響するため、積極的に実施すること。			

授業科目	看護研究Ⅰ			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 □根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 ☑自ら学び成長し続ける力																											
担当講師	専任教員 志田淳子																														
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間																												
授業目標	1. 看護実践における研究の意義や目的及び研究のプロセスを理解する。																														
授業計画	<table><tr><td>回</td><td>内容</td><td>方法</td></tr><tr><td>1</td><td>1. 看護研究とは 1) 看護研究とは 2) 看護研究の目的 3) 研究課題の明確化</td><td>講義 演習</td></tr><tr><td>2</td><td>2. 文献のクリティーク 3. 看護研究のプロセス 1) 文献検索・文献検討 2) 研究テーマの決定</td><td>講義 演習</td></tr><tr><td>3</td><td>3. 看護研究のプロセス 3) 研究計画書の作成</td><td>講義 演習</td></tr><tr><td>4</td><td>3. 看護研究のプロセス 4) 倫理的配慮</td><td>講義 演習</td></tr><tr><td>5</td><td>3. 看護研究のプロセス 5) 看護研究の種類 6) データの収集方法</td><td>講義 演習</td></tr><tr><td>6</td><td>3. 看護研究のプロセス 7) データの分析方法</td><td>講義 演習</td></tr><tr><td>7</td><td>3. 看護研究のプロセス 8) 抄録・論文の構成と書き方 9) 研究成果のまとめ</td><td>講義 演習</td></tr><tr><td>8</td><td>終講試験 研究成果の発表</td><td></td></tr></table>				回	内容	方法	1	1. 看護研究とは 1) 看護研究とは 2) 看護研究の目的 3) 研究課題の明確化	講義 演習	2	2. 文献のクリティーク 3. 看護研究のプロセス 1) 文献検索・文献検討 2) 研究テーマの決定	講義 演習	3	3. 看護研究のプロセス 3) 研究計画書の作成	講義 演習	4	3. 看護研究のプロセス 4) 倫理的配慮	講義 演習	5	3. 看護研究のプロセス 5) 看護研究の種類 6) データの収集方法	講義 演習	6	3. 看護研究のプロセス 7) データの分析方法	講義 演習	7	3. 看護研究のプロセス 8) 抄録・論文の構成と書き方 9) 研究成果のまとめ	講義 演習	8	終講試験 研究成果の発表	
回	内容	方法																													
1	1. 看護研究とは 1) 看護研究とは 2) 看護研究の目的 3) 研究課題の明確化	講義 演習																													
2	2. 文献のクリティーク 3. 看護研究のプロセス 1) 文献検索・文献検討 2) 研究テーマの決定	講義 演習																													
3	3. 看護研究のプロセス 3) 研究計画書の作成	講義 演習																													
4	3. 看護研究のプロセス 4) 倫理的配慮	講義 演習																													
5	3. 看護研究のプロセス 5) 看護研究の種類 6) データの収集方法	講義 演習																													
6	3. 看護研究のプロセス 7) データの分析方法	講義 演習																													
7	3. 看護研究のプロセス 8) 抄録・論文の構成と書き方 9) 研究成果のまとめ	講義 演習																													
8	終講試験 研究成果の発表																														
テキスト	前田樹海：はじめての看護研究，ナツメ社																														
参考文献	高谷修：看護学生のためのレポート・論文の書き方，金芳堂 足立はるゑ：看護研究サポートブック（改訂4版），メディカ出版 及川慶浩：はじめての看護研究～計画書の書き方編～，メディカ出版 及川慶浩：はじめての看護研究～統計学編～，メディカ出版 及川慶浩：はじめての看護研究～アンケート調査編～，メディカ出版 及川慶浩：らくらく統計ナース Expert，メディカ出版																														
授業方法	講義・演習形式																														
評価方法	筆記試験：50 点 演習および GW（成果物）：50 点																														
履修上の アドバイス	看護研究は専門職として行うことが求められており、卒業後に臨床で活用していくものです。そのため、看護研究に必要な基礎的知識や基礎的技術は看護基礎教育において、習得しておく必要があります。 看護研究Ⅰでは看護研究のプロセスを学び実際に取り組みます。3 年次の看護研究Ⅱでは、看護研究Ⅰで学んだことを活かし看護研究発表会（終講試験）を行います。																														

授業科目	臨床判断技術Ⅱ（臨床判断）			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 柳沼美穂子 / 専任教員 大谷聖子					
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 22 時間			
授業目標	1. 対象の今に対応した柔軟な看護を実践する基礎的能力を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1		1. 臨床判断能力とは 1) 臨床判断能力が必要とされる背景 2) 臨床判断・臨床推論・臨床思考 3) 臨床判断のプロセス ①気づき ②解釈 ③反応 ④省察	講義 演習	専任教員①	
	2	バリエーションの提示	2. 事例をもとにしたシミュレーション学習 1) 検温で異常値だった場合の対応 ①ペーパーシミュレーション ②実技演習	演習	専任教員②	実技練習
	3 4	実技練習	③実技発表 ・ブリーフィング ・シミュレーション ・デブリーフィング	演習		実技発表後の振り返り
	5		2) 清潔援助時の対応 ①ペーパーシミュレーション ②実技演習	演習	専任教員①	実技練習
	6 7	実技練習	③実技発表 ・ブリーフィング ・シミュレーション ・デブリーフィング	演習		実技発表後の振り返り
	8	受傷時の提示	3) 転倒・転落時の対応 ①ペーパーシミュレーション ②実技演習	演習		実技練習
	9 10	実技練習	③実技発表 ・ブリーフィング ・シミュレーション ・デブリーフィング	演習	専任教員②	実技発表後の振り返り
	11		3. まとめ 1) 実技発表を通しての振り返り 2) ポートフォリオのまとめ	講義 GW	専任教員①	全体を通じた振り返り
テキスト	1. 系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 2. 系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院 3. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院					
参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA					
使用教材	<検温>聴診器、電子血圧計、体温計、SpO ₂ 測定器、SCENARIO 等 <清潔>洗髪車、洗髪プール、足浴バケツ、湯温計、清拭用ディスポタオル、陰部モデル 等 <転倒・転落>車いす、杖 等 <その他>電子黒板、カメラ					
授業方法	講義、演習（実技練習・実技発表）					
評価方法	ポートフォリオ（50 点）、取り組み姿勢（20 点）、プレゼンテーション（20 点）、最終レポート（10 点）の合算を科目評価点とし、課題提出遅れ・忘れは総合点から 3 点減点とする。					
履修上のアドバイス	この科目では、臨床判断を行うための考え方や観察力を学び、授業のほとんどがグループ演習です。これまで得た知識や技術を駆使して自ら考え、またグループ内でディスカッションを重ね、グループメンバーと協力し、その時々の対象の最大の関心事に対応できる力を養いましょう。					

授業科目	在宅療養を支える看護Ⅰ			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	地域医療連携室室長 中田美智子/ 専任教員 和知綾乃 白河市地域包括支援センター 林佳代子/ 茂木美佳					
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間			
授業目標	1. 地域・在宅看護の対象者を説明できる。 2. 保健・医療・福祉の連携の重要性を学び、多職種連携の必要性を理解する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1		1. 地域・在宅看護の対象 1) 地域・在宅看護の対象者 2) 在宅療養者の権利保障 (1) 個人の尊厳 (2) 自己決定権 (3) 個人情報の保護 (4) 成年後見 (5) 虐待の防止	講義	専任教員	基本的人権、個人情報、成年後見、高齢者虐待
	2	難病	3) 訪問看護の対象者 (1) 高齢者 (2) 認知症 (3) 難病 (4) 小児	講義	専任教員	
	3	老人福祉法 老人保健法 介護保険法	2. 地域・在宅看護に関わる制度とその活用 1) 介護保険制度の創設と発展経緯 (1) 介護保険制度 (2) 介護保険の被保険者 (3) 介護サービスの利用の実際 2) ケアマネジメントと在宅ケアシステム の実際	講義	地域包括支援 センター	地域における福祉サービス
	4		3. 地域・在宅看護実践の場と連携 1) おもな地域・在宅看護実践の場 (1) 居宅(自宅、施設) (2) 病院(外来、入院)、診療所 (3) 療養通所介護事業所 (4) 訪問看護事業所 (5) 通所サービス (6) 地域包括支援センター (7) 看護小規模多機能型居宅介護 (8) 介護施設、老人保健施設 など	講義	専任教員	＜施設の特徴＞ 療養通所介護 通所サービス 地域包括支援センター 看護小規模多機能型居宅介護 老人保健施設
	5	退院支援	4. 地域・在宅看護における多職種連 1) 施設と在宅を結ぶ看護 (1) 地域連携と看護の役割 (2) 退院支援・調整の実際	講義	地域医療 連携室 室長	退院支援看護 師について
	6		2) 多職種連携・支援のネットワーク 3) 住民との連携 4) 関係諸機関・多職種との連携・チー ムでの協働	講義	専任教員	
	7		5) 住み慣れた家で安心して生活するこ とを支援するために (1) 地域在宅医療拠点センターの役割 (2) 在宅医療と介護の連携	講義	専任教員	在宅医療と介 護
	8		終講試験		専任教員	
テキスト	1. 系統看護学講座 地域・在宅看護論①地域・在宅看護論の基盤。医学書院 2. 系統看護学講座 地域・在宅看護論②地域・在宅看護論の実践。医学書院					
参考文献	1. ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア。メディカ出版 2. 基礎からわかる地域・在宅看護論。照林社					
授業方法	講義・GW					
評価方法	筆記試験(100 点)で評価する。提出期限が守れない場合は、総合点から 3 点減点とする。					
履修上の アドバイス	地域・在宅看護のニーズが高まり、看護の場が広がっています。対象を理解し、その人らしい生活を支えるためにはどのような職種との連携が必要か考えながら臨みましょう。					

授業科目	在宅療養を支える看護Ⅱ			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力			
担当講師	訪問看護認定看護師 神田やよえ／専任教員 和知綾乃						
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 30 時間				
授業目標	1. 訪問看護のシステムを学び、訪問看護の方法を理解する。 2. 在宅看護における生活支援の方法と看護実践に必要な基本的技術を習得する。						
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習	
	1 2		1. 在宅療養を支える看護の実践 1) 訪問看護の制度 (1) 訪問看護の利用者 (2) 訪問看護ステーションに関する規定 (3) 訪問看護に関わる特定疾患 (4) 訪問看護ステーションの業務と特徴 (5) 訪問看護に関する記録	講義	訪問看護認定看護師	訪問看護ステーションの規定	
	3		2) 地域・在宅看護の介入時期別の看護の実際 (1) 予防段階 (2) 外来時 (3) 入院時 (4) 在宅療養準備期（退院前） (5) 在宅療養移行期 (6) 在宅療養安定期 (7) 在宅におけるリハビリテーション看護 (8) 急性増悪期慢性期	講義	専任教員	各期の特徴	
	4			講義	専任教員		
	5 6 7 8	訪問時のマナー	3) 地域・在宅看護過程の展開 (1) 地域・在宅看護過程の特徴 (2) 情報収集とアセスメント (3) 目標・計画 (4) 実施・評価 2. 初回訪問の実践 1) 訪問前の準備と訪問時のマナー 2) ロールプレイ 3) コミュニケーション 4) パートナーシップ	講義 講義 演習	専任教員 専任教員	事例に応じた看護過程の展開 ロールプレイに向けた練習	
	9	フィジカルアセスメントの目的	3. 在宅看護のフィジカルアセスメント 1) 目的 2) 在宅におけるフィジカルアセスメントの構成 3) フィジカルアセスメントの実際	講義 演習	専任教員	演習の振り返り	
	10 11 12 13 14	基礎看護技術（食事援助技術・排泄援助技術・清潔援助技術）	4. 日常生活のアセスメントと暮らしを支える看護技術・社会資源の活用 1) 食生活 2) 排泄 3) 清潔 4) 身体運動機能の低下・予防・移動 5) 療養者と家族の住環境	講義 演習	専任教員	技術練習	
	15		終講試験		専任教員		
	テキスト	1. 系統看護学講座 地域・在宅看護論②地域・在宅看護論の実践, 医学書院 2. 押川真喜子【監修】：写真で分かる訪問看護, インターメディカ					
	参考文献	1. 臺有桂/石田千絵：在宅看護論① 地域療養を支えるケア, メディカ出版 2. 上野まり/石垣和子：在宅看護論, 南江堂					
授業方法	講義・演習・GW						
評価方法	筆記試験（100 点）で評価する。 課題が期限内に提出できなかった場合は、総合点から 3 点減点とする。						
履修上のアドバイス	演習及びグループ学習が中心であるため、各自の取り組み状況が学びに大きく影響することを自覚して臨んでほしい。暮らしを支える援助技術では、退院した後の患者の住宅や住環境を想像しながら、既習した基礎看護技術を創意工夫して臨む。						

授業科目	成人看護学実践論Ⅰ（呼吸機能障害をもつ対象の看護）					
担当講師	専任教員 知々田綾 / 看護師 大西啓子 / 理学療法士 大高拓也					
履修時期	2 学年 後期			単位数・時間	1 単位 20 時間	
授業目標	呼吸機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	看護活動の基本	1. 呼吸器疾患の動向と看護に求められること 1) 医療の動向と看護 2) 患者の特徴と看護の役割 2. 呼吸機能の障害をもつ対象の必要な看護 1) 必要な観察とアセスメントの視点 2) 治療処置の看護とアセスメントの視点 3) 検査の看護とアセスメントの視点 4) 日常生活援助とアセスメントの視点	講義 GW	専任教員	看護学生のためのレビューブックのまとめ 重要疾患ドリル「解剖生理ドリル」呼吸器復習〇×問題」「呼吸器力だめし国師問題」
	2	観察とアセスメント	1. 必要な観察とアセスメント 1) 観察ポイント 2) アセスメントの視点			
	3	治療・処置を受ける対象の看護	1. 治療・処置を受ける対象の看護 1) 肺理学療法 (1) スクイーミングの実際 (2) 体位ドレナージ、タッピング 2) 包括的呼吸リハビリテーション	講義 演習	理学療法士	
	4		3) 酸素療法 (1) 非侵襲的陽圧換気法 (2) 侵襲的陽圧換気法 人工呼吸器・気管内挿管、気管切開	講義 GW	看護師	
	5		4) 喀痰の吸引 5) 薬液吸入 6) 薬物療法（化学療法、抗菌薬） 7) 胸腔穿刺・胸腔ドレナージ 8) 肺生検 9) 内視鏡的肺切除術 10) 末梢循環促進ケア			
	6	検査を受ける対象の看護	2. 検査を受ける対象の看護 1) 動脈血ガス分析 2) 呼吸機能検査 3) 気管支鏡検査 4) 胸部エックス線検査、胸部 CT 検査 5) 喀痰細胞診、喀痰培養	講義 GW	看護師	
	7	ADL、IADL の援助とアセスメント	3. 日常生活援助とアセスメント 1) 食事、排泄、清潔、安静・姿勢、環境 2) IADL	講義 GW	専任教員	
	8	病期や機能障害に応じた看護	1. 肺がん罹患した対象の看護 1) 病像のとらえ方 2) 主な症状 3) 周術期、終末期看護のポイント	講義 GW		
	9	病期や機能障害に応じた看護	1. COPD に罹患した対象の看護 1) 病像のとらえ方 2) 主な症状 3) 急性増悪期、慢性期看護のポイント 4) 呼吸機能の障害をもつ対象が利用できる社会資源	講義 GW		
10		終講試験・まとめ		専任教員		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器, 医学書院. 石川ふみよ他【監修】: 疾患別 看護過程の展開 第6版, 学研. 任和子/秋山智弥【編集】: 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院. 岡庭豊【編集】: 看護学生のためのレビューブック2023, メディックメディア.					
参考文献	授業・実習・国試に役立つ! 看護学生のための重要疾患ドリル, メチカルフレンド社.					
授業方法	講義・演習・GW					
評価方法	筆記試験(90点)、課題(10点)、合計100点で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。					
履修上のアドバイス	・呼吸の解剖生理、病態と症状、検査データなど講義前には必ず復習して臨むこと。 ・演習時には私語を慎み学ぶ姿勢を大切に行動すること。					

授業科目	成人看護学実践論Ⅱ (循環機能障害をもつ対象の看護)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 柳沼美穂子 / 看護師 木戸小百合					
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 20 時間			
授業目標	1. 循環機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	循環器疾患の動向	1. 循環機能障害をもつ対象への看護活動の基本 1) 医療の動向と看護 2) 患者の特徴と看護の役割 3) 疾患の経過と看護 4) 対象が利用できる社会資源	講義	専任教員	重要疾患ドリル 「解剖生理ドリル」 「高血圧」「ショック」
	2・3	課題プリント「虚血性心疾患の基礎知識」	2. 虚血性心疾患をもつ患者の看護 1) 急性期の看護 2) 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護 3) 回復期の看護	講義	専任教員	重要疾患ドリル 「虚血性心疾患」
	4・5	課題プリント「心不全の基礎知識」	3. 心不全患者の看護 1) 急性心不全(慢性心不全の急性増悪も含む)患者の看護 2) 慢性心不全患者の看護	講義	専任教員	重要疾患ドリル 「心不全」「心臓弁膜症」
	6	課題プリント「不整脈の基礎知識」	4. 不整脈をもつ患者の看護 1) 動悸を訴える患者の看護 2) 薬物療法を受ける患者の看護 3) ペースメーカを装着した患者の看護	講義	看護師	重要疾患ドリル 「不整脈」
	7		5. 動脈疾患を持つ患者の看護 1) 大血管再建術を受ける患者の看護 2) 下肢動脈閉塞症をもつ患者の看護	講義	専任教員	重要疾患ドリル 「大動脈瘤」 「大動脈解離」 「閉塞性動脈硬化症」
	8	急性心筋梗塞の病態生理	6. パーパシミュレーション学習 1) 急性心筋梗塞で入院した事例 2) 慢性心不全の急性増悪で入院した事例	GW 演習	専任教員	重要疾患ドリル 「循環器復習〇×問題」
	9	慢性心不全の病態生理	7. シミュレーション学習(実技) 1) 急性心筋梗塞で入院した事例 2) 慢性心不全の急性増悪で入院した事例	演習	専任教員	重要疾患ドリル 「循環器力だめし国師問題」
	10		終講試験・まとめ		専任教員	
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器, 医学書院 授業・実習・国試に役立つ! 看護学生のための重要疾患ドリル, メチカルフレンド社				
参考文献	医療情報科学研究所【編】: 病気がみえる vol.2 免疫・循環器, MEDIC MEDIA					
評価方法	筆記試験(100点満点)で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。					
履修上のアドバイス	・循環の解剖生理、病態と症状、検査データなど講義前には必ず復習して臨むこと。 ・グループワークは積極的に参加し学びを深めること。 ・演習時には私語を慎み学ぶ姿勢を大切に行動すること。					

授業科目	成人看護学実践論Ⅲ (身体防御・内分泌機能障害をもつ対象の看護)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 大谷聖子 / 看護師 木戸小百合					
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間			
授業目標	1. 身体防御機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。 2. 内分泌機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	重要疾患ドリル 「血液・造血器解剖生理ドリル」	1.血液・造血器疾患をもつ対象の看護活動の基本 1) 患者の特徴と看護の役割 2) 必要な看護とアセスメントの視点 3) 疾患の経過と看護 4) 利用できる社会資源	講義	専任教員	重要疾患ドリル 「貧血」「白血病」 「悪性リンパ腫」
	2・3	重要疾患ドリル「結核」「HIV」 「シェーグレン症候群」 「多発性筋炎・皮膚筋炎」「全身性強皮症」	2.主な検査を受ける対象の看護 血液検査/骨髄検査/リンパ節生検 3.主な治療・処置を受ける対象の看護 1) 無菌室入室時の看護 2) 輸血時の看護 3) 薬物療法時の看護 4) 造血幹細胞移植術時の看護	講義	看護師	重要疾患ドリル 「血液・造血器復習〇×問題」「血液・造血器力だめし国師問題」
	4・5	重要疾患ドリル「アルブー・・・感染症・膠原病解剖生理ドリル」「SLE」「若年性突発性関節炎」「パーキンソン病」	4.代表的な疾患の主な症状と対象への看護 1) 白血病の対象への看護 2) 悪性リンパ腫の対象への看護 3) 多発性骨髄腫の対象への看護 4) 全身性エリテマトーデス(SLE)の対象への看護 5) HIV/AIDS の対象への看護 6) 播腫性血管内凝固症候群(DIC)の対象への看護	講義	専任教員	重要疾患ドリル「アルブー・・・感染症・膠原病復習〇×問題」「アルブー・・・感染症・膠原病力だめし国師問題」
	6	重要疾患ドリル「内分泌・代謝解剖生理ドリル」	1.内分泌機能障害をもつ対象の看護活動の基本 1) 患者の特徴と看護の役割 2) 必要な看護とアセスメントの視点 3) 疾患の経過と看護 2.主な症状に対する看護(皮膚の変化/頭部・頸部・四肢の変化/精神状態・行動の変化) 3.主な治療に対する看護 1) 薬物療法時の看護 2) 手術療法時の看護 3) アイソトープ療法時の看護	GW 演習	専任教員	重要疾患ドリル 「甲状腺機能亢進症」「甲状腺機能低下症」
	7	重要疾患ドリル「甲状腺機能亢進・低下症」「甲状腺がん」「副甲状腺機能亢進症」「副腎疾患」	4. 内分泌機能障害をもつ対象の看護 1) 下垂体疾患をもつ対象の看護 2) 甲状腺疾患をもつ対象の看護 3) 副腎疾患をもつ対象の看護	講義	専任教員	重要疾患ドリル 「内分泌・代謝復習〇×問題」「内分泌・代謝力だめし国師問題」
	8		終講試験	試験	専任教員	
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 ④ 血液・造血器, ⑥ 内分泌・代謝, ⑪ アルブー・・・膠原病感染症, 医学書院 授業・実習・国試に役立つ! 看護学生のための重要疾患ドリル, メヂカルフレンド社				
参考文献	医療情報科学研究所【編】: 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症, vol.3 糖尿病・代謝・内分泌, vol.5 血液, MEDIC MEDIA					
評価方法	筆記試験(90点)、課題(10点)、合計100点で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。					
履修上のアドバイス	・解剖生理、病態と症状、検査データなど講義前には必ず復習して臨むこと。 ・グループワークは積極的に参加し学びを深めること。 ・演習時には私語を慎み学ぶ姿勢を大切に行動すること。					

授業科目	成人看護学実践論Ⅳ (消化・吸収、栄養代謝機能障害をもつ対象の看護)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力			
担当講師	専任教員 志田淳子 皮膚・排泄ケア認定看護師 稲田ゆかり 日本糖尿病療養指導士 中村雅代						
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 30 時間				
授業目標	1. 消化・吸収機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。 2. 栄養代謝機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。						
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習	
	1	消化器疾患の動向	消化・吸収、栄養代謝機能障害をもつ対象の看護活動の基本 1) 患者の特徴と看護の役割 2) 必要な情報とアセスメントの視点 3) 疾患の経過と看護 4) 利用できる社会資源	講義	専任教員	重要疾患ドリル「解剖生理ドリル」	
	2・3	解剖生理(消化器系)	主な検査・治療・処置をうける対象の看護 1) 内視鏡検査 2) 消化管造影 3) 肝生検 4) 食事療法 5) 胃瘻・空腸瘻増設術 6) 薬物療法 7) 手術療法	講義			
	4	食道がんの病態生理	食道がんの対象の看護 1) 病像の捉え方 2) 主な症状 3) 必要な検査、処置、治療の援助 4) 看護のポイント	講義		重要疾患ドリル「食道がん」	
	5	胃がんの病態生理	胃がん、胃・十二指腸潰瘍の対象の看護 1) 病像の捉え方 2) 主な症状 3) 必要な検査、処置、治療の援助 4) 看護のポイント	講義		重要疾患ドリル「胃がん」	
	6	大腸がん・腸閉塞の病態生理	大腸がん、腸閉塞の対象の看護 1) 病像の捉え方 2) 主な症状 3) 必要な検査、処置、治療の援助 4) 看護のポイント	講義		重要疾患ドリル「腸閉塞」	
	7	ストーマの種類	ストーマケアの実際	講義 演習		皮膚・排泄ケア認定看護師	実施ポイントの整理
	8・9	肝硬変・肝臓がんの病態生理	肝硬変、肝臓がんの対象の看護 1) 病像の捉え方 2) 主な症状 3) 必要な検査、処置、治療の援助 4) 看護のポイント	講義	専任教員	重要疾患ドリル「肝炎」「肝硬変」	
	10	胆道疾患・膵臓疾患の病態生理	胆嚢、膵臓に障害のある対象の看護 1) 病像の捉え方 2) 主な症状 3) 必要な検査、処置、治療の援助 4) 看護のポイント	講義		重要疾患ドリル「胆道疾患」「膵臓疾患」	
	11・12	糖尿病の病態生理 血糖正常値 手順の予習	1. 糖尿病の対象の看護 (自己管理と看護/食事療法/運動療法/薬物療法/合併症) 2. 簡易血糖測定の実践の実際 3. インスリン製剤の取り扱いの実際 4. フットケアの実際	講義 演習		重要疾患ドリル「糖尿病」「メチルリックソドム」	
	13	技術練習	簡易血糖検査 演習チェック	演習	日本糖尿病療養指導士	重要疾患ドリル「消化器復習〇×問題」「消化器力だめし国試問題」	
	14	肥満症・脂質異常症・痛風の病態生理	1. 肥満症の対象の看護 2. 脂質異常症の対象の看護 3. 痛風の対象の看護	講義		重要疾患ドリル「脂質異常症」「痛風」「肥満」	
	15		終講試験・まとめ			専任教員	
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器, 成人看護学⑥ 内分泌・代謝, 医学書院 高木永子【監修】:看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, 学研 任和子/秋山智弥【編集】: 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 授業・実習・国試に役立つ! 看護学生のための重要疾患ドリル, メヂカルフレンド社					
	参考文献	1.日本糖尿病学会【編】: 糖尿病の手引き, 南江堂 2.日本糖尿病学会【編】: 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版, 文光堂					
授業方法	講義・演習形式						
評価方法	筆記試験(90点)、課題(10点)、合計100点で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。						
履修上のアドバイス	・消化器の解剖生理、病態と症状、検査データなど講義前には必ず復習して臨むこと。 ・演習時には私語を慎み学ぶ姿勢を大切に行動すること。						

授業科目	成人看護学実践論Ⅴ (脳・神経機能障害をもつ対象の看護)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 大谷聖子 / 看護師 佐藤美鈴					
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間			
授業目標	1. 脳・神経機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1 2	重要疾患ドリル 「脳・神経解剖生理ドリル」 上肢の三角巾固定の手順	1. 脳・神経機能障害の医療の動向 2. 脳・神経機能障害の主な症状と看護 1)言語障害の対象への看護 2)運動機能障害の対象への看護 3)嚥下障害の対象への看護 一脳出血/脳梗塞 【演習】上肢の三角巾固定	講義 演習	専任教員	重要疾患ドリル 「脳梗塞」
	3	頭部外傷の病態生理	1. 外科的治療法を受ける対象への看護 2. 急性期の対象への看護 一頭部外傷	講義	専任教員	重要疾患ドリル 「認知症」
	4	クモ膜下出血の病態生理	1. 頭蓋内圧亢進の対象への看護 2. 脳血管撮影時対象への看護 3. 脳室ドレナージを行っている対象への看護 一クモ膜下出血	講義	看護師	重要疾患ドリル 「クモ膜下出血」
	5	脳腫瘍の病態生理	1. 化学療法・放射線療法を受ける対象への看護 2. 終末期の対象への看護 一脳腫瘍	講義	専任教員	重要疾患ドリル 「脳腫瘍」
	6	髄膜炎・パーキンソン病の病態生理	1. 髄液検査時対象への看護 2. 慢性期対象への看護 一髄膜炎/パーキンソン病	講義	専任教員	重要疾患ドリル 「パーキンソン病」
	7	重症筋無力症 ギランバレー ALSの病態生理	1. 重症筋無力症の対象への看護 2. ギランバレー症候群の対象への看護 3. 筋委縮性側索硬化症の対象への看護	講義	専任教員	重要疾患ドリル 「ALS」「重症筋無力症」「筋ジストロフィー」「脳・神経復習〇×問題」 「脳・神経力だめし国師問題」
	8		終講試験		専任教員	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経,医学書院 授業・実習・国試に役立つ！看護学生のための重要疾患ドリル, メヂカルフレンド社					
参考文献	医療情報科学研究所【編】：病気がみえる vol.7 脳・神経, MEDIC MEDIA					
評価方法	筆記試験(90点)、課題(10点)、合計100点で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。					
履修上の アドバイス	・解剖生理、病態と症状、検査データなど講義前には必ず復習して臨むこと。 ・演習時には私語を慎み学ぶ姿勢を大切に行動すること。					

授業科目	成人看護学実践論Ⅵ (腎・泌尿器、性生殖機能障害をもつ対象の看護)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し 合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 和知綾乃 透析看護認定看護師 三村直美 乳がん看護認定看護師 小針文子 助産師 大澤祐美 / 看護師 古澤浩代					
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 20 時間			
授業目標	1. 腎機能・泌尿器機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。 2. 性生殖機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	腎・泌尿器疾患の動向	1. 腎・泌尿器、性生殖機能障害をもつ対象の看護活動の基本 1) 患者の身体的・心理的・社会的特徴と看護の役割 2) 必要な看護とケアとの視点 3) 疾患の経過と看護 4) 利用できる社会資源 2. 医療の動向と看護	講義 GW	専任教員	重要疾患ドリル 「腎・泌尿器解剖生理ドリル」
	2	腹膜透析 血液透析	3. 急性・慢性腎不全の対象への看護 1) 主な症状 2) アセスメントの視点と看護 3) 対象への生活指導と看護 4) 透析療法と看護 5) 腎移植と看護	講義 GW	透析看護認定看護師	重要疾患ドリル 「急性腎不全」 「慢性腎臓病・慢性腎不全」 「IgA腎症」
	3	尿路結石・前立腺肥大症・前立腺癌の病態生理 重要疾患ドリル「腎盂腎炎」 「水腎症」 「膀胱炎」	4. 尿路結石の対象への看護 1) 主な症状 2) アセスメントの視点と看護 3) 検査・処置に伴う看護のポイント	講義 演習	看護師	重要疾患ドリル 「尿路結石」
	4		5. 前立腺肥大症の対象への看護 1) 主な症状 2) アセスメントの視点と看護 3) 検査・処置に伴う看護のポイント 6. 前立腺癌の対象への看護 1) 主な症状 2) アセスメントの視点と看護 3) 検査・処置に伴う看護のポイント	講義 演習	専任教員	重要疾患ドリル 「前立腺肥大症」「前立腺癌」 「尿失禁」
	5		7. 膀胱癌の対象への看護 1) 主な症状 2) アセスメントの視点と看護 3) 検査・処置に伴う看護のポイント	講義 演習	専任教員	重要疾患ドリル 「膀胱癌」「腎・泌尿器復習〇×問題・力だめし国師問題」
	6 7		8. 女性生殖機能障害をもつ対象の主な検査・治療に伴う看護 1) 乳房超音波検査 2) マンモグラフィー	講義	乳がん看護認定看護師	重要疾患ドリル 「乳腺復習〇×問題・力だめし国師問題」
	8 9	女性生殖機能障害の病態生理	9. 女性生殖機能障害の対象への看護 1) ヒトパピローマウイルス検査 2) 腹部・経膈超音波検査 3) 子宮内膜症 4) 子宮筋腫 5) 子宮頸がん 6) 子宮体がん 7) 乳がん 8) 骨盤臓器脱 9) 老人性陰炎、外陰炎	講義	助産師	重要疾患ドリル 「女性生殖器」 「子宮頸がん」 「子宮体がん」 「乳がん」
	10		終講試験・まとめ		専任教員	
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器, 成人看護学⑨ 女性生殖器, 医学書院 授業・実習・国試に役立つ! 看護学生のための重要疾患ドリル, メヂカルフレンド社				
参考文献	医療情報科学研究所【編】: 病気がみえる vol.8 腎・泌尿器, MEDIC MEDIA 医療情報科学研究所【編】: 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科, MEDIC MEDIA 佐藤エキ子【監修】: 写真でわかる透析看護, インターメディカ、疾患別看護過程 医学書院					
評価方法	筆記試験(90点)、課題(10点)、合計100点で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。					
履修上のアドバイス	・解剖生理、病態と症状、検査データなど講義前には必ず復習して臨むこと。 ・グループワークは積極的に参加し学びを深めること。					

授業科目	成人看護学実践論Ⅶ (運動・感覚器機能障害をもつ対象の看護)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 大谷聖子 / 看護師 中野洋之					
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間			
授業目標	1. 運動機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。 2. 感覚器機能障害をもつ対象の看護を学び、基本的な技術を習得できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	全身の骨格	1. 運動・感覚器機能障害をもつ対象の看護活動の基本 1) 対象の特徴と看護の役割 2) 必要な情報とアセスメントの視点 3) 疾患の経過と看護 4) 対象が利用できる社会資源	講義	専任教員	重要疾患ドリル「解剖生理ドリル」
	2	基本肢位と良肢位	1. 主な症状・障害に対する対象への看護 1) 神経麻痺 2) 循環障害とフォルクマン拘縮 3) 疼痛 4) 深部静脈血栓症	講義 GW	専任教員	重要疾患ドリル「運動器復習〇×問題・力だめし国師問題」
	3	ギプス固定 牽引療法	1. 主な検査・処置を受ける対象への看護 関節可動域検査/と徒手筋力テスト/脊髄造影/椎間板造影/膝関節鏡/筋生検 2. 主な治療を受ける対象への看護 ギプス固定/牽引療法	講義演習	看護師	重要疾患ドリル「変形性関節症」
	4	関節リウマチ・大腿骨近位部骨折の病態生理	1. 関節リウマチの対象への看護 2. 四肢切断後の対象への看護 3. 大腿骨頸部骨折による人工骨頭置換術後の対象への看護	講義 GW	看護師	重要疾患ドリル「骨折」「関節リウマチ」
	5	腰椎椎間板ヘルニア・脊髄損傷の病態生理	1. 腰椎椎間板ヘルニアの対象への看護 2. 脊髄損傷の対象への看護	講義 GW	看護師	重要疾患ドリル「脊髄損傷」「腰椎椎間板ヘルニア」
	6	重要疾患ドリル「感覚器解剖生理ドリル」	1. 聴覚・平衡機能障害をもつ対象への看護(難聴/メニエル病) 嗅覚機能障害の対象への看護(副鼻腔炎) 【演習】外用薬の与薬	講義 GW	専任教員	重要疾患ドリル「耳の疾患」「皮膚の疾患」
	7	重要疾患ドリル「眼の疾患」	1. 視覚機能障害をもつ対象への看護 一白内障/緑内障/網膜剥離 【演習】点眼薬の与薬	講義 GW	専任教員	重要疾患ドリル「感覚器復習〇×問題・力だめし国師問題」
	8		終講試験	試験	専任教員	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑫ 皮膚, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑬ 眼, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉, 医学書院 授業・実習・国試に役立つ! 看護学生のための重要疾患ドリル, メヂカルフレンド社					
参考文献	山元恵子【監修】: 写真でみる整形外科看護, インターゲイ 疾患別看護過程 医学書院					
評価方法	筆記試験(90 点)、課題(10 点)、合計 100 点で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から 3 点減点とする。					
履修上の アドバイス	・解剖生理、病態と症状、検査データなど講義前には必ず復習して臨むこと。 ・グループワークは積極的に参加し学びを深めること。 ・演習時には私語を慎み学ぶ姿勢を大切に行動すること。					

授業科目	老年看護学実践論Ⅰ(高齢者の生活機能を整える看護)			[ディプロマポリシー(DP)との関連]	
担当講師	専任教員 薄井美智子			□人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間		
授業目標	1. 老年期にある対象の健康維持のための日常生活の援助方法を理解する。 2. 老年看護の実践に必要な基礎看護技術を習得する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1		1. 日常生活活動(動作)の評価 総合機能評価(CGA)/基本的日常生活動作(BADL)/手段的日常生活動作(IADL)/心理・情緒機能/生活環境/フレイル	講義	
	2	コミュニケーションの復習	1. コミュニケーション コミュニケーション能力のアセスメント/高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害とアセスメント(視覚障害・聴覚障害・言語障害)/高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法	講義	
	3	歩行・移動への援助の復習	1. 歩行・移動の援助 1) 歩行・移動動作 歩行・移動動作のアセスメント/歩行・移動動作の援助/運動麻痺のある対象者の移動援助 2) 転倒のアセスメントと看護 転倒リスクアセスメント/転倒予防に向けた援助/介護予防における転倒予防/転倒した高齢者への看護	講義 演習	
	4	食生活への復習	1. 食事・食生活の援助 食生活のアセスメント/高齢者に特徴的な変調/食生活の支援/嚥下障害のある対象者の食事の援助/誤嚥予防	講義 演習	
	5		1. 低栄養・脱水症の看護 1) 低栄養 栄養状態の変調/栄養状態のアセスメント/低栄養を予防するための支援/多職種協働(NST) 2) 脱水症 加齢による脱水症の病態と要因/アセスメント/脱水症予防・脱水発生時の援助	講義	
	6	排泄の援助の復習	1. 排泄 排泄のアセスメント/排泄能力の変化に応じたケア用具を用いた援助/便秘・下痢の病態と要因/便秘・下痢の予防と援助/摘便の演習	講義 演習	
	7	清潔の援助の復習	1. 清潔と身だしなみ 1) 清潔 高齢者にとっての清潔の意義/清潔のアセスメント/清潔の援助/入浴行動に伴う危険性・負担をふまえた援助/義歯のケア/掻痒症の予防と援助 2) 更衣動作 更衣動作のアセスメント/衣生活の援助	講義	
	8		1. 老年看護の実践に必要な基礎看護技術の実際 1)点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換演習チェック 2)義歯の取扱い 3)爪切り	演習 チェック	
	9	活動・休息と睡眠への援助の復習	1. 生活リズム 1) 生活リズム 高齢者と生活リズム/高齢者に特徴的な変調(睡眠と隔世の変化)/生活リズムのアセスメント/生活リズムを整える看護(昼間のケア・夜間のケア)/活動を高める援助(レクリエーション) 2) 廃用症候群 廃用症候群の病態と要因/廃用症候群予防のための援助	講義 演習	レクリエーションの資料収集・企画書作成
	10		1. 社会参加 2. セクシュアリティ	講義	
	11 12	事例を基に課題に取り組む	看護過程の展開1 1) 事例に基づいた展開① (情報の整理・アセスメント)	演習	指定用紙まとめ
	13 14		レクリエーションの実際 *仮設デイサービスセンター設置 *模擬患者参加	演習	演習シートまとめ
	15		筆記試験(50分)		
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学, 医学書院			
参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA 任和子/秋山智弥【編集】:根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 *その他随時紹介				
授業方法	講義・演習				
評価方法	筆記試験(90点)、課題レポート(10点)、合計100点で評価する。課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。				
履修上のアドバイス	高齢者は身体機能の低下や何らかの障害を持っているため、健康レベルを維持し生きがいを持ちながら生活できるよう援助する事が必要です。ここでは、1年次に学んだ高齢者疑似体験、基礎看護学技術を振り返り、加齢に伴う身体的機能の変化を踏まえた基本的な援助方法を学びましょう。				

授業科目	老年看護学実践論Ⅱ (健康上の問題をもつ高齢者の看護)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力																																												
担当講師	専任教員 薄井美智子 認知症看護認定看護師 小室真紀																																															
履修時期	2 学年前期	単位数・時間	1 単位 15 時間																																													
授業目標	1. 受療形態に応じた高齢者への看護を理解する。 2. 老年期にある対象の健康障害の特徴を学び、対象及びその家族に対する看護の方法を理解する。 3. 認知症高齢者の特徴と支援の方法を理解する。																																															
授業計画	<table><tr><td>回</td><td>事前学習</td><td>内容</td><td>方法</td><td>担当</td><td>事後学習</td></tr><tr><td>1</td><td>薬物動態についての復習</td><td>診断・治療過程における高齢者の看護 1. 検査を受ける高齢者の看護 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護</td><td>講義</td><td>専任教員</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>1. 受療形態に応じた看護 外来受診時の看護/入院時の看護/退院支援 2. 介護予防、健康寿命延伸に向けたかかわり</td><td>講義</td><td>専任教員</td><td></td></tr><tr><td>3 4 5</td><td></td><td>高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護① 1. 認知症とは 2. 認知症高齢者の理解 3. 認知症高齢者の人権と権利擁護 4. 認知機能および生活機能の評価 5. 認知症の看護 コミュニケーション方法 認知症の行動・心理症状の予防と対応 6. 認知症高齢者とのコミュニケーション 認知症の非薬物療法 7. 認知症の予防 認知症に対する施策 地域における取組と認知症予防</td><td>講義 演習</td><td>認知症看護認定看護師</td><td></td></tr><tr><td>6</td><td></td><td>高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護② うつ・せん妄</td><td>講義</td><td>専任教員</td><td></td></tr><tr><td>7</td><td></td><td>高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護③ 骨粗鬆症・骨折</td><td>講義</td><td>専任教員</td><td></td></tr><tr><td>8</td><td></td><td>筆記試験 (50 分)</td><td></td><td>専任教員</td><td></td></tr></table>						回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習	1	薬物動態についての復習	診断・治療過程における高齢者の看護 1. 検査を受ける高齢者の看護 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護	講義	専任教員		2		1. 受療形態に応じた看護 外来受診時の看護/入院時の看護/退院支援 2. 介護予防、健康寿命延伸に向けたかかわり	講義	専任教員		3 4 5		高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護① 1. 認知症とは 2. 認知症高齢者の理解 3. 認知症高齢者の人権と権利擁護 4. 認知機能および生活機能の評価 5. 認知症の看護 コミュニケーション方法 認知症の行動・心理症状の予防と対応 6. 認知症高齢者とのコミュニケーション 認知症の非薬物療法 7. 認知症の予防 認知症に対する施策 地域における取組と認知症予防	講義 演習	認知症看護認定看護師		6		高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護② うつ・せん妄	講義	専任教員		7		高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護③ 骨粗鬆症・骨折	講義	専任教員		8		筆記試験 (50 分)		専任教員	
回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習																																											
1	薬物動態についての復習	診断・治療過程における高齢者の看護 1. 検査を受ける高齢者の看護 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護	講義	専任教員																																												
2		1. 受療形態に応じた看護 外来受診時の看護/入院時の看護/退院支援 2. 介護予防、健康寿命延伸に向けたかかわり	講義	専任教員																																												
3 4 5		高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護① 1. 認知症とは 2. 認知症高齢者の理解 3. 認知症高齢者の人権と権利擁護 4. 認知機能および生活機能の評価 5. 認知症の看護 コミュニケーション方法 認知症の行動・心理症状の予防と対応 6. 認知症高齢者とのコミュニケーション 認知症の非薬物療法 7. 認知症の予防 認知症に対する施策 地域における取組と認知症予防	講義 演習	認知症看護認定看護師																																												
6		高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護② うつ・せん妄	講義	専任教員																																												
7		高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護③ 骨粗鬆症・骨折	講義	専任教員																																												
8		筆記試験 (50 分)		専任教員																																												
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学, 医学書院																																															
参考文献	厚生労働統計協会：国民衛生の動向, 厚生労働統計協会 *その他随時紹介																																															
授業方法	講義・演習																																															
評価方法	筆記試験(90 点)、課題レポート(10 点)、合計 100 点で評価する。課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から 3 点減点とする。																																															
履修上のアドバイス	高齢者とその家族に視点をおき、受療形態や治療・検査時の看護について学び、認知症については、人権擁護の視点からその人らしさを大切にする看護について、学びましょう。																																															

授業科目	小児看護学実践論Ⅰ			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 知々田綾 / 保育園園長 海老原由美子					
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 24 時間			
授業目標	1. 発達段階別に応じた生活への援助方法を習得する。 2. 子どものヘルスアセスメントに必要な知識と技術を習得する。 3. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護を理解する。 4. 地域で守り育てる子ども支援の実践を理解する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1 2	①小児看護学概論 第3.4.5章 ②ワークシート	1. 小児各期の生活への支援 1) 新生児期 2) 乳児期 3) 幼児期 内容：栄養・排泄・睡眠・衣類・清潔・事故防止・運動と遊び・感染予防等・育児技術・予防接種 4) 学童期 5) 思春期 内容：食生活・齲歯・近視・メディア利用の影響・スポーツ外傷など	講義 GW	専任教員	ワークシート 振り返り
	3		1. 地域の子育て支援 1) 保育園の役割 2) 子どもと家族への支援 3) 市町村との連携 4) 地域社会への参画 5) 発達障がい児への対応 6) 医療的ケアを必要とする子どもと家族に対する保育園での支援	講義 GW	保育園 園長	
	4	①小児看護学総論 第4章	1. 子どもと遊び 1) 遊びの意義 2) 遊びの種類 3)コミュニケーション・プレパレーションへの活用	講義 GW 演習	専任教員	ワークシート 振り返り
	5	①小児看護学総論 第4章	1. 子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション (2) バイタルサイン (3) 身体測定 2. 環境・事故防止	講義 GW 演習		ワークシート 振り返り
	6	①小児看護学総論 第4章	1. 身体的アセスメント (1) 一般状態 (2) 呼吸 (3) 心臓 (4) 腹部 (5) 筋・骨格系 (6) 神経系 (7) 生殖器 (8) リンパ系 (9) 皮膚・爪・体毛	講義 GW 演習		ワークシート 振り返り
	7	①小児看護学総論 第6章	1. 検査や処置を受ける子どもと家族の看護 1) 子どもにとっての検査・処置体験 2) 看護の実践 2. 乳幼児のヘルスアセスメント	講義		ワークシート 振り返り
	8	①事例学習	1. 乳幼児のヘルスアセスメント 1) 認知・運動・精神の発達評価 2) 情報整理・分析	演習 GW		事例演習の続き
	9	①小児看護学総論 第6章 ②ワークシート	1. 検査・処置に必要な看護技術	講義 演習 GW		ワークシート 振り返り
	10 11	①小児看護学総論 第4章 ②小児看護学総論 第6章 ③演習シート	1. 小児の特徴を踏まえた看護技術 1) 身体計測 2) 検体採取・抑制(採尿/採血/骨髓穿刺/腰椎穿刺) 3) 与薬 4) 注射 5) 輸液療法 6) 吸入 7) 酸素療法 8) 経管栄養	演習		演習シート 振り返り
	12		終講試験・まとめ		専任教員	
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学①, 医学書院				
参考文献	レビューブック MEDIC MEDIA 山元恵子【監修】：写真でわかる小児看護技術, インターメディカ					
授業方法	講義・GW・演習					
評価方法	筆記試験(90点)、課題レポート(10点)で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。					
履修上の アドバイス	各発達段階に応じた援助方法を学ぶ。事前学習を活用し授業目標が達成できるよう主体的に取り組む。					

授業科目	母性看護学実践論Ⅰ (生理的経過の妊娠・分娩・産褥期、早期新生児期の看護)			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	助産院院長 佐藤富美江 助産師① 割柏秦叶 / 助産師② 菊地優梨					
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間			
授業目標	1. 妊娠・分娩・産褥期、早期新生児期の生理的経過の母子とその家族の特徴を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥期、早期新生児期にある母子とその家族に対してセルフケアを維持・促進するための看護を理解する。 3. 施設退院後の看護を理解する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	女性生殖器の形態機能学 妊娠期の生理的経過	1. 子どもを産み育てることとその看護 2. 出生前からのリプロダクティブヘルスケア 3. 妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体的特徴 2) 妊娠期の心理・社会的特性	講義 演習	助産師①	妊娠期の看護
	2		3. 妊娠期における看護 3) 妊婦と胎児のアセスメント			
	3		3. 妊娠期における看護 4) 妊婦と家族の看護 (1) 妊婦が受ける保健医療サービス (2) 妊婦の保健指導の実際			
	4		(3) 親になるための準備教育			
	5					
	6	分娩期の生理的経過	4. 分娩期における看護 1) 分娩の要素 2) 分娩の経過	講義 演習		分娩期の看護
	7		4. 分娩期における看護 3) 産婦・胎児、家族のアセスメント			
	8		4. 分娩期における看護 4) 産婦と家族の看護(分娩期の看護の実際) (1) 分娩第1期 (2) 分娩第2期 (3) 分娩第3期 (4) 分娩第4期			
	9	早期新生児期の生理的経過	5. 早期新生児期における看護 1) 新生児の生理 2) 新生児期のアセスメント	講義 演習	助産師②	早期新生児の看護
	10		5. 早期新生児期における看護 3) 新生児の看護			
	11	産褥期の生理的経過	6. 産褥期における看護 1) 産褥経過 2) 褥婦のアセスメント	講義 演習		産褥期の看護
	12		6. 産褥期における看護 3) 褥婦と家族の看護			
	13		7. 施設退院後の看護 1) 育児不安と育児支援			
	14	白河市の母子支援事業	7. 施設退院後の看護 2) 地域における母子支援	講義	助産院院長	継続看護の必要性
	15		終講試験・まとめ		助産師①②	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論, 医学書院. 立岡弓子: 周産期ケアマニュアル, サイオ出版.					
参考文献	医療情報科学研究所【編】: 病気がみえる vol.10 産科 第2版 メディックメディア.					
授業方法	講義・演習					
評価方法	筆記試験(100点)で評価する。					
履修上のアドバイス	母性看護学の中でも特に妊娠期・分娩期・産褥期、早期新生児期の生理的経過に焦点をあてた内容で、母性看護学実習で特に必要とされる基本的な知識を習得する。範囲が広く、定義など新しく覚えることが多いため、予習・復習を確実にし、講義に臨むこと。					

授業科目	精神看護学実践論Ⅰ			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 芳賀洋平 / 看護師 齋藤直也					
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 20 時間			
授業目標	1. 精神障害の症状に応じた看護の実際について理解できる。 2. 精神障害のある対象への看護の実際について理解できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	精神看護学概論「精神保健における3つの予防概念」を学習する	1. 精神保健福祉に関する啓発と教育 1) 一次・二次・三次予防 ・行動変容ステージモデル ・自殺予防対策基本法 ・アルコール健康障害対策基本法 ・ギャンブル等依存症対策基本法 ・リカバリーを支えるための援助方法	講義	専任教員	
	2	テキスト：精神看護の展開 8章 P2～27 を学習する	3. 援助関係の構築 1) ケアの前提・原則・方法 2) 関係のアセスメント（プロセスレコードの活用） 3) 患者－看護師関係における感情体験	講義	専任教員	患者との関わり方についてまとめる
	3 4 5	疾病論で既習した主な精神症状を学習する	2. 主な精神疾患・障害の症状への看護 1) 精神症状 (1) 陽性症状 (2) 陰性症状 (3) 離脱症状 (4) せん妄 (5) フラッシュバック (6) 誇大妄想 (7) 観念奔逸 (8) 攻撃 (9) 抑うつ (10) 予期不安 (11) 強迫観念 (12) 拒食・過食 (13) 不眠 (14) 操作 2) 日常生活における看護 3) 与薬時の看護	講義 演習	看護師	各精神障害の特徴と援助を復習する
	6	臨床薬理学「中枢神経系に作用する薬物」を学習する	5. 精神病棟における身体のケア 1) 身体にあらわれる心の痛み 2) 精神病棟における身体ケア 3) 精神療法としての身体ケア 4) 抗精神病薬の有害反応	講義	看護師	各有害反応の特徴をまとめる
	7	テキスト：精神看護の展開 11 章「日常から気をつけておきたい身体合併症」を学習する	5) 心理・社会療法時の看護 6) 電気けいれん療法の看護 7) 気をつけておきたい身体合併症	講義	看護師	身体合併症についてまとめる
	8		4. サバイバーとしての患者とそのケア 1) 心的外傷をもつ患者の特徴 2) 心的外傷をもつ患者との関わり 3) 回復への道程	講義	専任教員	
	9	テキスト：精神看護の展開9章「入院治療の目的と意味」10 章「安全をまもる」を学習する	6. リスクマネジメントの考え方と方法 1) リスクマネジメントと行動制限 2) 自殺・自殺企図、暴力、無断離院 3) 病棟における災害時のケア	講義	看護師	精神病棟におけるリスクマネジメントについてまとめる
	10		終講試験		看護師 専任教員	
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院				
参考文献	川野雅資【編】：新看護観察のキーポイントシリーズ 精神科Ⅰ, 中央法規 川野雅資【編】：新看護観察のキーポイントシリーズ 精神科Ⅱ, 中央法規					
授業方法	講義・演習					
評価方法	終講試験 100 点					
履修上のアドバイス	1. 講義資料は毎回持参し既習内容を確認すること。 2. 講義と合わせて国家試験出題基準の確認と国家試験問題を解くことで理解を深める。					

授業科目	多職種と看護			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 ☑看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当講師	専任教員 柳沼美穂子 / 薬剤師 上釜宝志 理学療法士・作業療法士 円谷公洋				
履修時期	2学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	1. 多職種間における連携の必要性の理解と看護師に必要な基礎的能力を習得する。				
授業計画	回	内容	方法	担当	事後学習
	1	1. 多職種連携に必要な基礎知識 1) 多職種連携・協働が注目されている背景 2) 多職種連携の意義 3) 多職種連携のための基礎知識 (1) 思考の転換 (2) 学際性を高める (3) 多職種連携・協働に必要な能力 4) 一般性と専門性 5) 多職種連携の実践を通して期待する結果	講義	専任教員	各専門職について調べ学習
	2	2. チームにおける多職種連携 1) 他の専門職の「専門性」の理解 2) さまざまな連携環境と連携形態 3) チームワークの成り立ち	講義 GW	専任教員	
	3	3. 外来部門における看護の機能と役割 1) 医療施設の部門構成 2) 外来部門における看護の基礎知識	講義 GW	専任教員	
	4	4. 理学療法士・作業療法士の理解 1) 役割と活動内容 2) 理学療法士・作業療法士が考える多職種連携	講義	理学療法士 または 作業療法士	
	5	5. 薬剤師の理解 1) 役割と活動内容 2) 薬剤師が考える多職種連携	講義	薬剤師	
	6	6. 事例検討会（多職種カンファレンス） 1) 肺癌の終末期にある患者が自宅へ退院するための関わり (1) 各コメディカルの方針 (2) 介入で困っていること (3) 他の職種への要望・依頼 (4) 課題の整理	GW	専任教員	
	7	7. 事例検討会 1) 発表会 2) チームを俯瞰して見えたこと 8. 臨床現場で行われている多職種カンファレンス 1) 骨メタカンファレンス視聴	模擬 カンファ レンス GW	専任教員	
	8	筆記試験		専任教員	
テキスト	ラーニングシリーズ IP 保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践③はじめての IP 連携を学びはじめる人のための IP 入門 大嶋伸雄 協同医書出版社				
参考文献	実践 多職種連携教育 中外医学社 川村治子：医療安全ワークブック，医学書院 第2版 松下由美子，他：医療安全，MCメディカ出版 第1版 村上三好：写真でわかる看護安全管理，インターメディカ 河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー，医学書院 嶋森好子，他：医療安全とリスクマネジメント，ヌーヴェルヒロカワ				
授業方法	講義・演習形式				
評価方法	筆記試験（100点）で評価する。				
履修上のアドバイス	グループワークを多く取り入れているので、積極的な姿勢で臨むこと。				

授業科目	健康保持増進と看護			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
担当講師	専任教員 坂本真理 / 保健師 小澤里沙					
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間			
授業目標	1. 健康の保持増進、疾病の予防における看護が理解できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	ヘルスプロモーションとは	1. ヘルスプロモーションと看護 1) ヘルスプロモーションとは 2) 個人の主体的な健康づくり 3) 健康増進のための健康づくり	講義	専任教員	健康づくりを主体的に行うための支援
	2	健康増進のための施策	2. ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 1) 地域社会におけるヘルスプロモーションを促進する看護 2) 職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護	講義	保健師	健康増進するための環境づくり
	3	ライフスタイルと健康問題	3. 健康を脅かす要因と看護 1) 健康バランスの構成要素 2) 健康バランスに影響を及ぼす要因 3) 生活行動がもたらす健康問題とその予防 4) その人らしい生活を再構築するリハビリテーション	講義	保健師	健康バランスを保つための支援
	4	リプロダクティブヘルスケアとは	4. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 2) 人工妊娠中絶と看護 3) 喫煙の健康と看護 4) 性暴力を受けた女性・家族の看護 5) 児童虐待と看護 6) 国際化社会と看護	講義	専任教員	リプロダクティブヘルスケア
	5			講義	専任教員	
	6	保健指導技術	5. 学習者である患者への看護技術 6. 保健指導演習 1) 教育指導技術の基本 2) 指導の対象と指導の進め方 3) コーチング・コミュニケーション	講義	専任教員	演習 振り返り
	7			講義 演習	専任教員	
	8		終講試験（50 分）		専任教員	
	テキスト	新体系看護学全書 ヘルスプロモーション メヂカルフレンド社 系統看護看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院				
参考文献	看護がみえる vol⑤ 対象の理解 I MEDIC MEDIA					
授業方法	講義・演習					
評価方法	筆記試験（90 点）、課題（10 点）で評価する。 （提出期限が守れない、内容不足の場合は総合点より 3 点減点）					
履修上のアドバイス	健康保持増進は、その人の健康観や人生観に影響を受ける。現代の生活習慣特徴や課題を見据え、その人の持っている力を見出して支援する方法を学ぶ。そのため、社会背景や統計にも視点をもって学習すること。					

授業科目	急性期と看護			[ディプロマポリシー(DP)との関連]		
担当講師	専任教員 知々田綾 看護師 竹内崇人 救急外来看護師 大山郁恵			□人間を幅広く理解し、支え合い、成長し 合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
履修時期	2 学年	単位数・時間	1 単位 15 時間			
授業目標	1. 急性期にある対象の特徴が理解できる。 2. 救急看護の対象の看護が理解できる。 3. 各ライフステージにおける看護に役割について理解できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1 2	第 1 章 第 2 章	1. クリティカルケア看護の基本 1) クリティカル看護とは 2) クリティカルケア看護の対象 (1) クリティカルな状態にある対象のとらえ方 (2) クリティカルな状態にある患者の体験 (3) クリティカルな状態にある患者と家族の体験 2. クリティカルケア看護の基盤となる理論 3. クリティカルケア看護に必要な能力 4. クリティカルケア看護における思考プロセス 1) 臨床判断のプロセス 2) 看護過程の特徴 5. クリティカルケア看護の実際 1) 全身管理 感染への対応 2) 日常支援 リハビリテーション	講義 GW	看護師	クリティ カルケア 看護とは
	3 4	第 5 章 急変時の 対応	1. 救急看護とは 1) 救急看護の特徴と役割 2) 救急看護の対象の理解 (1) 患者背景の特徴 (成人、高齢者、周産期、小児、精神疾患) (2) 病態の特徴 (3) 心理的特徴(急性期の心理過程) (4) 家族の特徴 3) 救急看護体制と看護の展開 (1) 急変時の初期対応 (2) 家族への対応・治療の選択 代理意思決定支援 (3) 院内他部門・他職種・他院との連携 (4) 看護記録 2. 救急処置が必要な対象の看護(看護技術を含む) (1) 誤飲 (2) 熱傷 (3) 溺水 (4) 一次救命処置(小児)	講義 GW 演習	救急 外来 看護師	演習 振り返り
	5	各領域 急性症状 の特徴	1. 各発達段階における急性症状の特徴 成人、老年、小児、周産期(産科ショック) 精神疾患	講義 GW	看護師	
	6 7	事例学習	1. 事例展開 主な急性症状に対する看護と臨床判断能力 意識障害・体温異常(低体温/高体温)・脱水	講義 GW 演習	専任 教員	演習 振り返り
	8		終講試験			看護師
テキスト	経過別成人看護学① 急性期看護：クリティカルケア メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院					
参考文献	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院					
授業方法	講義・GW・演習					
評価方法	筆記試験 90 点、課題レポート 10 点 課題提出期限内に課題を提出できなかった場合は、総合点から 3 点減点とする					
履修上の アドバイス	既習学習を振り返り、講義に臨むこと。					

授業科目	周術期と看護			[ディプロマポリシー(DP)との関連]		
担当講師	ICU 看護師 竹内崇人 手術室看護師 相川沢弥			□人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力		
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間			
授業目標	1. 周術期にある対象の看護が理解できる。 2. 各発達段階における周術期にある対象の特徴が理解できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	周術期看護「周術期看護とは」	1. 手術療法と周術期看護の役割 2. 手術療法と生体反応の基本 1) 手術療法の目的と種類 2) 手術侵襲と生体反応 3. 手術に伴う生体反応からの回復 4. 周術期にある患者・家族の特徴 5. 成人期・老年期・小児期にある患者・家族の周術期看護 1) 周術期看護とは 2) 周術期看護の場 3) 周術期における退院調整(多職種連携と看護師の役割) 4) 術後の生活の再構築に向けての支援	講義 GW	ICU 看護師	
	2	「術前の看護」	1. 術前の成人期・老年期・小児期にある患者・家族の看護 1) 情報収集とアセスメント 2) 看護問題 3) 患者・家族へのケア 2. 手術に向けた準備 1) 術前オリエンテーション 2) 術後の機能回復への対策 呼吸訓練/禁煙/離床指導/疼痛管理/服薬の中断 3) 術前処置 4) 子どもの心理ケア	講義 GW		深呼吸法・喀痰法の指導練習
	3 4	周術期看護「術中の看護」	1. 手術室の環境 1) 手術室の構造 2) 室内環境 2. 手術室看護師の役割 1) 器械出し看護 2) 外回り看護 3. 麻酔 1) 全身麻酔 2) 局所麻酔 4. 手術室入室から執刀開始までの成人期・老年期・小児期にある患者の看護 1) 入室時の看護 2) 麻酔導入時の看護 3) 体位作成時の看護 4) 肺血栓塞栓症の予防 5. 麻酔維持期の成人期・老年期・小児期にある患者・家族の援助 1) 体温管理 2) 呼吸管理 3) 循環管理 6. 麻酔終了から手術室退室までの成人期・老年期・小児期にある患者・家族の看護 1) 麻酔覚醒時の観察とケア 2) 退室時の看護 7. 手術室における医療安全 8. 内視鏡下手術を受ける対象の看護	講義 GW	手術室看護師	手術室内の物品の準備と配置
	5 6	周術期看護「術後の看護」	1. 術後の成人期・老年期・小児期にある患者・家族の看護 1) 情報収集とアセスメント 術直後の患者の様子/全身状態の綿密な観察 術後期にある患者の生体反応 術後の一般的な回復過程/術後創傷治癒過程 2) 看護問題 3) 患者・家族へのケア 2. 機能低下からの早期回復と術後合併症対策 3. 術後精神病(せん妄、抑うつ、ICU 症候群等) 4. 疼痛対策 5. 術後疼痛 6. 感染対策 7. ドレーン管理 8. 術後回復過程における患者・家族の看護 9. 周術期におけるリハビリテーション	講義 GW	ICU 看護師	弾性ストッキング着脱練習
	7	帰室時の看護	1. 帰室までの準備と看護(病室の準備と術後の観察) 2. ドレーン類の挿入部の処置	演習	ICU 看護師	
	8		終講試験		ICU 看護師	
	テキスト	経過別成人看護学②周術期看護、メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門分野Ⅱ：成人看護学総論・成人看護学①、老年看護学、小児看護学概論・小児臨床看護総論、母性看護学概論・母性看護学①、医学書院 周術期看護 安楽・安全な看護の実践 改訂版、インターメディカ				
参考文献	随時紹介する。					
授業方法	講義、グループワーク、演習を取り入れて行う。					
評価方法	筆記試験 90 点 課題点 10 点 提出期限が守れない場合は、総合点から 3 点減点とする。					
履修上のアドバイス	既習学習を振り返り、講義に臨むこと。					

授業科目	慢性期と看護			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力	
担当講師	専任教員 芳賀洋平				
履修時期	2 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	1. 慢性期にある対象の特徴を理解することができる。 2. 慢性期にある対象への看護の方法を理解することができる。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	シラバスの確認 テキスト:成人看護学総論第7章「慢性病との共存を支える看護」を学習する	1. 慢性期の対象の理解 1) 慢性期の対象の理解 2) 病みの軌跡 3) 首尾一貫感覚・健康信念モデル 2. 慢性疾患との共存を支える看護 1) エンパワメント 2) セルフケアとセルフマネジメント 3) ストレングスモデル	講義	
	2	テキスト:小児看護学概論 小児臨床看護総論第3章「子どもにおける疾病の経過と看護」を学習する	3. 慢性期にある子どもと家族の看護 1) 慢性状態による日常生活への影響 2) 心理・社会的健康の維持 3) 慢性状態が子どもに与える影響 4) 年齢に見合ったセルフケア能力の育成 事例検討:発達段階に応じたケア 5) 成人期への移行を目指した支援	講義 演習	慢性期にある対象の看護についてまとめておく
	3	テキスト:成人看護学総論第10章「学習者である患者への看護技術」を読む	4. 学習者である対象への看護 1) エンパワメント-エデュケーション 2) セルフマネジメントを推進する看護技術 ①セルフマネジメント教育 ②コンプライアンスを高める知識と技術 ③自己効力感を高める看護教育技術 3) 慢性期におけるリハビリテーション	講義 演習	看護の方法に有効な考え方についてまとめる
	4	テキスト:母性看護学各論第7章「ハイリスク妊婦の看護」を読む	5. 合併症を有する妊婦への看護 1) 心疾患 2) 糖代謝異常合併妊娠 3) 子宮筋腫	講義 演習	
	5	テキスト:精神看護の展開第12章「精神科における身体のケア」を読む	6. 精神疾患をもつ慢性期にある人へのケア 1) 日常生活における身体的ケア ①フットケア ②スキンケア ③口腔ケア ④排泄ケア 2) 睡眠とそのケア	講義 演習	
	6 7	老年看護学実践論Ⅰの肺炎患者の事例でのアセスメントシートを活用する。	7. 慢性疾患を抱える対象の事例展開 1) 慢性疾患がある対象の看護過程(看護計画立案)	講義 演習	GWの学び
	8		終講試験(50分)		
テキスト	経過別成人看護学③ 慢性期看護、メチカルフレンド社 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論① 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院				
参考文献					
授業方法	講義・演習				
評価方法	終講試験 90 点 課題 10 点 課題提出期限内に提出できない場合は、総合点より3点減点				
履修上のアドバイス	講義には集中して臨み、必ず復習しておくこと。				

授業科目	終末期と看護			[ディプロマポリシー(DP)との関連] □人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力 ☑根拠に基づいた看護を実践する力 □看護を通じて地域で活躍する力 □自ら学び成長し続ける力
担当講師	緩和ケア認定看護師 曲山恵美			
履修時期	2 学年	単位数・時間	1 単位 15 時間	
授業目標	1. 終末期にある対象を身体的・精神的・社会的・発達段階的側面から理解する。 2. 終末期にある対象とその家族への看護を理解する。			
授業計画	回	内容		方法
	1	終末期とは 死因の動向 死の定義と徴候 対象に応じた終末期の特徴 子ども/周産期/成人期/高齢者 終末期医療の現状と課題 倫理的課題(知る権利と告知) 意思決定支援における課題 終末期にある患者のケアに対する概念 エンドオブライフケア ホスピスケア ターミナルケア 緩和ケア		講義
	2	対象に応じた死への捉え方、死生観 子ども/周産期/成人期/高齢者 延命治療と延命治療に対する考え方 患者の権利と意思決定支援 アドバンスケアプランニング(ACP) DNAR リビングウィル エンディングノート 終活 死の準備教育(デスエデュケーション)		講義
	3	終末期の身体的・精神的変化 全人的苦痛 スピリチュアルペイン		講義 GW
	4	死の受容のプロセス 悲嘆のプロセス 終末期にある患者と家族の心理		
	5	人生最期の時を支える看護 身体アセスメントと看護 症状マネジメント・緩和ケア 精神面のアセスメントと看護 精神的苦痛・不安・混乱 全人的苦痛の緩和 看取りケア		講義 GW
	6	援助する看護師の役割・姿勢 終末期ケアにおける医療・ケアチームの役割 チームアプローチ：緩和ケアチーム 終末期のリハビリテーション 看護師自身のケア		
	7	家族への看護 家族の心理と葛藤 子ども/周産期(胎児の死を含む)/成人期/高齢者 グリーフケア 家族の再出発を支える看護		
	8	終講試験		
テキスト	経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア,メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院			
参考文献	随時紹介			
授業方法	講義・GW・演習			
評価方法	筆記試験 100 点			
履修上の アドバイス				

授業科目	健康運動理論		
担当講師	理学療法士 渡邊 篤史		
履修時期	3 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間
授業目標	人間の生活と運動について理解し、健康づくりにつながる運動の実践について学ぶ。		
授業計画	回	内容	方法
	1	健康づくり運動の理論 運動とこころの健康増進	講義
	2 3	健康づくりの運動の実践 ウォーミングアップとクールダウン ストレッチと柔軟体操 エアロビクスダンス	実技・演習
	4	健康づくりの運動の実践 介護予防と運動	講義・演習
	5	運動プログラムの実践（事例 糖尿病患者）	実技・演習 GW
	6	運動プログラムの実践（事例 高脂血症の患者）	実技・演習 GW
	7	運動プログラムの実践 発表	実技・演習 GW
	8	終講試験	
テキスト	講義資料を配布する		
参考文献			
授業方法	実技・演習は、講堂で行う。		
評価方法	終講試験（100 点）で評価する。実技試験は、毎回の授業での評価となる。 （筆記試験 自己評価表 班評価表）		
履修上の アドバイス	実技・演習は、整髪など身だしなみ（演習着）を整えて、授業に臨むこと。		

授業科目	看護研究Ⅱ			
担当講師	専任教員 志田淳子			
履修時期	3 学年 前期～後期	単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. 研究プロセスに沿って調査研究を実施する。			
授業計画	回	事前学習	内容	方法
	1	文献検索の方法	1. 講義・演習オリエンテーション 2. 看護研究プロセス 1) 文献検索・文献検討	講義 演習
	2		2. 看護研究プロセス 1) 文献検索・文献検討 2) 研究テーマの決定	演習
	3 4		2. 看護研究プロセス 3) 研究計画書作成	演習
	5 ～ 12		2. 看護研究のプロセス 4) 質問紙作成 5) 施設への依頼文書作成 6) 個人への依頼文書作成 7) データ収集 8) データ分析 9) 抄録作成 10) 論文作成	演習
	13 14		2. 看護研究のプロセス 11) パワーポイント作成 12) 発表原稿の作成 13) 論文作成	演習
	15		2. 看護研究のプロセス 14) 発表会	公開授業
	テキスト	前田樹海：はじめての看護研究，ナツメ社		
参考文献	古橋洋子：基本がわかる看護研究ビギナーズ NOTE，学研			
授業方法	講義・演習形式			
評価方法	研究プロセスについて(グループ・個人)評価表(100 点)にもとづき評価を行う。			
履修上の アドバイス	看護研究は専門職として必要不可欠なものです。看護研究Ⅱは、看護研究Ⅰで学んだ内容を基盤として、実際に研究プロセスを経験していきます。看護研究Ⅰで研究に必要な知識・技術を学んでいるため、看護研究Ⅱを学ぶ前に看護研究Ⅰで学んだ内容の振り返りをしておくことが重要になります。看護研究Ⅱはグループごとの演習を中心に進めていき、研究発表を行います。グループメンバーの一員として積極的に参加しましょう。			

授業科目	在宅療養を支える看護Ⅲ					
担当講師	専任教員 和知綾乃 / 皮膚・排泄ケア認定看護師 稲田ゆかり 緩和ケア認定看護師 曲山恵美 / 外部講師（医療機器業者）					
履修時期	3年 前期		単位数・時間	1単位 30時間		
授業目標	1. 医療依存度の高い療養者とその家族の援助を理解する。 2. 在宅における終末期の療養者と家族への看護を理解し、看取りの技術を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	看護師の役割	1. 在宅療養における医療的ケア 1) 目的と意義 2) 原理原則 3) 対象者 4) 医療依存度の高い人と家族の暮らし	講義	専任教員	
	2	酸素吸入療法人工呼吸器の管理 気管内吸引	2. 医療的ケアが必要な人の在宅療養を支える看護技術 1) 在宅酸素療法、在宅人工呼吸器療法	講義 演習	専任教員	留意点 ①在宅酸素療法 ②在宅人工呼吸療法 ③在宅経管栄養法 ④在宅中心静脈栄養法
	3	①脳梗塞 ②慢性閉塞性肺疾患（COPD） ③筋委縮性側索硬化症（ALS） ④パーキンソン	2) 医療的ケアが必要な人の看護 ①脳卒中の療養者・家族の看護 ②慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者・家族の看護	講義 演習	専任教員	
	4		③難病（ALS）の療養者・家族の看護 ④パーキンソン病の療養者・家族の看護			
	5		3) 療養者の生活を支える多職種連携 4) 医療的ケアが必要な人・家族を支える看護 （1）療養者と家族の思い （2）在宅療養を支える看護師の役割			
	6		5) セルフマネジメントを高めるケア （1）医療的ケアの方法と管理指導 ①経管栄養 ②吸引	講義 演習	専任教員	
	7 8	HOT HMV NPPV HPN PEG	6) 医療機器の取り扱いと管理方法 （1）在宅酸素療法（HOT） （2）在宅人工呼吸療法（HMV、NPPV） （3）在宅中心静脈栄養法（HPN） （4）在宅経管栄養法・経腸栄養法	講義 演習	医療機器業者	各医療機器の管理上の留意点、指導内容
	9	廃用症候群 褥瘡管理	7) 在宅における褥瘡ケア （1）皮膚トラブルの予防とケア	講義 演習	認定看護師 稲田	
	10	ストーマ管理	8) 在宅におけるストーマ管理 （1）在宅におけるストーマ管理の目的 （2）ストーマ管理におけるアセスメント （3）療養者・家族への支援 （4）社会資源の活用・調整	講義 演習	認定看護師 稲田	
	11		3. 在宅療養を支える看護技術と療養上のリスクマネジメント	講義 演習	専任教員	
	12 13	終末期看護	4. 地域・在宅看護の介入時期別看護 1) 終末期の看護の実際 （1）終末期療養と家族の予期悲嘆 （2）在宅ケアにおける疼痛コントロール	講義	認定看護師 曲山	
	14		（3）在宅における看取りの技術 ①家族への死の準備教育②病態変化時の対応	演習	専任教員	
	15		終講試験		専任教員	
	テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院 写真でわかる訪問看護 インターメディカ				
参考文献	1. 臺有桂/石田千絵：在宅看護論① 地域療養を支えるケア，メディカ出版 2. 臺有桂/石田千絵：在宅看護論② 在宅療養を支える技術，メディカ出版					
授業方法	講義・演習形式					
評価方法	筆記試験（100点）で評価する。 課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。					
履修上のアドバイス	演習及びグループ学習が中心であるため、各自の取り組み状況が学びに大きく影響することを自覚して講義に臨んでほしい。また在宅で終末期を迎える療養者とその家族の心身の支援について各自の看護観をみつめながら考えてほしい。					

授業科目	小児看護学実践論Ⅱ						
担当講師	福島県立西郷支援学校教諭 金澤有希子 / 白河厚生総合病院小児科看護師 ①伊東智恵 ②新井奈緒 小児科外来看護師 五十嵐佐知子 / 専任教員 知々田綾						
履修時期	3 学年 前期		単位数・時間	1 単位 30 時間			
授業目標	1. 健康問題をもつ子どもと家族の看護を理解する。 2. 健康問題が子どもと家族に与える影響を理解する。 3. 障がいのある子どもと家族の看護を理解する。						
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習	
	1	①重要疾患ドリル 「小児疾患」 ②小児臨床看護 総論第 1 章	1. 健康問題をもつ子どもと家族の看護 1) 病気・障がい子ども・家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護	講義 GW	専任教員	ワーク シート 振り返り	
	2	①小児臨床看護 総論第 5 章 ②ワークシート	1. 痛みを表現している子どもと家族の看護 1) 痛みの受け止め方 2) 痛みの表現方法 3) 痛みの客観的評価 4) 痛みの緩和に向けた援助	講義 GW	専任教員	ワーク シート 振り返り	
	3	①小児臨床看護 総論第 5 章 ②ワークシート	1. 活動制限が必要な子どもと家族の看護 1) 活動制限の目的 2) 活動制限の身体的・心理社会的影響 3) 発達段階に応じた日常生活への援助	講義 GW	看護師①	ワーク シート 振り返り	
	4	①小児臨床看護 各論第 6 章 ②ワークシート	1. 感染対策上隔離が必要な子どもと家族の看護 1) 隔離の目的 2) 隔離の身体的・心理社会的影響 3) 子どもの発達段階の応じた日常生活への援助 4) 家族の面会や付き添いにおける援助	講義 GW	看護師①	ワーク シート 振り返り	
	5 6	①小児臨床看護 総論第 5 章 ②ワークシート	1. 子どもによくみられる症状と看護 1) 不きげん 2) 啼泣 3) 便秘 4) 浮腫 5) 出血	講義 GW	専任教員	ワーク シート 振り返り	
	7	①小児臨床看護 各論第 1 章 ②ワークシート	1. 先天性疾患のある子どもと家族の看護 2. 診断の告知、疾患の受容における両親への看護 1) ダウン症候群 2) 18 トリソミー症候群 3) ファロー四徴症 3. 子どもの発達段階に応じた援助	講義 GW	看護師①	ワーク シート 振り返り	
	8 9	①小児臨床看護 各論第 2 章	1. 出生直後から治療が必要な子どもと家族の看護 1) ハイリスク新生児の特徴と看護 (1) 低出生体重児 (2) 新生児仮死 (3) 高ビリルビン血症 2) ハイリスク新生児の集中治療と援助 3) 親子・家族関係確立への支援	講義 GW 演習	看護師②		
	10	①小児臨床看護 総論第 7 章	1. 心身障がいのある子どもと家族 1) 障がいのとらえ方 2) 障がいのある子どもと家族の特徴 2. 支援学校における医療的ケアを必要とする子どもと 家族	講義 GW	支援学校 教諭		
	11 12	①小児臨床看護 総論第 2 章 ②ワークシート	1. 外来における子どもと家族の看護 1) 外来の特徴と看護の役割 2) 外来の環境 3) 外来受診する子どもと家族の特徴 2. 在宅療養中の子どもと家族の看護 1) 在宅療養中の子どもと家族の特徴 2) 在宅療養中の子どもと家族の看護	講義 GW 演習	小児科外来 看護師	ワーク シート 振り返り	
	13 14	①事例学習	1. 事例による看護過程の展開	講義 GW 演習	専任教員	事例学習	
	15		終講試験・まとめ		専任教員		
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②, 医学書院					
	参考文献	レビューブック MEDIC MEDIA ・ 山元恵子【監修】写真でわかる小児看護技術, インターメディカ					
	授業方法	講義・GW・演習					
評価方法	筆記試験（90 点）、課題点（10 点）で評価する。 課題提出期限内に課題を提出できなかった場合は、総合点より 3 点減点とする。						
履修上の アドバイス	「小児の疾病と治療」での講義内容を復習したうえで授業に臨む。						

授業科目	母性看護学実践論Ⅱ (妊娠・分娩・産褥期、早期新生児期の健康問題と看護)						
担当講師	白河厚生総合病院 医師 産婦人科部長 山内隆治 / 専任教員 坂本真理						
履修時期	3 学年 前期		単位数・時間	1 単位 30 時間			
授業目標	1. 妊娠・分娩・産褥期、早期新生児期の健康問題とその看護を理解する。 2. 母性看護に必要な基本的な技術を習得する。						
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習	
	1 2	女性生殖器の 形態機能学 妊娠期の 生理的経過	1. 妊娠期の健康問題 1) 不育症、流産、早産 2) 感染症 3) 常位胎盤早期剥離 4) 前置胎盤 5) 妊娠高血圧症候群 6) 妊娠糖尿病 7) 出生前診断 8) 妊娠貧血 9) 妊娠悪阻 10) 高年妊娠、若年妊娠 11) 胎盤機能不全	講義	山内	妊娠期の 健康問題と看護	
	3		2. 妊娠期の健康問題と看護 1) 健康問題のある妊婦の看護	講義 演習	坂本		
	4		3. 分娩期の健康問題 1) 前期破水 2) 帝王切開術 3) 分娩時異常出 4) 胎児機能不全 5) 陣痛異常（微弱陣痛、過強陣痛）	講義	山内	分娩期の 健康問題と看護 早期新生児期の 健康問題と 看護	
	5 6	分娩期の 生理的経過 早期新生児の 生理的経過	4. 早期新生児期の健康問題 1) 先天異常の新生児 2) 早産児、低出生体重児 3) 新生児一過性多呼吸 4) 呼吸窮迫症候群 5) 胎便吸引症候群 6) 高ビリルビン血症 7) 新生児ビタミンK 欠乏症 8) 低血糖症	講義	山内		
	7		5. 分娩期の健康問題と看護 1) 健康問題のある産婦の看護 6. 早期新生児期の健康問題と看護 1) 健康問題のある早期新生児の看護	講義 演習	坂本		
	8	産褥期の 生理的経過	7. 産褥期の健康問題 1) 帝王切開術後 2) 子宮復古不全 3) 産褥熱 4) 乳腺炎 5) 産後精神障害 6) 尿路感染、排尿障害 7) 死産、障害がある新生児を出産した親	講義	山内		
	9		8. 産褥期の健康問題と看護 1) 健康問題のある褥婦の看護	講義 演習	坂本		
	10 11	母性看護学 技術の 手順・基準	9. 母性看護学技術 (妊娠・分娩・産褥期、早期新生児各期) 新生児の沐浴・清拭等	演習		演習 振り返り	
	12	周産期の 生理的経過	10. シミュレーション学習 (妊娠・分娩・産褥期、早期新生児期の看護)	演習			
	13 14	情報の整理	11. 事例による看護過程の展開	講義 演習			事例の アセスメント
	15		終講試験・まとめ		坂本		
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 , 医学書院. 立岡弓子：周産期ケアマニュアル, サイオ出版.					
	参考文献	医療情報科学研究所[編]：病気がみえる vol.10 産科, メディックメディア.					
	授業方法	講義・演習					
評価方法	筆記試験（100 点）・課題で評価する。（提出期限が守れない、内容不足がある場合は総合点より 3 点減点）						
履修上の アドバイス	妊娠・分娩・産褥、早期新生児期の健康問題について学ぶ。母性看護学実践論Ⅰの復習を行い講義に臨むこと。さらに、母性看護学技術は習得に向け、各自練習を行うこと。						

授業科目	精神看護学実践論Ⅱ					
担当講師	主任看護師 兼田彰央 / 専任教員 芳賀洋平					
履修時期	3学年 前期		単位数・時間	1単位 26時間		
授業目標	1. 精神障害のある対象へのアセスメントから、援助方法を理解できる。 2. 精神障害をもちながら地域で生活する対象者への継続看護の実際が理解できる。 3. 演習を通した精神科看護の実際から、看護実践方法が理解できる。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	精神科看護とはどのようなことかを考える	1. 精神科看護とは 1) 精神看護の定義 2) 精神看護の役割 3) 看護倫理から考える精神科看護	講義	兼田	受講後、精神科看護とはどのようなことかを考える
	2		2. 回復を助ける 1) 回復の意味 2) 精神病棟におけるリハビリテーション 3) 回復のビジョン 4) 回復を支える様々な方法	講義	芳賀	精神病棟におけるリハビリテーションについてまとめる
	3 4	精神看護学領域で必要な法律と制度を学習する	3. 地域における精神保健・看護 1) 精神障害をもちながら地域で生活する対象を支える 2) 地域で生活するための原則 3) 精神病棟における医療チームメンバー 4) 生活を支えるための社会資源・サービス 5) 精神科訪問看護	講義	芳賀	福祉に関する資源と特徴についてまとめる
	5 6	BPSモデルについて情報収集する	4. Bio-Psycho-Social モデル (BPS モデル) 1) BPS モデルとは 2) BPS モデルを使用した自己理解(メタ認知)	講義 演習	兼田	受講後、再度自分自身を見つめ直す
	7 8	精神看護学実践論Ⅰ「主な精神疾患・障害の症状への看護」を学習する	4. 精神症状のある対象への看護の実際 1) 妄想のある対象 2) 興奮のある対象 3) 不安のある対象 4) 拒否のある対象	演習	兼田	
	9	テキスト：精神看護の展開 11章「身体疾患と精神看護」「リエゾン精神看護」を学習する	3. リエゾン精神看護 1) リエゾン精神看護とは 2) リエゾナーズの活動の実際 3) 看護師の精神的健康への支援	講義	兼田	
	10		5. 地域生活を支える看護 1) 精神・身体の安定を図る 2) 日常生活の維持・回復を図る 3) 人間関係の調整を図る 4) 社会資源を活用する 5) 自己効力感を高める 6) 地域での看護の実際	講義 演習	兼田	
	11 12		6. 精神障害がある対象の看護展開 1) 精神病棟における観察 2) アセスメントの視点 3) 事例展開 7. 精神病棟における看護師の役割	講義 GW	芳賀	時間内に終わらない場合はまとめる
	13		終講試験		兼田 芳賀	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院					
参考文献	春日武彦：援助者必携 はじめての精神科第2版, 医学書院 青木民子【監修】：身体合併症をもつ精神科患者へのアプローチ, 精神看護出版 田中美恵子【編】：精神障害者の地域支援ネットワークと看護援助, 医歯薬出版					
授業方法	講義・演習 ＊演習時には専任教員がサポーターとして参加する。					
評価方法	終講試験 90点 課題 10点 合計 100点 課題提出期限内に提出ができれば総合点より3点減点					
履修上のアドバイス	1. 自分が精神看護学実習をすることをイメージして積極的に取り組む。 2. 精神障害がある対象の地域での生活環境を理解するために、自分が住む地域に目を向ける。					

授業科目	看護実践マネジメント			
担当講師	看護部長 鈴木文子 / 副看護部長 飛知和美智子 / 看護師 鐘ヶ江紗里			
履修時期	3学年 前期～後期		単位数・時間	1単位 15時間
授業目標	1. 看護のマネジメントを学び、組織における看護師の役割を理解する。 2. 国際看護に関心をもつことができる。			
授業計画	回	内容	方法	担当
	1	1. マネジメントの概念と看護における実践 1) マネジメントとは 2) 看護におけるマネジメント 2. 業務遂行のためのマネジメント 1) 1日の業務の組み立て (1) 複数患者を受け持つための情報収集・管理 (2) 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 2) 多重課題への対処	講義 GW	看護部長
	2	3. 看護必要度	講義 GW	副看護部長
	3	4. 看護職自身のマネジメント 1) 看護職の健康管理 2) 看護師のキャリア開発・継続教育 5. 医療チームにおける看護マネジメント 1) 看護師のチームワークとコミュニケーション 2) 多職種のチームワークとコミュニケーション	講義 GW	看護部長
	4 5	6. 看護マネジメントの実践 1) 薬物・物品の管理 2) 情報のマネジメント 3) 医療安全のマネジメント (1) 看護マネジメントと医療安全 (2) 医療安全のしくみと医療安全管理者と看護管理者の協働 (3) 感染管理	講義 GW	看護部長
	6	7. 地域医療における病院の理解とマネジメント 1) 地域との連携システムとマネジメントシステム (1) 保険医療の機能分化と連携 (2) マネジメントにおける指標とシステム 地域連携クリニカルパス、重症度、医療・看護必要度 2) 地域における看護マネジメント (1) 地域との連携との連携における看護師の役割 (2) 暮らしに帰るためのマネジメントシステム	講義 GW	看護部長
	7	1. 国際看護学 1) 国際看護学とは 2) グローバルヘルス 3) 国際協力のしくみ 4) 文化を考慮した看護 2. JICA 活動の実際 1) 国際協力分野における国際看護の実際 2) 21世紀の国際協力の課題	講義	看護師
	8	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①, 医学書院 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③, 医学書院			
参考文献				
授業方法	講義形式			
評価方法	筆記試験（100点）で評価する。			
履修上の アドバイス	最近の日本および世界の医療・社会情勢、発生している災害の現状などニュースに関心を持ち 知見を広げておきましょう。			

授業科目	医療安全																																						
担当講師	医療安全管理者 看護師 芳賀弘子 / 感染管理専従看護師 蛭田好郁 薬剤師 伊藤丈史 / 臨床工学技士 近藤辰則 / 理学療法士 近藤和弘																																						
履修時期	3学年 前期	単位数・時間	1単位 15時間																																				
授業目標	1. 医療事故予防または回避する方法を理解する。																																						
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th><th>方法</th><th>担当</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>1. 医療安全の基本的考え方 1) 医療事故と医療安全の定義 2) 国の医療安全対策 3) 組織の医療安全対策</td><td>講義</td><td>医療安全管理者</td></tr> <tr> <td>2</td><td>4) 医療機関におけるインシデントや医療事故の報告制度 5) 看護職の法的責任と看護職賠償責任保険制度</td><td>講義 GW</td><td>医療安全管理者</td></tr> <tr> <td>3</td><td>2. 種類・状況別にみた医療安全対策 1) 看護師が関与した医療事故/ヒヤリハット「KYT」</td><td>講義 演習</td><td>医療安全管理者</td></tr> <tr> <td>4</td><td>3. リスクの種類による医療安全対策① 1) 職業感染 (1) 看護師が直面する様々な職業感染</td><td>講義 演習</td><td>感染管理専従 看護師</td></tr> <tr> <td>5</td><td>4. リスクの種類による医療安全対策② 1) 転倒・転落 2) 入浴介助中のインシデント・医療事故</td><td>講義 演習</td><td>作業療法士 or 理学療法士</td></tr> <tr> <td>6</td><td>5. リスクの種類による医療安全対策③ 1) 薬剤関連</td><td>講義 演習</td><td>薬剤師</td></tr> <tr> <td>7</td><td>6. リスクの種類による医療安全対策④ 1) 医療機器関連</td><td>講義 演習</td><td>臨床工学技士</td></tr> <tr> <td>8</td><td>筆記試験</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回	内容	方法	担当	1	1. 医療安全の基本的考え方 1) 医療事故と医療安全の定義 2) 国の医療安全対策 3) 組織の医療安全対策	講義	医療安全管理者	2	4) 医療機関におけるインシデントや医療事故の報告制度 5) 看護職の法的責任と看護職賠償責任保険制度	講義 GW	医療安全管理者	3	2. 種類・状況別にみた医療安全対策 1) 看護師が関与した医療事故/ヒヤリハット「KYT」	講義 演習	医療安全管理者	4	3. リスクの種類による医療安全対策① 1) 職業感染 (1) 看護師が直面する様々な職業感染	講義 演習	感染管理専従 看護師	5	4. リスクの種類による医療安全対策② 1) 転倒・転落 2) 入浴介助中のインシデント・医療事故	講義 演習	作業療法士 or 理学療法士	6	5. リスクの種類による医療安全対策③ 1) 薬剤関連	講義 演習	薬剤師	7	6. リスクの種類による医療安全対策④ 1) 医療機器関連	講義 演習	臨床工学技士	8	筆記試験		
回	内容	方法	担当																																				
1	1. 医療安全の基本的考え方 1) 医療事故と医療安全の定義 2) 国の医療安全対策 3) 組織の医療安全対策	講義	医療安全管理者																																				
2	4) 医療機関におけるインシデントや医療事故の報告制度 5) 看護職の法的責任と看護職賠償責任保険制度	講義 GW	医療安全管理者																																				
3	2. 種類・状況別にみた医療安全対策 1) 看護師が関与した医療事故/ヒヤリハット「KYT」	講義 演習	医療安全管理者																																				
4	3. リスクの種類による医療安全対策① 1) 職業感染 (1) 看護師が直面する様々な職業感染	講義 演習	感染管理専従 看護師																																				
5	4. リスクの種類による医療安全対策② 1) 転倒・転落 2) 入浴介助中のインシデント・医療事故	講義 演習	作業療法士 or 理学療法士																																				
6	5. リスクの種類による医療安全対策③ 1) 薬剤関連	講義 演習	薬剤師																																				
7	6. リスクの種類による医療安全対策④ 1) 医療機器関連	講義 演習	臨床工学技士																																				
8	筆記試験																																						
テキスト	川村治子：系統看護学講座 統合分野 医療安全，医学書院																																						
参考文献	川村治子：医療安全ワークブック，医学書院 第2版 松下由美子，他：医療安全，MCメディカ出版 第1版 村上三好：写真でわかる看護安全管理，インターメディカ 河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー，医学書院 嶋森好子，他：医療安全とリスクマネジメント，ヌーヴェルヒロカワ																																						
授業方法	講義・演習形式																																						
評価方法	筆記試験（100点）で評価する。																																						
履修上の アドバイス	グループワーク・演習を多く取り入れているので、積極的な姿勢で臨むこと。																																						

授業科目	基礎・臨床看護技術の統合				
担当講師	専任教員 柳沼美穂子 坂本真理 知々田綾				
履修時期	3 学年 後期		単位数・時間	1 単位 30 時間	
授業目標	1. 既習の知識・技術を統合し、対象の状態に応じた安全・安楽な看護の実践を統合的に考える基礎的能力を養う。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1 2		1. 看護業務における多重課題への対処 1) 看護業務中の多重課題 2) 多重課題への対処 ①時間管理 ②タイムスケジュール ③優先順位 3) 多重課題発生時の対処の原則 ①優先順位の判断基準 ②安全な業務の遂行・エラー防止	講義 演習	
	3 4		2. 事例をもとにしたシミュレーション学習 1) 多床室における検温 ①受け持ち部屋の状況設定・課題の明確化 ②バーパ-シミュレーション(タイムスケジュール作成) ③実技演習 ・必要な技術の再確認 ・タイムスケジュールに沿った実践	GW 演習	
	5 6	事前課題 技術練習	④実技発表 ・ブリーフィング ・シミュレーション ・デブリーフィング	演習	実技発表後の振り返り
	7 8		2) 急変時シミュレーション① ①受け持ち部屋の状況設定・課題の明確化 ②バーパ-シミュレーション(タイムスケジュール作成) ③実技演習 ・必要な技術の再確認 ・タイムスケジュールに沿った実践	GW 演習	
	9 10	事前課題 技術練習	④実技発表 ・ブリーフィング ・シミュレーション ・デブリーフィング	演習	実技発表後の振り返り
	11 12		3) 急変時シミュレーション② ①受け持ち部屋の状況設定・課題の明確化 ②バーパ-シミュレーション(タイムスケジュール作成) ③実技演習 ・必要な技術の再確認 ・タイムスケジュールに沿った実践	GW 演習	
	13 14	事前課題 技術練習	④実技発表 ・ブリーフィング ・シミュレーション ・デブリーフィング	演習	実技発表後の振り返り
	15		終講試験・まとめ 事例に応じた看護実践のための知識の確認 多重課題状況設定問題など	試験	
テキスト	1. 系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 2. 系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院 3. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院				
参考文献	《DVD》急変時のアセスメントと看護 (インターメディカ)				
授業方法	講義・演習				
評価方法	筆記試験 (50 点)、ポートフォリオ (30 点)、取り組み姿勢 (20 点) の合算を科目評価点とし、課題提出期間内に提出できなかった場合は、総合点から 3 点減点とする。				
履修上の アドバイス	これまで培った実践力を活用し、チームで協働して働くとはどういうことか、時間の制約がある中で患者の安全と安楽・自立を基盤に大切にしたい看護を行動に示していくとはどういうことかを学ぶ。演習を通して出来事の緊急性や重要性を見極め、優先順位・自身の力量を判断し、他者への協力要請をしながら必要な看護を遂行する力を養う。また、将来の自分自身の姿をイメージしながら、自身の課題や目標を見出す。				

授業科目	災害看護																																		
担当講師	DMAT 災害支援ナース 看護師 室井久美江 / 消防士 甲賀隆司																																		
履修時期	3学年 後期	単位数・時間	1単位 15時間																																
授業目標	災害における看護の役割を理解し、基礎的能力を習得する。																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th><th>方法</th><th>担当</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>1. 災害保健医療の理解 2. 国際貢献 1) 世界における災害保健医療の潮流 (1) 被災国の役割と責任 (2) 国際社会における保健医療支援の調整メカニズム 2) 国際貢献 (1) 国際的な災害支援</td><td>講義</td><td rowspan="5">DMAT 災害支援ナース</td></tr> <tr> <td>2</td><td>1. 超急性期の災害保健医療と看護実践 2. 急性期・亜急性期の災害保健医療と看護実践</td><td>講義 演習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>1. 慢性期の災害保健医療と看護実践 2. 静穏期の災害保健医療と看護実践</td><td>講義 演習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>1. 要配慮者への看護 1) 要配慮者の救護 2) 子どもへの看護 2. 災害時のメンタルヘルス 1) 被災者 2) 遺族 3) 支援者</td><td>講義 演習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>1. 災害に関連した特殊な医療・看護実践 1) 瓦礫の下の医療 (CSM) 2) CBRNE (シーバーン) への対応 2. 災害時特有の疾病 1) 圧挫症候群 2) 深部静脈血栓症・肺動脈血栓症塞栓症 3) 四肢外傷 4) 熱傷 5) 津波肺 6) たこつぼ心筋症 7) 爆傷</td><td>講義 演習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>災害訓練</td><td>講義 演習</td><td>消防士</td></tr> <tr> <td>7</td><td>福島県民としての放射線災害・看護師の役割</td><td>講義 GW</td><td>DMAT 災害支援ナース</td></tr> <tr> <td>8</td><td>筆記試験</td><td></td><td>DMAT 災害支援ナース</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	方法	担当	1	1. 災害保健医療の理解 2. 国際貢献 1) 世界における災害保健医療の潮流 (1) 被災国の役割と責任 (2) 国際社会における保健医療支援の調整メカニズム 2) 国際貢献 (1) 国際的な災害支援	講義	DMAT 災害支援ナース	2	1. 超急性期の災害保健医療と看護実践 2. 急性期・亜急性期の災害保健医療と看護実践	講義 演習	3	1. 慢性期の災害保健医療と看護実践 2. 静穏期の災害保健医療と看護実践	講義 演習	4	1. 要配慮者への看護 1) 要配慮者の救護 2) 子どもへの看護 2. 災害時のメンタルヘルス 1) 被災者 2) 遺族 3) 支援者	講義 演習	5	1. 災害に関連した特殊な医療・看護実践 1) 瓦礫の下の医療 (CSM) 2) CBRNE (シーバーン) への対応 2. 災害時特有の疾病 1) 圧挫症候群 2) 深部静脈血栓症・肺動脈血栓症塞栓症 3) 四肢外傷 4) 熱傷 5) 津波肺 6) たこつぼ心筋症 7) 爆傷	講義 演習	6	災害訓練	講義 演習	消防士	7	福島県民としての放射線災害・看護師の役割	講義 GW	DMAT 災害支援ナース	8	筆記試験		DMAT 災害支援ナース
回	内容	方法	担当																																
1	1. 災害保健医療の理解 2. 国際貢献 1) 世界における災害保健医療の潮流 (1) 被災国の役割と責任 (2) 国際社会における保健医療支援の調整メカニズム 2) 国際貢献 (1) 国際的な災害支援	講義	DMAT 災害支援ナース																																
2	1. 超急性期の災害保健医療と看護実践 2. 急性期・亜急性期の災害保健医療と看護実践	講義 演習																																	
3	1. 慢性期の災害保健医療と看護実践 2. 静穏期の災害保健医療と看護実践	講義 演習																																	
4	1. 要配慮者への看護 1) 要配慮者の救護 2) 子どもへの看護 2. 災害時のメンタルヘルス 1) 被災者 2) 遺族 3) 支援者	講義 演習																																	
5	1. 災害に関連した特殊な医療・看護実践 1) 瓦礫の下の医療 (CSM) 2) CBRNE (シーバーン) への対応 2. 災害時特有の疾病 1) 圧挫症候群 2) 深部静脈血栓症・肺動脈血栓症塞栓症 3) 四肢外傷 4) 熱傷 5) 津波肺 6) たこつぼ心筋症 7) 爆傷	講義 演習																																	
6	災害訓練	講義 演習	消防士																																
7	福島県民としての放射線災害・看護師の役割	講義 GW	DMAT 災害支援ナース																																
8	筆記試験		DMAT 災害支援ナース																																
テキスト	災害看護学・国際看護学 医学書院																																		
参考文献																																			
授業方法	講義・演習形式																																		
評価方法	筆記試験・レポートで評価する。																																		
履修上のアドバイス	グループワーク・演習を多く取り入れているので、積極的な姿勢で臨むこと。																																		